

「次世代起点でありたい未来をつくる。
傾聴と対話で、多様な個をつむぎ、共
にあらたな価値をつむいでいく。」

2022

若者意識調査

サステナビリティ、金融
経済教育、キャリア等に
関する意識



日本総研
The Japan Research Institute, Limited

■ はじめに

「2022 若者意識調査 ―サステナビリティ、金融経済教育、キャリア等に関する意識―」（以下、本調査）は、2020年5月に実施した「若者の意識調査（報告） ― ESG および SDGs、キャリア等に対する意識 ―」（注1）に続き、国内の中学生、高校生、大学生を対象に、サステナビリティ、金融経済教育、キャリア等に関する意識についてウェブアンケート調査を実施したものである。

本調査の目的は、サステナビリティや金融経済教育など、社会のトレンドとなっているキーワードについて、将来社会を担う若者がどのような意識を持っているかを知ること、企業や団体などが政策提言、経営戦略、人材育成等の検討に活用することである。また、そうした若者の意識がキャリアや結婚観等に与える影響等についての示唆を得ることを期待している。

■ 調査の実施方法

- 調査期間および実施方法：2022年11月30日から2022年12月2日にかけてウェブ調査により実施。
- 調査対象：国内の中学生、高校生、大学生を対象とした。GMOリサーチ株式会社の調査パネル1,000人から回答を受領。
- レポート集計対象：中学生300人（男子150人、女子150人）、高校生300人（男子150人、女子150人）、大学生400人（男子200人、女子200人）
*中学生については、保護者を通じてアンケート調査の依頼を行った。

（注1）

「若者の意識調査（報告） ― ESG および SDGs、キャリア等に対する意識 ―」

<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=36941>

2023年8月10日
調査担当チーム一同
橋爪、小島、青山

<本調査に関する問い合わせ先>

シニアマネジャー [橋爪 麻紀子](#)

（専門分野：サステナビリティ、教育）

スペシャリスト [小島 明子](#)

（専門分野：生涯キャリア）

リサーチアナリスト [青山 温子](#)

（専門分野：産業調査・消費者調査）

メールアドレス：100860-SAKI[at]ml.jri.co.jp

■ エグゼクティブ・サマリー	3
■ 回答者の属性と傾向	7
1. サステナビリティ	12
1.1. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心	12
1.2. 関心のある環境問題や社会課題	13
1.3. 環境問題や社会課題の解決意欲	14
1.4. 日頃行っている社会貢献活動	15
1.4.1. 社会貢献活動の実施場所	16
1.4.2. 寄付経験	17
1.5. SDGs（持続可能な開発目標）の認知	19
1.6. 関心のある SDGs の 17 の目標	20
1.7. SDGs に対する考え	23
2. 金融・経済教育	24
2.1. 金融や経済への関心	24
2.2. 環境問題や社会課題に取り組む企業の認知経路	26
2.3. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組む企業の商品かどうかの意識	28
2.4. 金融や経済に関して学ぶ機会	29
2.5. 金融や経済についての理解度	32
2.6. ESG 投資やサステナブル・ファイナンスの認知	35
2.7. 投資の意欲	36
2.8. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資の意欲	38
2.8.1. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない理由	40
2.9. 環境問題や社会課題に関心をより深めるきっかけ	41
3. キャリア意識	43
3.1. 現在のキャリア意識	43
3.2. 結婚後に希望する働き方	53
3.2.1. 結婚後に希望する働き方_子どもがいない場合	53
3.2.2. 結婚後に希望する働き方_子どもがいる場合	55
3.3. 多様な結婚に対する意識	57
3.3.1. 多様な結婚に対する意識_自分が結婚する場合	58
3.3.2. 多様な結婚に対する意識_家族が結婚する場合	60
3.3.3. 多様な結婚に対する意識_友人が結婚する場合	62
3.3.4. 多様な結婚に対する意識_自分の関係者以外が結婚する場合	64
3.4. 就職したい企業や団体の条件	66
3.5. 環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲	67
4. 平和に関して	69
4.1. 平和に対する意識	69
4.1.1. 現在の日本の平和に対する意識	70
4.1.2. 将来の日本の平和に対する意識	71
4.1.3. 憲法 9 条の改正に対する考え	72
4.1.4. 憲法 9 条改正の議論の是非に対する考え	73
4.2. 日本の平和を守るために大事なこと	74
5. 次世代からのメッセージ	77
5.1. 日本の企業に向けたメッセージ	77
5.2. 大人たちに向けたメッセージ	82

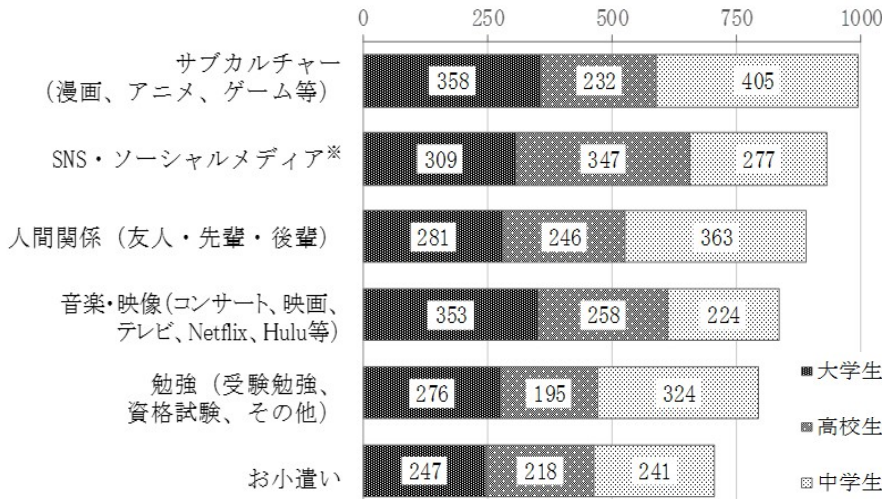
■ エグゼクティブ・サマリー

■ 回答者の属性と傾向

前回調査（2020年）と同様に、中学生 300人（男子 150人、女子 150人）、高校生 300人（男子 150人、女子 150人）、大学生 400人（男子 200人、女子 200人）から有効な回答を得た。中学生については、保護者を通じてアンケート調査の依頼を行った。調査対象の関心は、高位順に「サブカルチャー（漫画、アニメ、ゲーム等）」、「SNS・ソーシャルメディア*」、「人間関係（友人・先輩・後輩）」と続く。

Ex 1：若者が関心を持っていることの上位

(*合計10点を持ち点として関心の高さに合わせて採点)



* YouTube、Twitter、TikTok、LINE、Facebook、Instagram 等

■ サステナビリティ

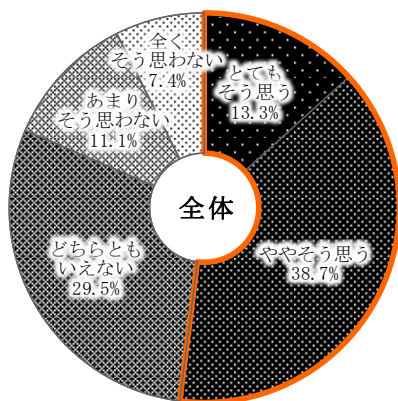
国内や海外の環境問題や社会課題への関心を持つ若者の割合は、前回調査と大きな変化はないが、関心のある環境問題や社会課題の内容については変化がみられた。前回調査ではコロナ感染拡大期と調査時期が重なったこともあり「気候変動・温暖化」、続いて「医療・健康・感染症対策」への関心が高かった。一方、今回調査では、「人権（ハラスメント・いじめ・虐待・不登校・人種差別等）」への関心が最も高い結果となった。

前回同様の傾向として、全回答者の約半数が環境問題や社会課題への解決意欲があるものの、実際に日頃社会貢献活動等を行動に起こしているのは約 2 割程度である。

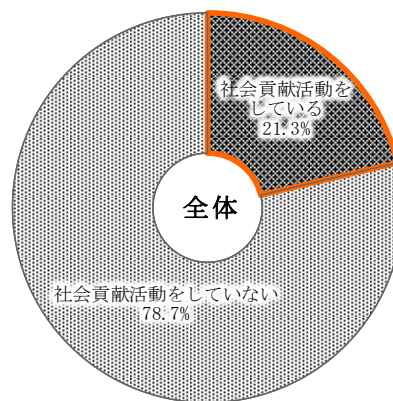
Ex 2：社会課題の解決意欲と行動のギャップ

環境問題・社会課題の解決の役にたちたいか

日頃社会貢献活動を行っているか



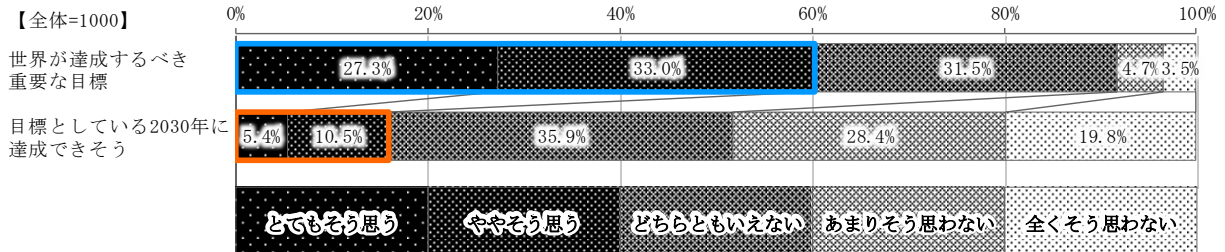
全体= 1000



全体= 1000

SDGs については、前回調査と比較すると「知っている」と回答した若者の割合は、全体の 44.2% から 73.4% に大きく上昇。特に、高校生および大学生においては 8 割超が知っている と回答している。全体の 60.3% が SDGs は「世界で達成すべき重要な目標」と思っているものの、「目標としている 2030 年に達成できそう」と考える若者は全体の 15.9% に留まっている。

Ex 3 : SDGsは「重要な目標」だが「達成するのは難しい」

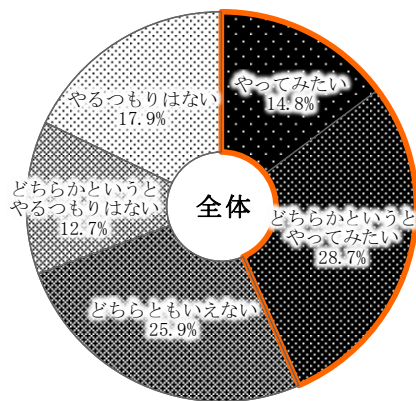


■ 金融・経済教育

金融や経済への関心を持つ若者の割合は全体で約 4 割であり、前回調査の調査実施時と大きく変わっていない。どの年齢においても男子のほうが女子よりも金融や経済への関心が高く、金融経済教育の理解度についても同様に男子が女子よりも高い。若者が金融や経済を学ぶ機会は、大学、高校、中学ともに、教員から学ぶ機会が最も多い。投資への意欲がある若者のうち (n=435)、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲を持つ若者は全体の約 7 割である。

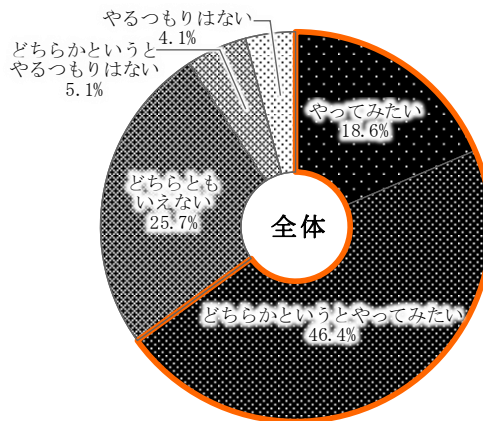
Ex 4 : 投資意欲のある若者の65%は 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に関心がある

投資をやってみたいと思うか



全体= 1000

環境問題や社会課題に取り組む企業への
投資に関心があるか



全体= 435

■ キャリア意識・結婚観

現在のキャリア意識として、「自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ」「興味・好奇心を追求して働くことが重要だ」「喜びや充足感を得るために働くことが重要だ」については、肯定的回答（「とてもそう思う」「ややそう思う」）が約 6 割に上る。

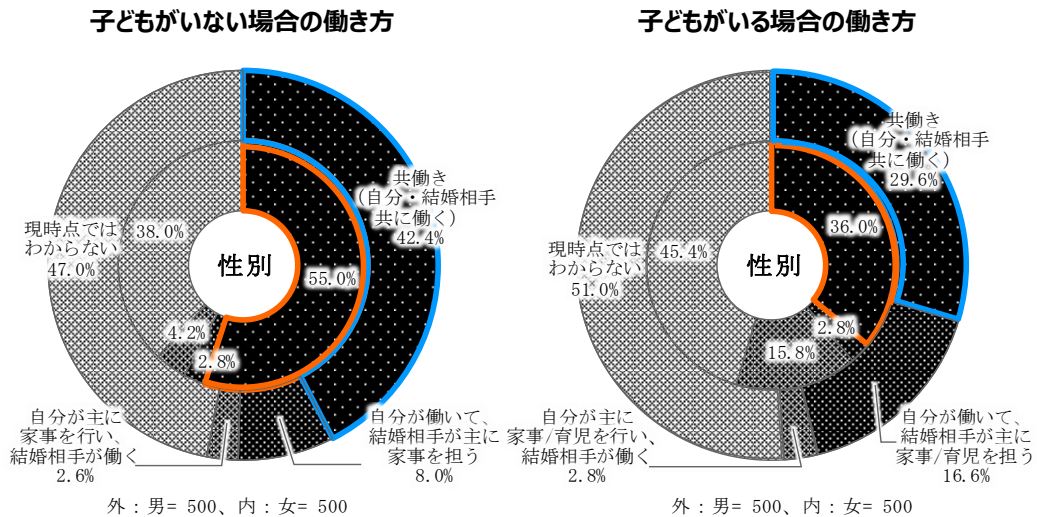
結婚後、子どもがいない場合に希望する働き方として、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」(48.7%) を選んだ若者が最も多い。また、男子 (42.4%) より多くの女子 (55.0%) が「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んでおり、女子の共働きへの意欲が高い状況がうかがえる。

就職したい企業や団体の条件として、年齢が上昇するにしたがって、重視する条件がやりがいを感じ

じられることから、人間関係のよさにシフトしている。

多様な結婚について、自分の関係者以外が結婚する場合の許容できる結婚形態として、事実婚が44.6%と最も高く、同性婚（41.2%）、別居婚（38.5%）、週末婚（38.2%）、通い婚（38.1%）、婚前契約（38.0%）、多重婚（23.6%）と続いている。

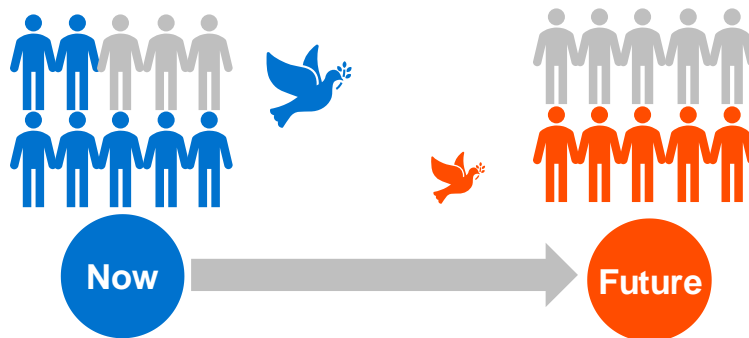
**Ex 5：将来結婚した後、子どもの有無にかかわらず
女性のほうが男性よりも共働きをしたいと思います**



■ 平和に関して

時事関連として、「日本の平和」「憲法 9 条」に関する設問を設けた。「現在の日本は平和である」と思う若者は全体の 70.7%である一方「将来の日本は平和である」と思う若者は全体の 49.1%であった。憲法 9 条の改正については、必要だと思う若者が全体の 49.9%と、必要だと思わない若者が 50.1%とほぼ意見が二分している。「憲法 9 条の改正の是非を議論することが必要だ」と思う若者は全体の 65.9%に上ることから、憲法 9 条の改正については、多くの若者がきちんと議論を行っていくことの必要性を認識している。

**Ex 6：現在の日本は平和だと思っている若者は70.7% だが、
将来の日本も平和だと思っている若者は49.1% である**



■ 次世代からのメッセージ

「次世代からのメッセージ」として企業に向けたもの、大人に向けたものの 2 種類を自由記述で設定し、回答結果全文について AI テキストマイニング (*) を実施したところ、それぞれの特徴的なコメントがハイライトされて抽出された。政権や企業姿勢への批判的なメッセージも多いなか、少数意見ではコロナ化で努力する企業や大人たちへの激励のメッセージもみられた。

Ex 7 : 次世代からのメッセージ（ハイライト版）

企業に向けたメッセージ

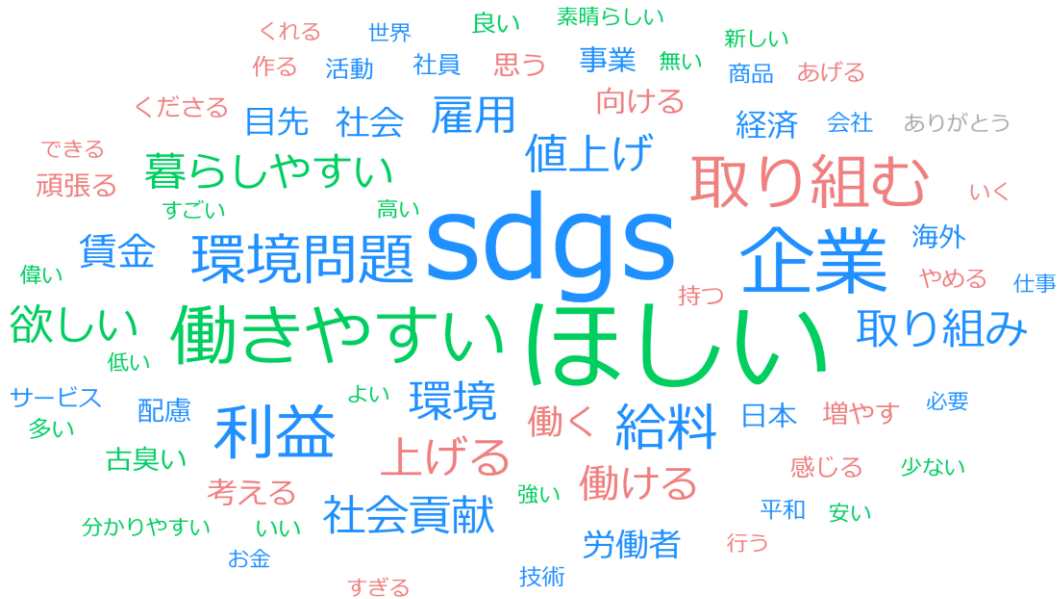
景気が良くなるようにしてほしい
 値段を上げるなら給料も上げてほしい
 日本のための行動をしてほしい
 みんなが働けるように雇用してほしい
 日本の技術を上げてほしい
 従業員をもっと大切にほしい。
 これからも諦めずに頑張してほしいです
 次の世代のことを考えてほしい
 内部留保の問題を解決してほしい。
 環境問題にも気をつけてください。

大人に向けたメッセージ

将来のことを考えて行動してほしい
 子供の見本となるようにしてほしい
 もっと子供の将来の事を考えてほしい
 問題を起こさないようにしてほしいです
 自分のことしか考えてないと思う。
 若者と日本の未来を考えてほしい。
 自分達のためだけに働かないで欲しい
 足の引っ張り合いをしないでください。
 あなたたちの時代と比較しないでください
 下の世代に課題を押し付けないでほしい

※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

Ex 8 : 次世代からのメッセージ （企業に向けたメッセージ 頻出ワード）



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

■ 回答者の属性と傾向

1. 性別・学齢

●中学生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、高校生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、大学生 400 人（男子 200 人、女子 200 人）から有効な回答を得た。なお、中学生については、保護者を通じてアンケート調査の依頼を行った。本調査においては、ウェイトバック集計は実施していない。

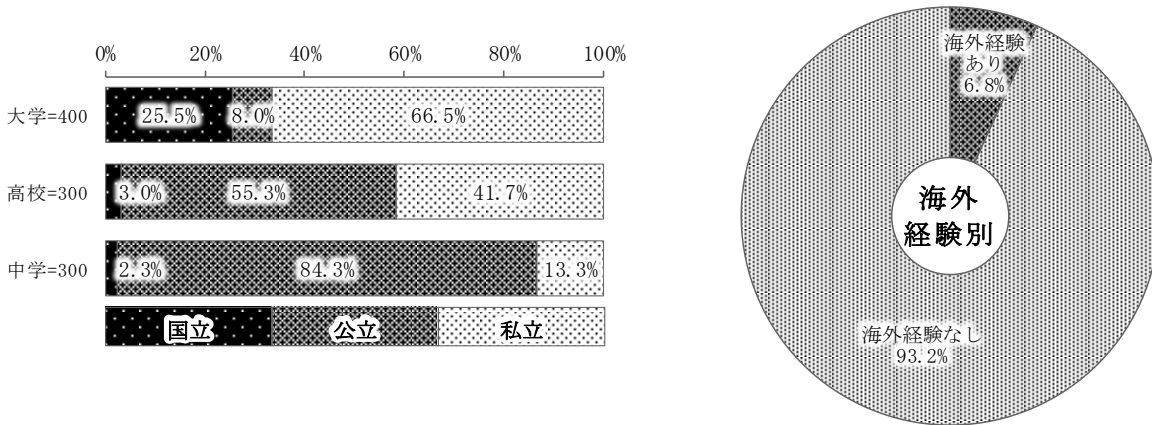
図表 A.1.性別・学齢

	大学生				高校生			中学生					
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	1 年生	2 年生	3 年生	1 年生	2 年生	3 年生			
全体	400	60	82	107	151	300	103	92	105	300	80	112	108
男	200	30	46	55	69	150	53	42	55	150	43	56	51
女	200	30	36	52	82	150	50	50	50	150	37	56	57

2. 学校種別・海外経験・居住地

- 大学・高校・中学の属性別にみた国立・公立・私立の割合は図表の通りである。大学では私立が半数以上を占めるが、中学では、国立・公立が約9割を占める。
- 全体のうち海外で教育を受けた経験があるのは全体の6.8%である。
- 回答者全体の居住地は、1都3県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）で36.3%を占める。

図表 A.2.学校種別・海外経験・居住地（単一選択）

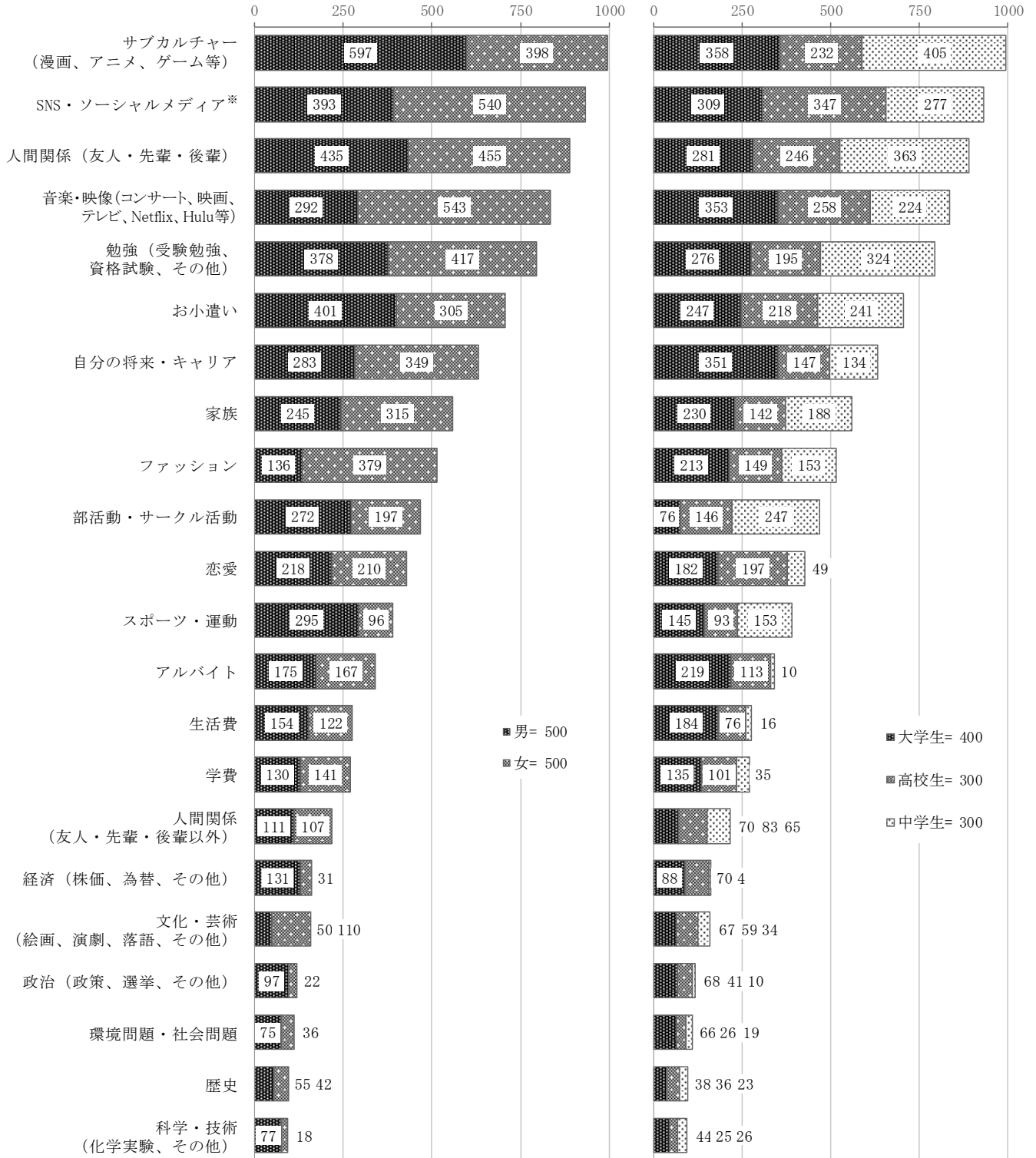


東京圏 36.3%		他地域 63.7%							
埼玉県	70	北海道	47	富山県	6	大阪府	67	愛媛県	5
千葉県	52	青森県	6	石川県	13	兵庫県	55	高知県	4
東京都	152	岩手県	11	福井県	4	奈良県	13	福岡県	32
神奈川県	89	宮城県	25	山梨県	1	和歌山県	4	佐賀県	5
		秋田県	7	長野県	15	鳥取県	4	長崎県	8
		山形県	5	岐阜県	18	島根県	5	熊本県	9
		福島県	13	静岡県	11	岡山県	23	大分県	8
		茨城県	18	愛知県	55	広島県	23	宮崎県	4
		栃木県	7	三重県	15	山口県	8	鹿児島県	12
		群馬県	8	滋賀県	14	徳島県	4	沖縄県	4
		新潟県	11	京都府	23	香川県	7		

3. 関心を持っていること

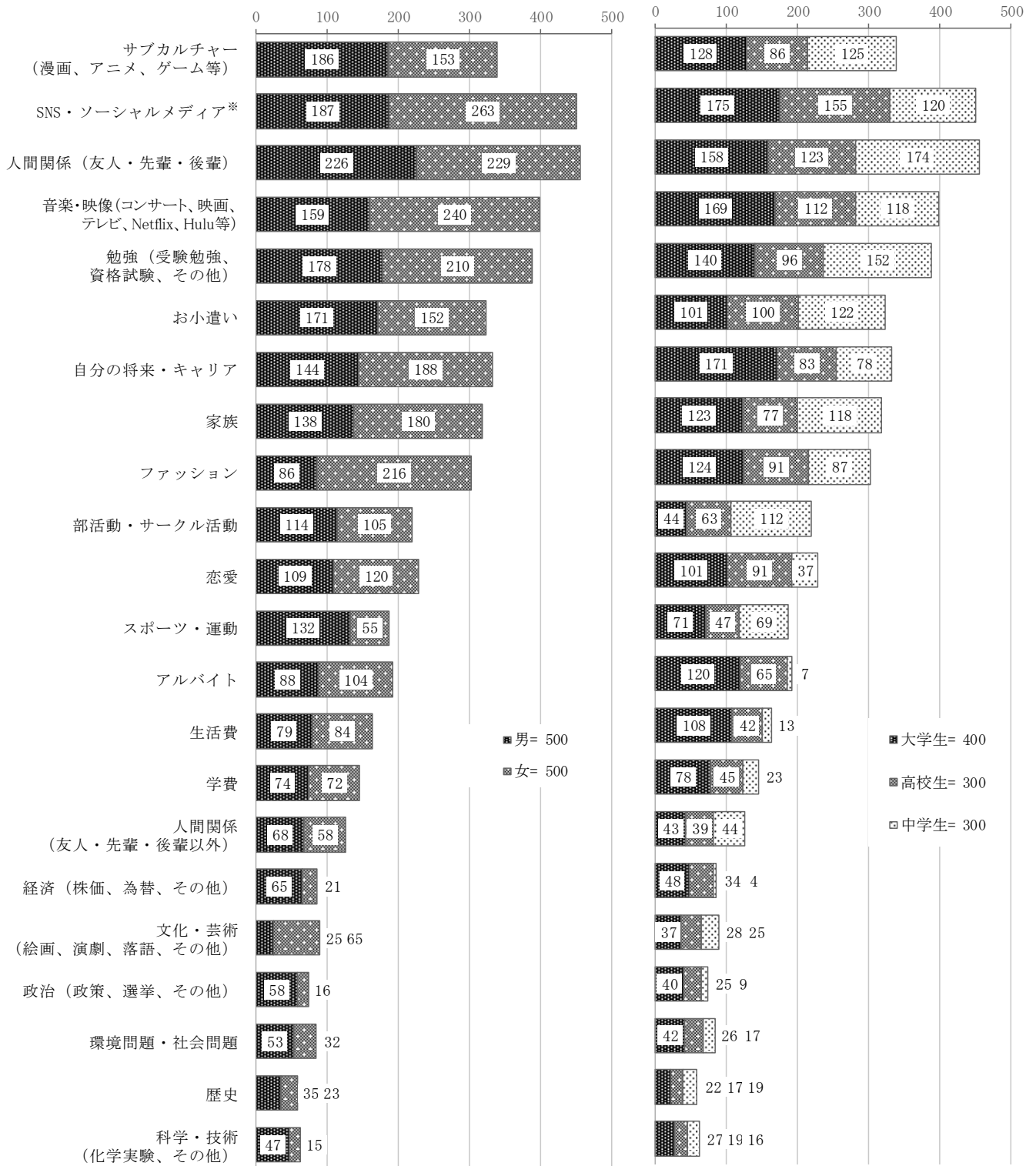
- 全体としては、「サブカルチャー（漫画、アニメ、ゲーム等）」、「SNS・ソーシャルメディア」、に対する関心が高く、「人間関係（友人・先輩・後輩）」が次点である。
- 男女間による関心の差が大きな項目として、「ファッション」においては女子が男子の約3倍、「スポーツ・運動」においては男子が女子の約3倍関心が高い。

図表 A.3. 関心を持っていること（合計10点を持ち点として、関心の高さにあわせて採点）



* YouTube、Twitter、TikTok、LINE、Facebook、Instagram 等

(参考) 図表 A.3.1. 関心を持っていること (点数を入れた人数)

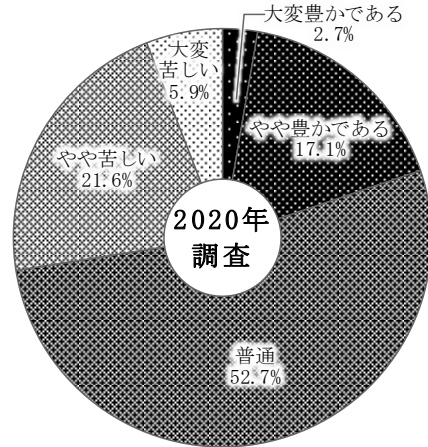
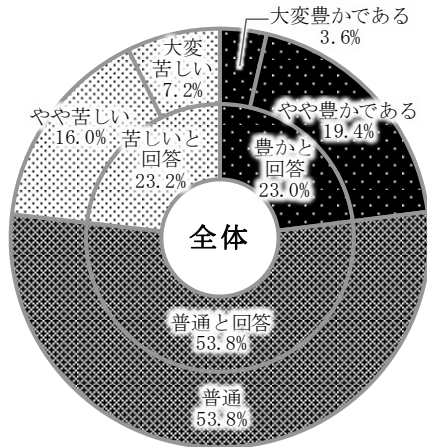


※ YouTube、Twitter、TikTok、LINE、Facebook、Instagram 等

4. 経済状態に対する意識

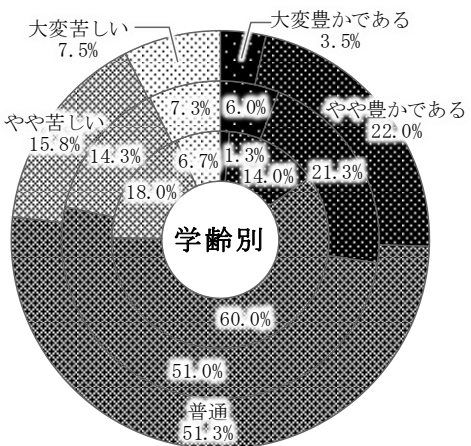
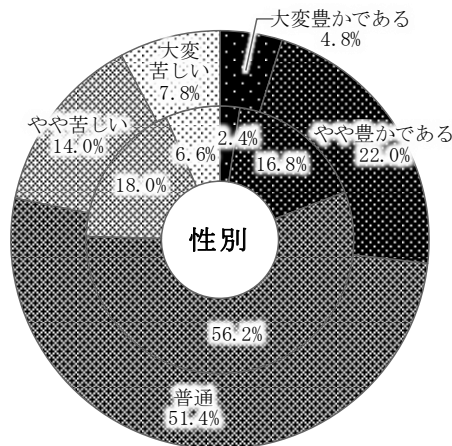
- 現在の経済状態として、普通（53.8%）と回答した若者が最も多く、豊か（「大変豊かである」「やや豊かである」と回答した若者（24.0%）は、苦しい（「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した若者（23.2%）とほぼ同数存在する。
- なお、本設問はあくまで回答者本人の意識を問うものであるため、実際の家庭の経済状態を表すものではない。回答者の経済状態に対する意識の差が、サステナビリティ、金融経済、キャリア等に対する意識の差に影響を与えているのではないかという仮説を確認することを目的としたものである。

図表 A.4.経済状態（単一選択）



外：調査結果、内：この報告書で用いている属性分類

全体=1000



外：男= 500、内：女= 500

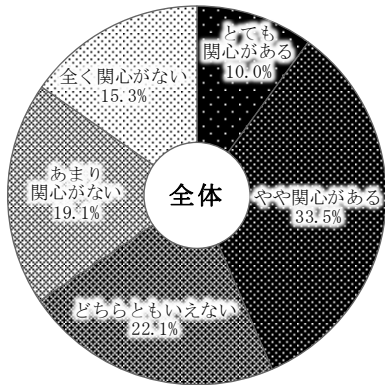
外：大学生= 400、中：高校生= 300、内：中学生= 300

1. サステナビリティ

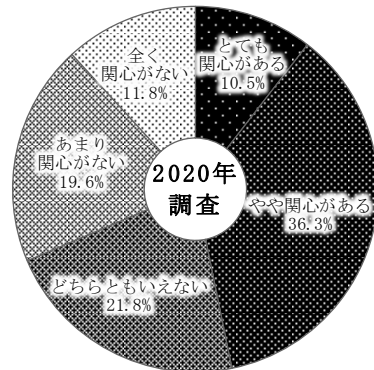
1.1. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心

- 国内や海外の環境問題や社会課題への関心を持つ（「とても関心がある」、「やや関心がある」、以下同様）若者は、全体の43.5%である。
- 学齢別では、中学生（23.0%）の関心はさほど高くないが、高校生（54.0%）になると環境問題や社会課題に関心を持つ若者が増えている。大学生（51.1%）であり、高校生とさほど変わらない。
- 経済状態別では、豊かと回答した若者のうち、環境問題・社会課題に関心を持つ回答者は63.1%である。一方、苦しい（38.8%）・普通（37.1%）であり、豊かと回答した若者と比べるとそのギャップは大きい。

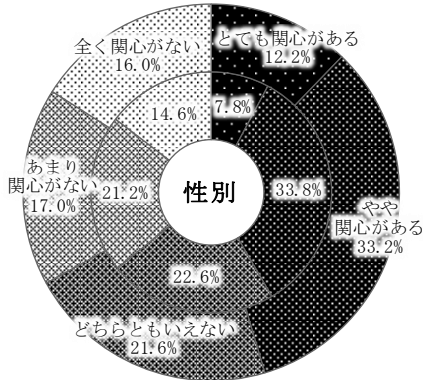
図表 1.1.国内や海外の環境問題や社会課題への関心（単一選択）



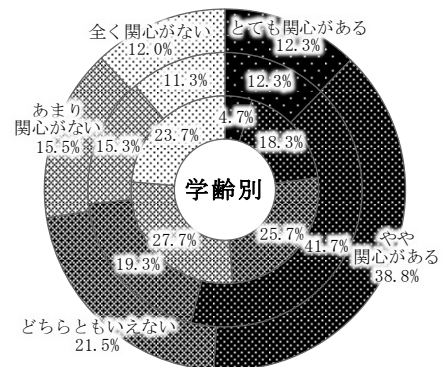
全体= 1000



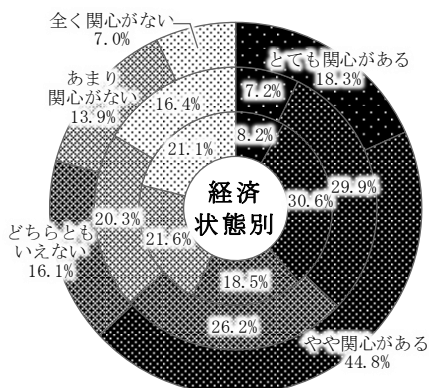
全体=1000



外：男= 500、内：女= 500



外：大学生= 400、中：高校生= 300、内：中学生= 300

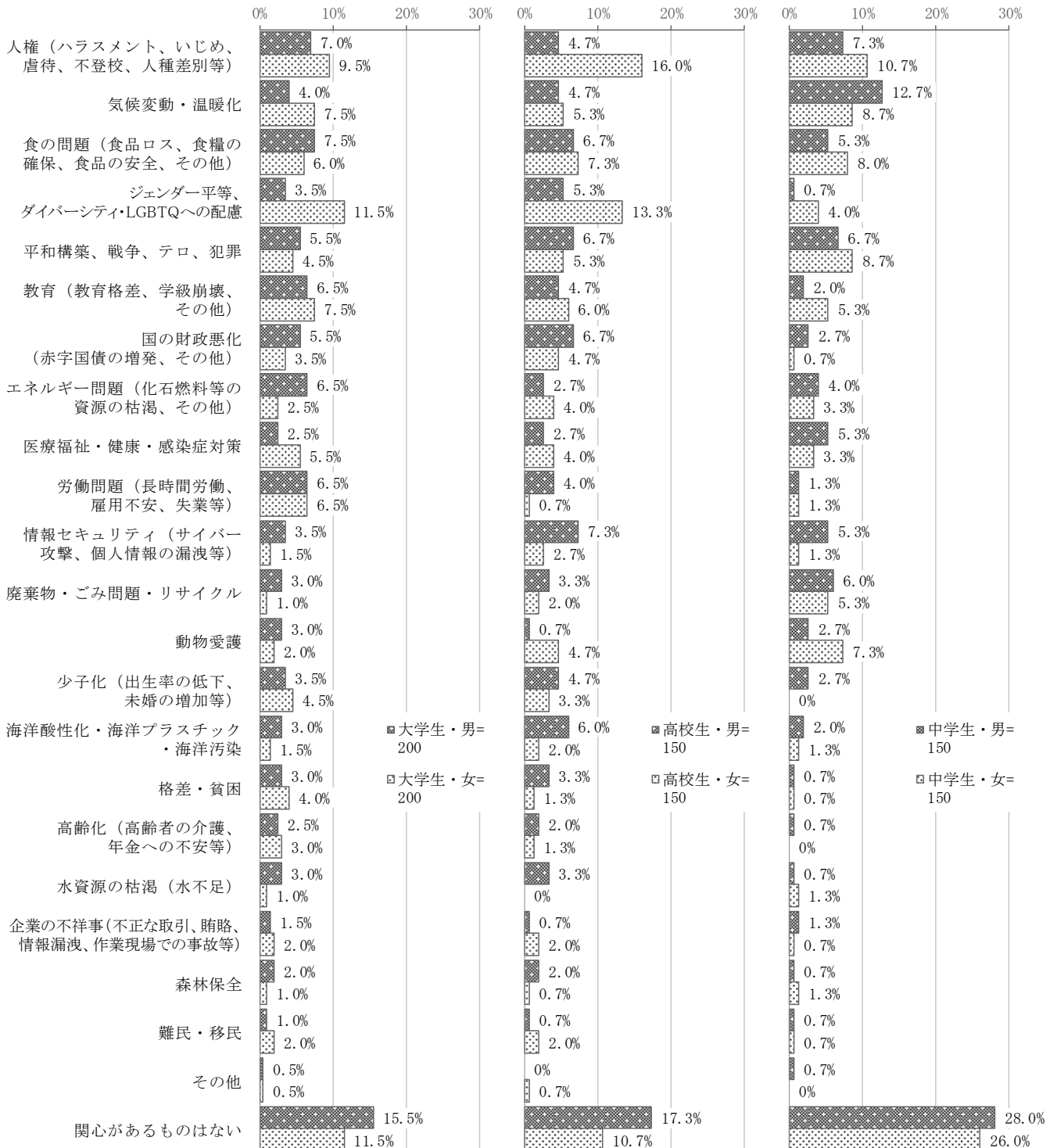


外：豊かと回答= 230、中：普通と回答= 538、内：苦しいと回答= 232

1.2. 関心のある環境問題や社会課題

- 年齢、性別を問わず、「人権（ハラスメント・いじめ・虐待・不登校・人種差別等）」への関心が最も高い。
- 女子は「ジェンダー平等、ダイバーシティ、LGBTQ」等への関心が同世代の男子に比べて高い。
- 前回調査ではコロナ感染拡大期と調査時期が重なったせいか「気候変動・温暖化」続いて「医療・健康・感染症対策」が最も関心が高かったが、今回はそのいずれもさほど大きな関心は見られない。
- 大学生になると、男女ともに「労働問題（長時間労働、雇用不全、失業等）」への関心が高まっている。
- 「関心があるものはない」という回答は中学生が27.0%だが年齢が上がるにつれて減少している。

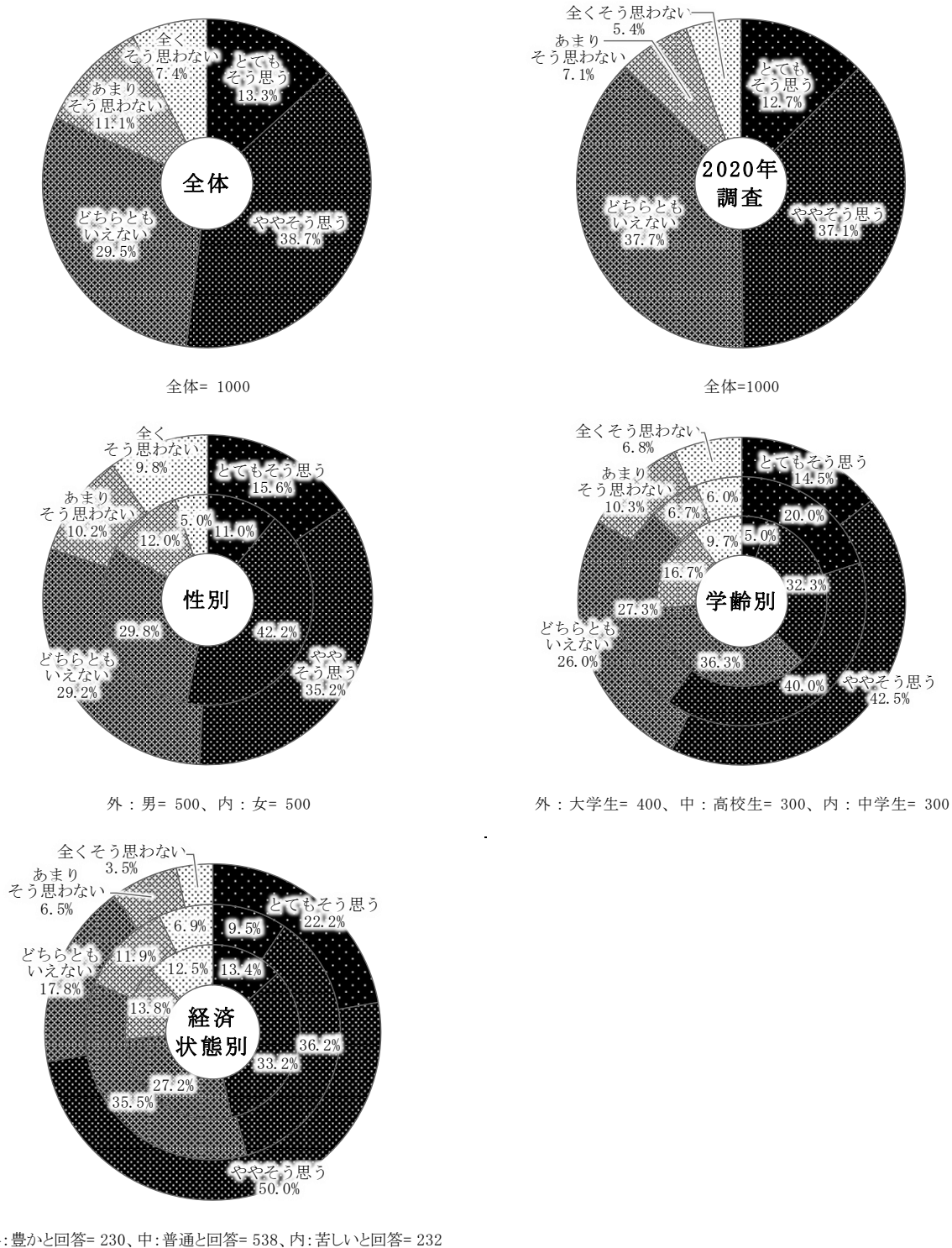
図表 1.2.関心のある環境問題や社会課題（1位）



1.3. 環境問題や社会課題の解決意欲

- 環境問題や社会課題の解決の役にたちたいか尋ねたところ、現在、環境問題や社会課題の解決意欲を持つ（「非常にそう思う」、「やや思う」）若者は、約半数（52.0%）である。
- 学齢別では、中学生（37.3%）の解決意欲が高くない一方、高校生（60.0%）・大学生（57.0%）になると、環境問題や社会課題の解決に意欲を持つ若者が多い。
- 経済状況別では、豊かと回答した若者（72.2%）の解決意欲が高く、苦しいと回答した若者（46.6%）、普通と回答した若者（46.7%）と続く。

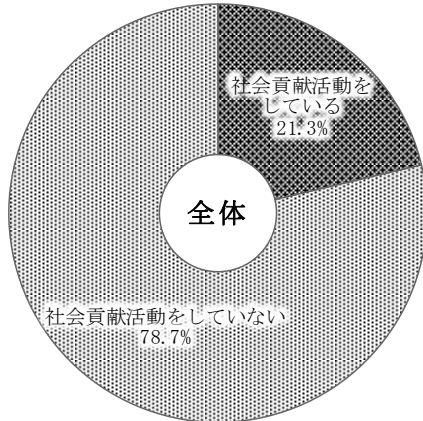
図表 1.3.環境問題や社会課題の解決意欲（単一選択）



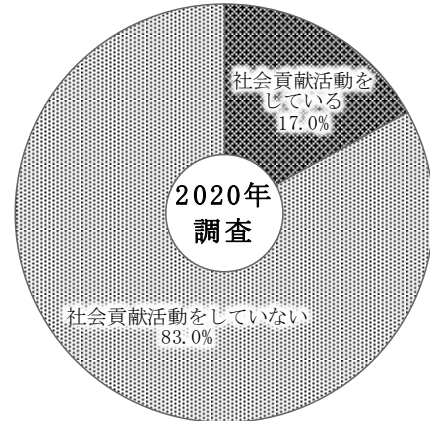
1.4. 日頃行っている社会貢献活動

- 社会貢献活動を行っている若者は全体の21.3%で女子(17.6%)より男子(25.0%)のほうがやや多い。
- 経済状況別では、豊かと回答した若者が32.6%と最も多く、苦しいと回答した若者(19.4%)、普通と回答した若者(17.3%)と続く。

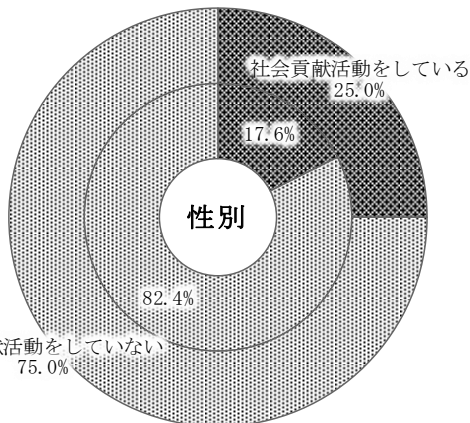
図表 1.4. 日頃行っている社会貢献活動 (単一選択)



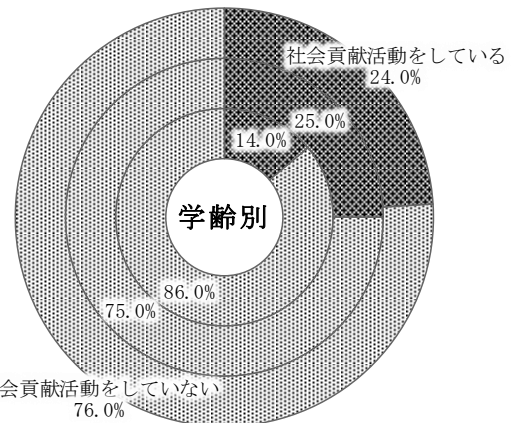
全体= 1000



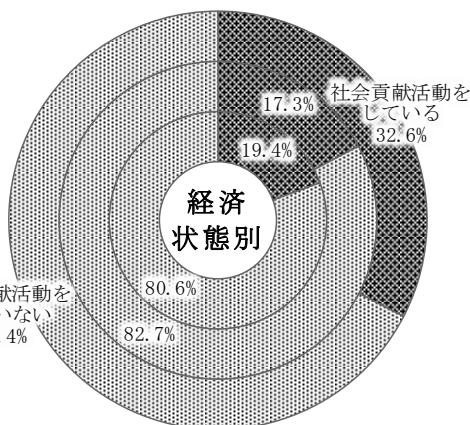
全体=1000



外：男= 500、内：女= 500



外：大学生= 400、中：高校生= 300、内：中学生= 300

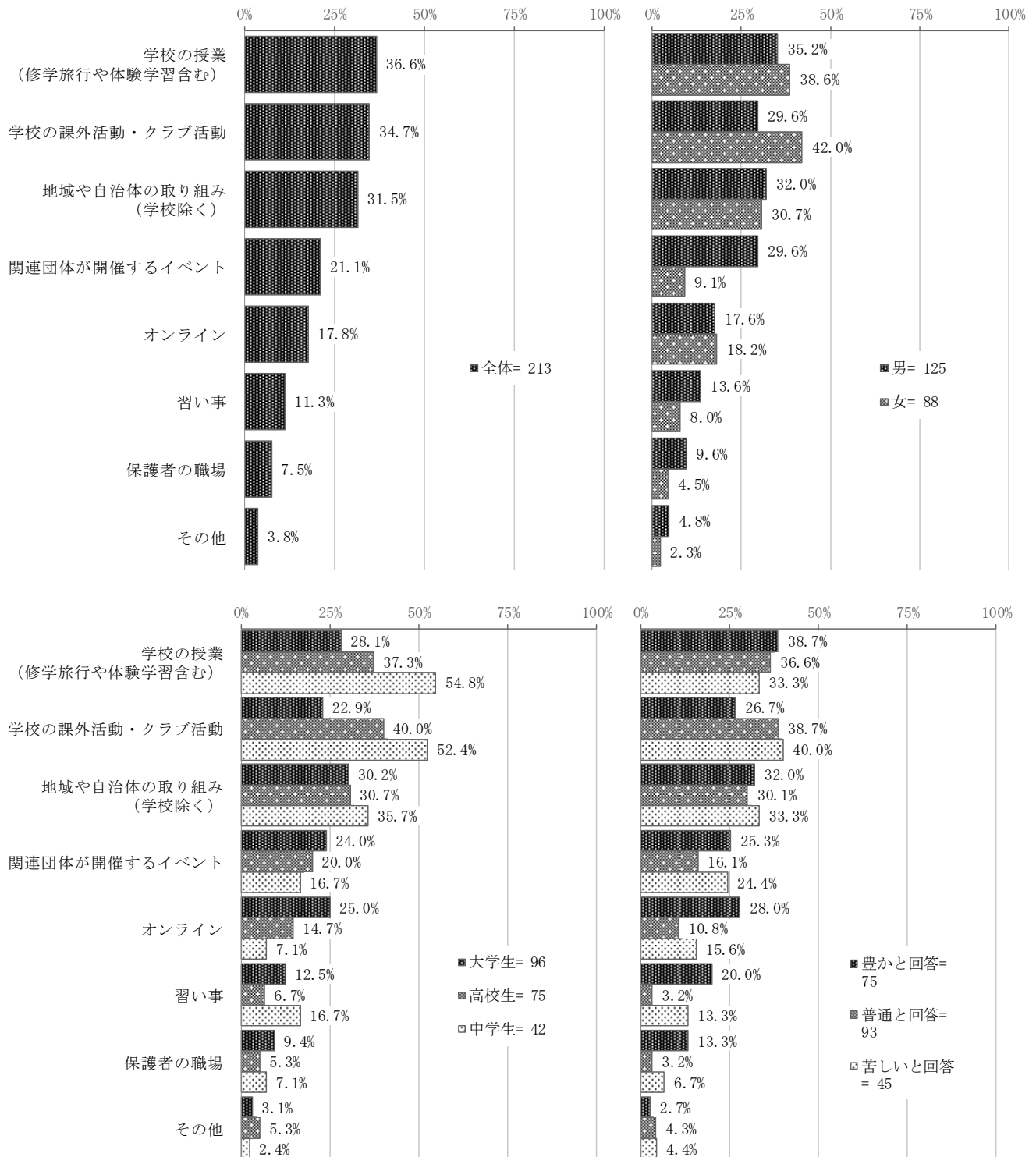


外：豊かと回答= 230、中：普通と回答= 538、内：苦しいと回答= 232

1.4.1. 社会貢献活動の実施場所

- 前の設問で「社会貢献活動を行っている」と回答した若者のうち (n=213)、日頃行っている社会貢献活動の場所として、最も多いのが「学校の授業 (修学旅行や体験学習含む)」(36.6%) であり、次に「学校の課外活動・クラブ活動」(34.7%) である。
- 女子は「学校の課外活動・クラブ活動」(42.0%) が多く、男子は「学校の授業 (修学旅行や体験学習含む)」(35.2%) が多い。

図表 1.4.1.社会貢献活動の実施場所 (複数選択)

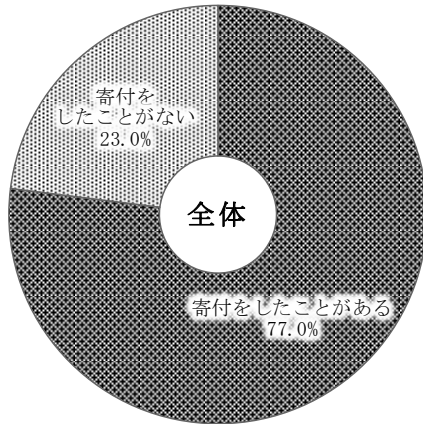


注 「その他」には、「自宅」「献血センター」「サークルで」「ゴミ拾い」「駅周辺」「募金」があった。

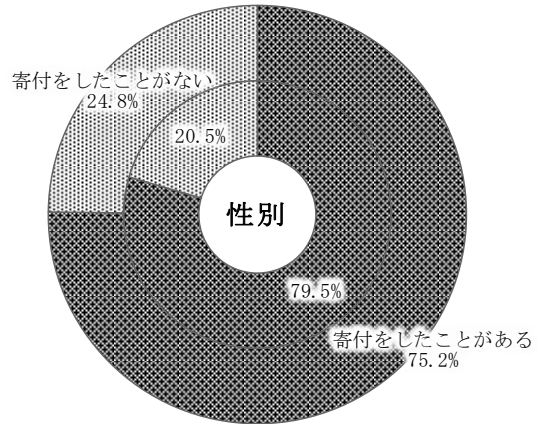
1.4.2. 寄付経験

●前の設問で「社会貢献活動を行っている」と回答した若者のうち (n=213) 77.0%が、自分のお金を使って「寄付をしたことがある」と回答している。性別、学齢別、経済状態別で大きな傾向の差はないが、海外経験があると回答した若者のほうが、海外経験がない若者よりも寄付を実施している比率が高い。

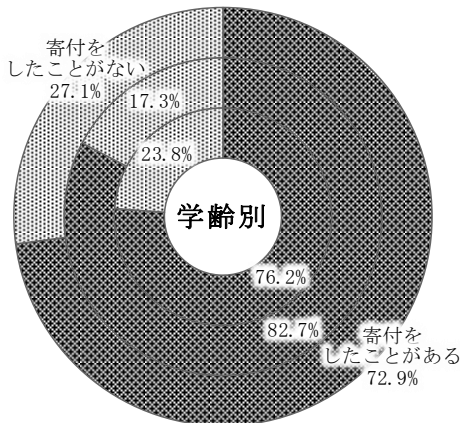
図表 1.4.2. 寄付経験 (単一選択)



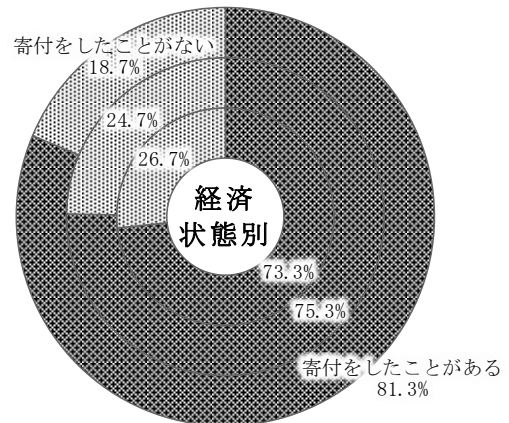
全体 = 213



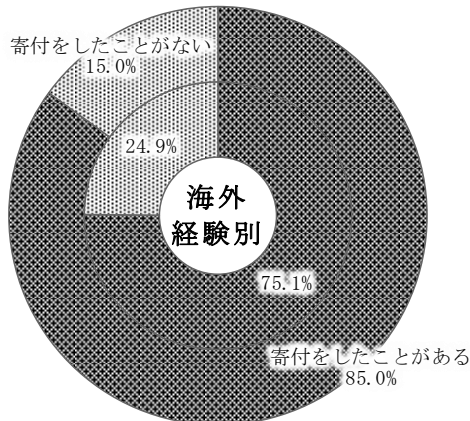
外：男 = 125、内：女 = 88



外：大学生 = 96、中：高校生 = 75、内：中学生 = 42



外：豊かと回答 = 75、中：普通と回答 = 93、内：苦しいと回答 = 45

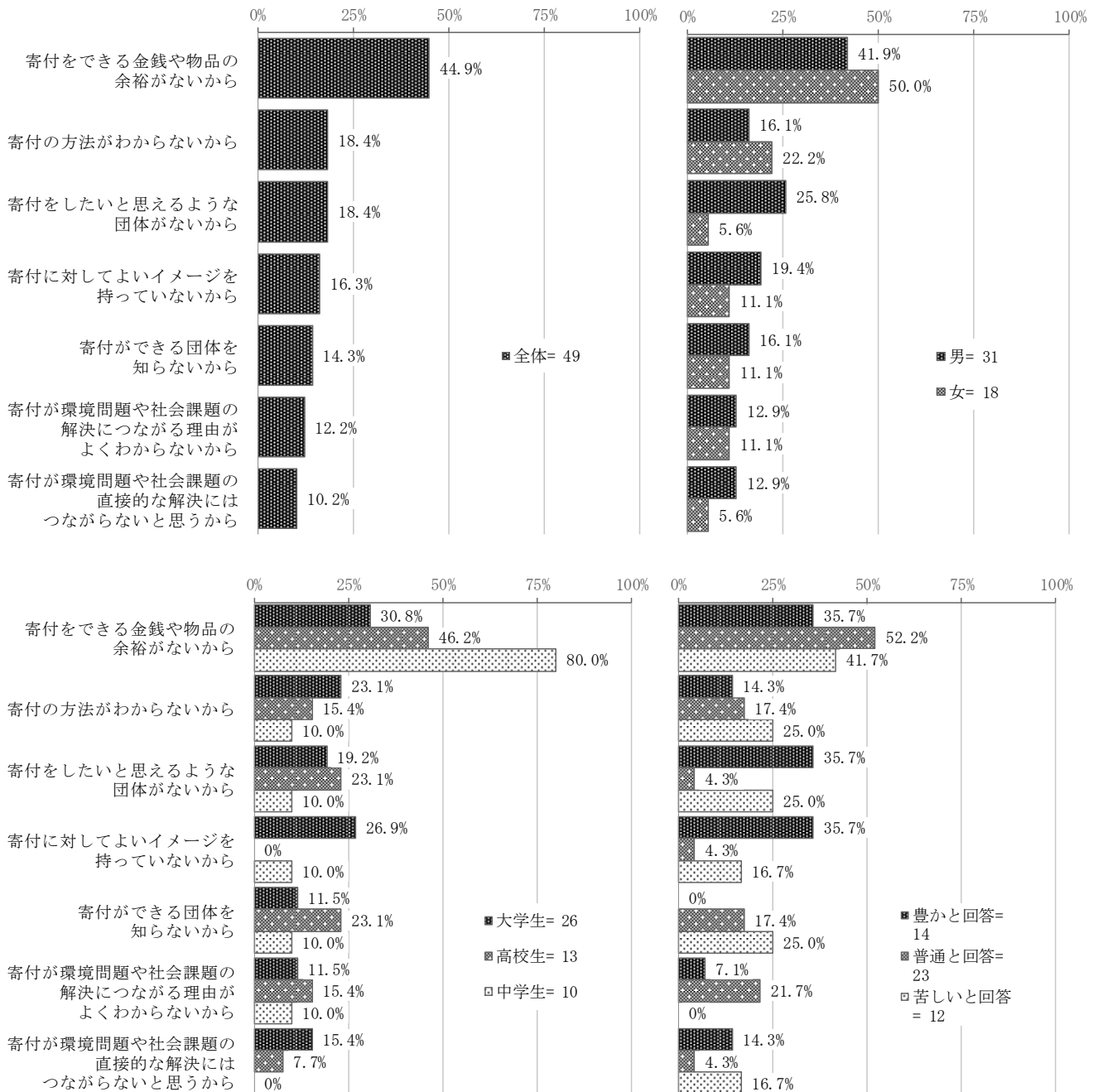


外：海外経験あり = 40、内：海外経験なし = 173

1.4.2.1. 寄付をしたことがない理由

- 社会貢献活動をしているが、寄付をしたことがないと回答した若者（n=49）に対して、その理由を確認したところ「寄付をできる金銭や物品の余裕がない」が約半数を占めた（44.9%）。特に、自分で裁量を持っている金銭・物品が比較的少ないであろう中学生による回答が多い。
- 経済状況別では、豊かと回答した若者のうち、「寄付をしたいと思えるような団体がないか」（35.7%）、「寄付に対してよいイメージを持っていないから」（35.7%）という回答は約4割弱である。

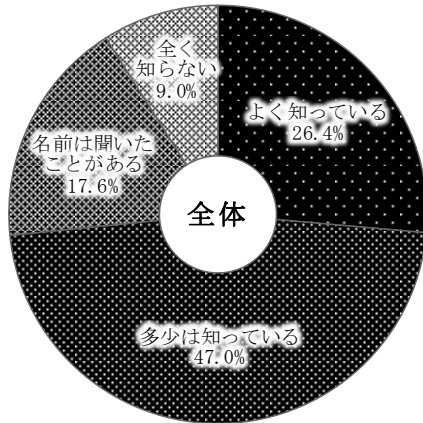
図表 1.4.2.1. 寄付をしたことがない理由（複数選択）



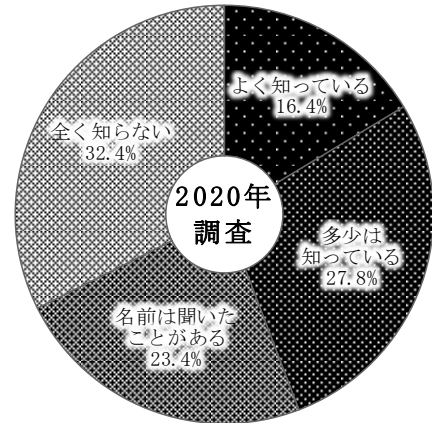
1.5. SDGs（持続可能な開発目標）の認知

●前回調査と比較すると「よく知っている」「多少は知っている」と回答した若者の割合は、全体の44.2%から73.4%に大きく上昇。特に、高校生の82.7%、大学生の80.5%が知っていると回答している。

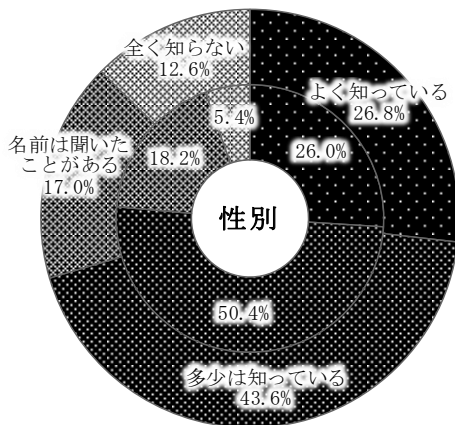
図表 1.5.SDGs（持続可能な開発目標）の認知（単一選択）



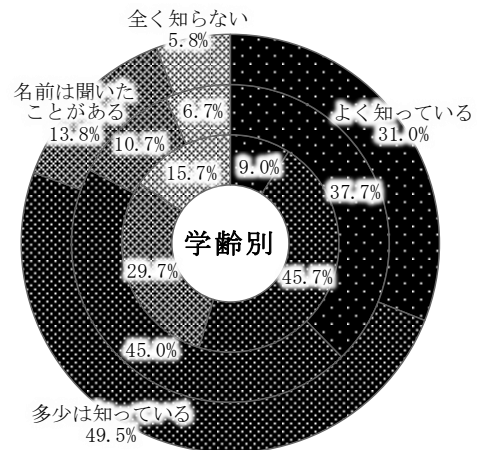
全体= 1000



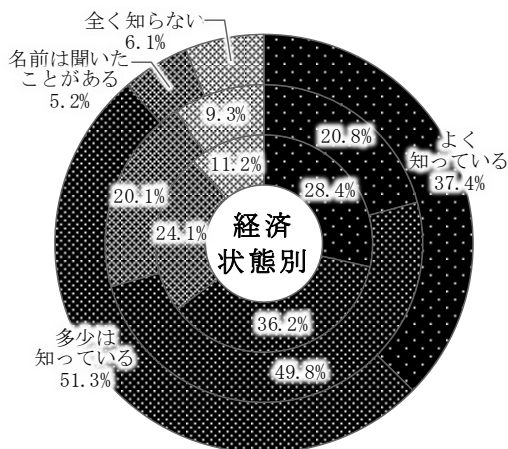
全体=1000



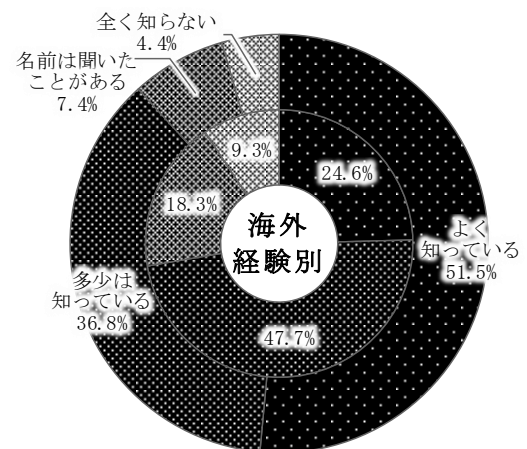
外：男= 500、内：女= 500



外：大学生= 400、中：高校生= 300、内：中学生= 300



外：豊かと回答= 230、中：普通と回答= 538、内：苦しいと回答= 232

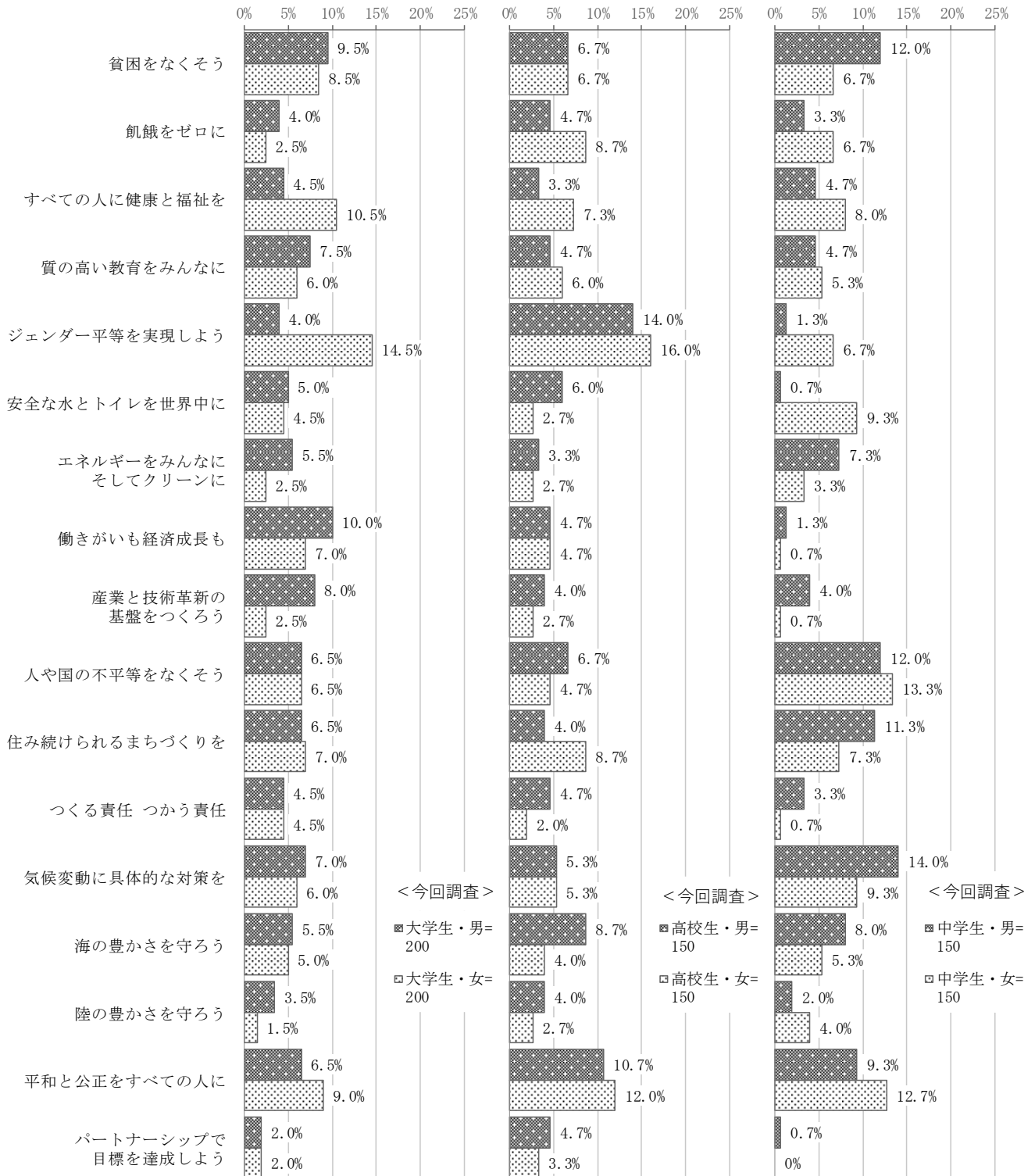


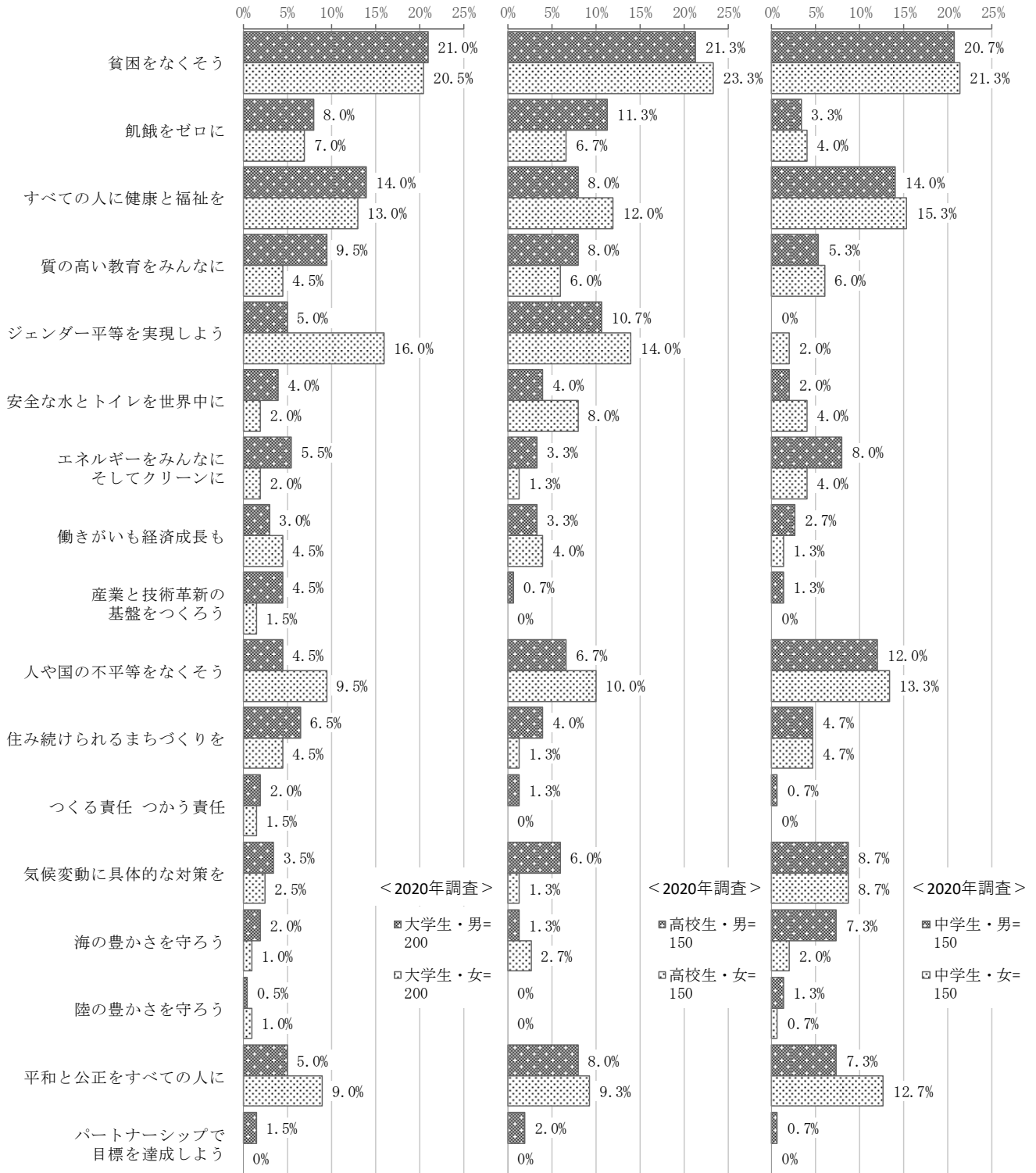
外：海外経験あり= 68、内：海外経験なし= 932

1.6. 関心のあるSDGsの17の目標

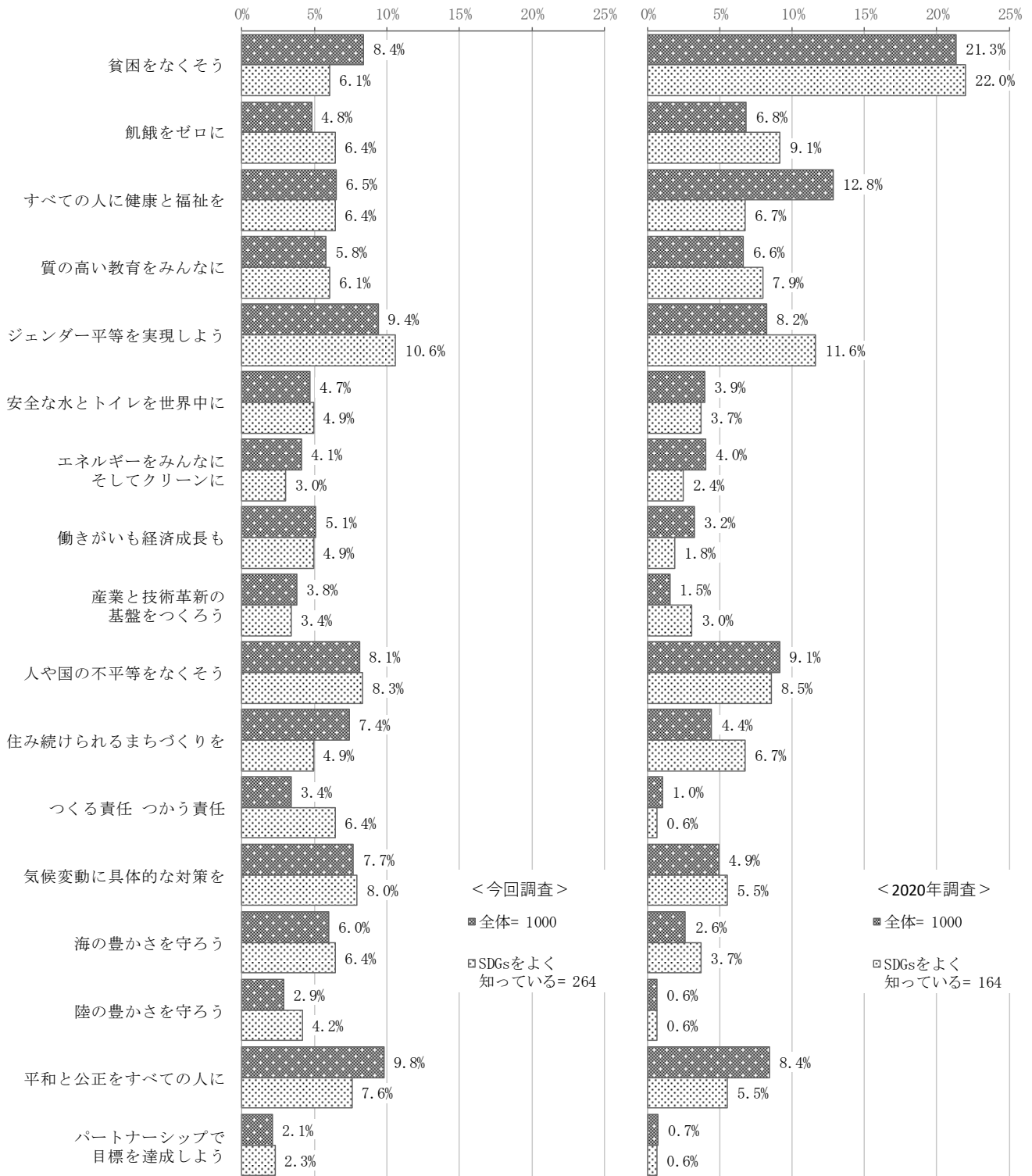
- 新型コロナの拡大期に実施した前回調査においては、全世代で「目標1 貧困をなくそう」「目標3 すべての人に健康と福祉を」に関心があると回答した若者が多かった。一方、今回調査では突出して回答者が多い目標は多くはみられない。
- 前回調査と同様に、大学生、高校生の女子が「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」に関心があると回答している。

図表 1.6.関心のあるSDGsの17の目標（1位）





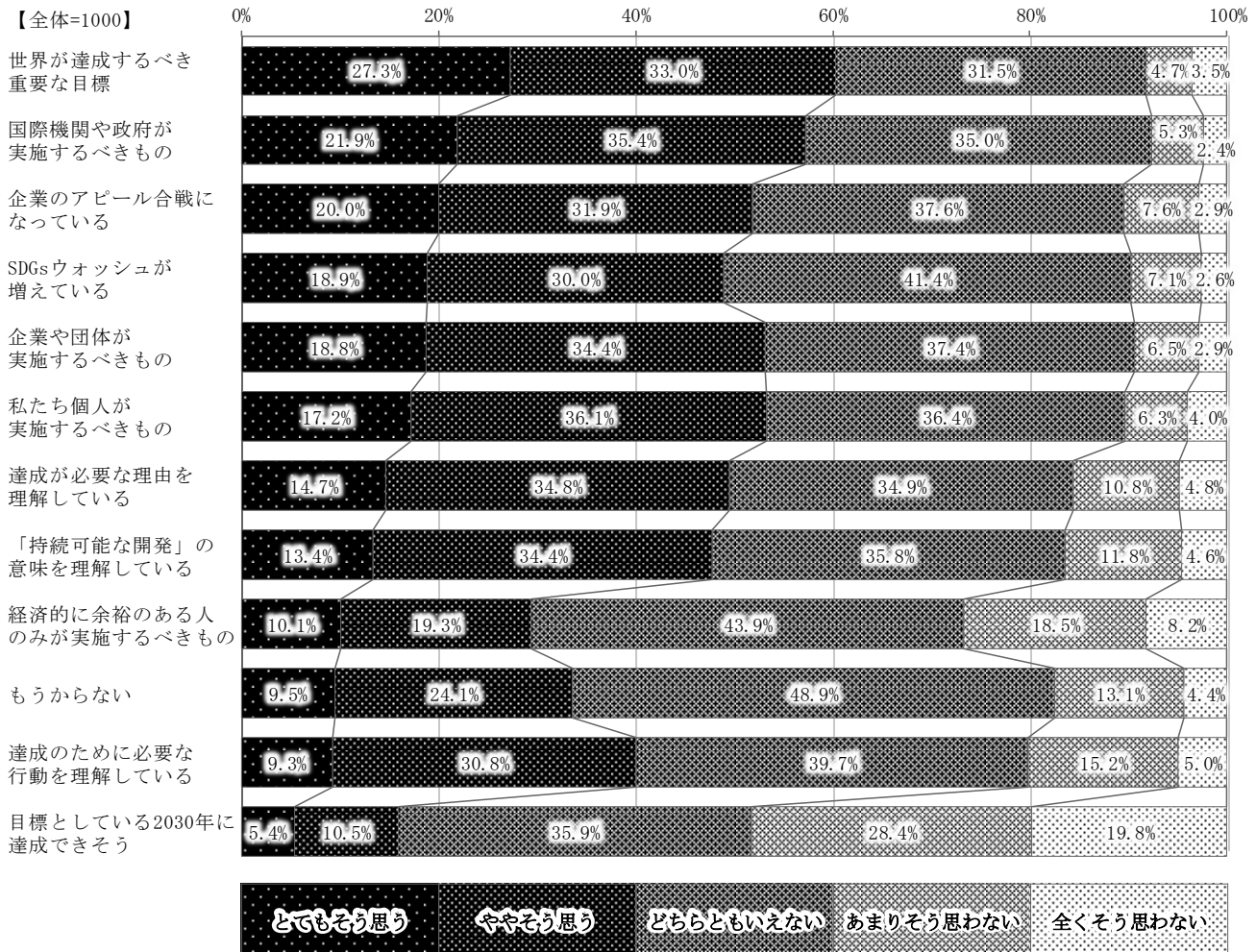
(参考) 図表 1.6.1.SDGs をよく知っている若者の関心のある SDGs の 17 の目標 (1 位)



1.7. SDGs に対する考え

- 全体の60.3%がSDGsは「世界で達成すべき重要な目標」と思っているものの、「目標としている2030年に達成できそう」と考える若者は全体の15.9%に留まっている。
- SDGsはだれが実施すべきかという点については、「国際機関や政府」(57.3%)、「企業や団体」(53.2%)、「私たち個人」(53.3%)といずれも大差はない。一方で「達成のために必要な行動を理解している」若者は41.1%である。

図表 1.7.SDGs に対する考え (単一選択)

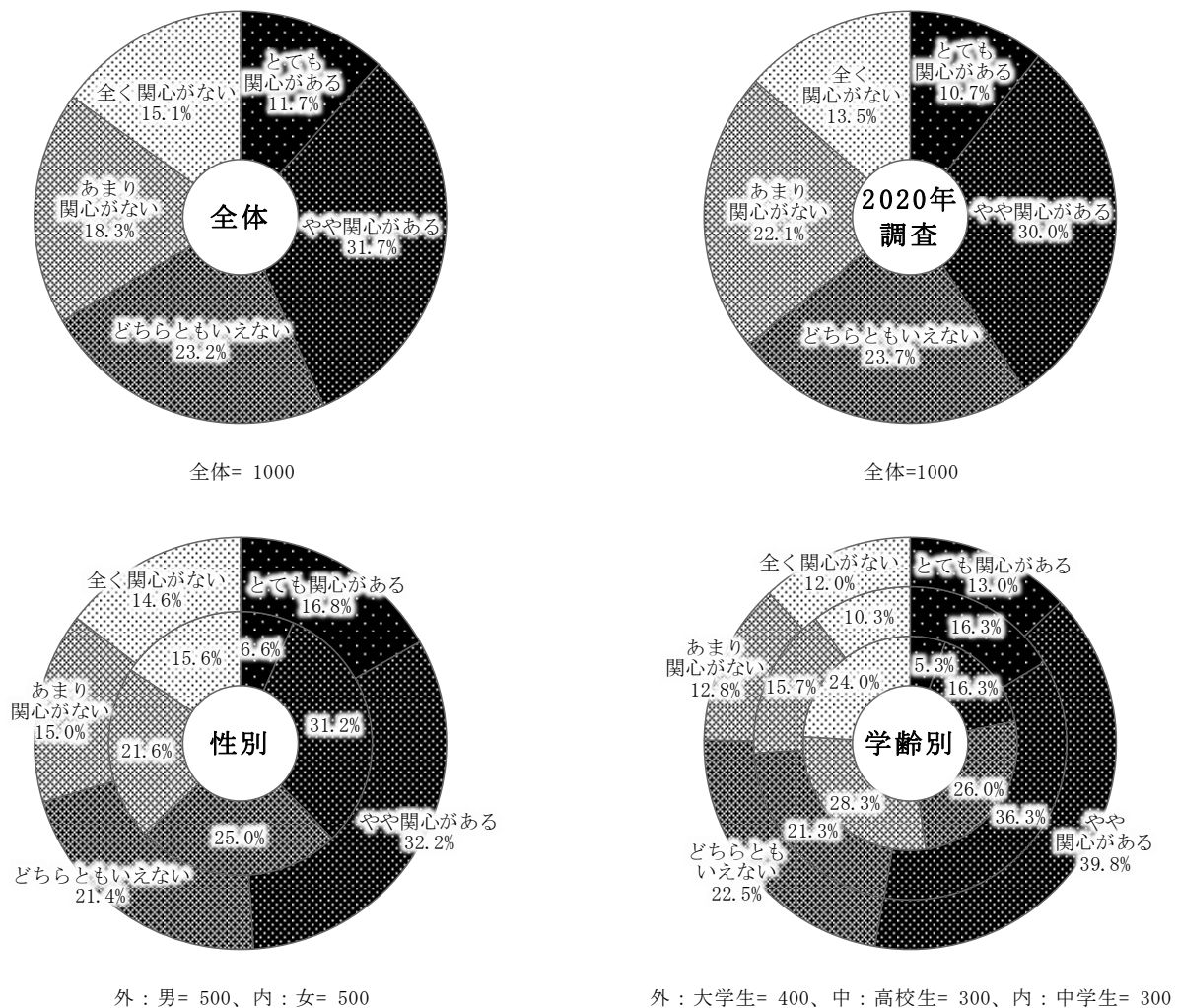


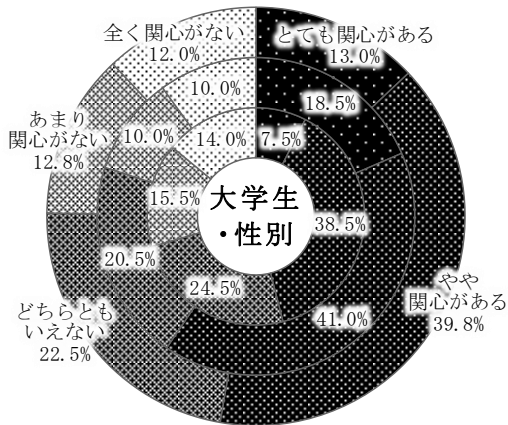
2. 金融・経済教育

2.1. 金融や経済への関心

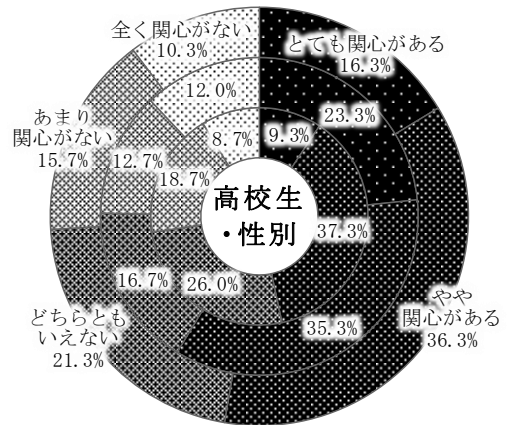
- 金融や経済への関心を持つ（「とても関心がある」、「やや関心がある」）若者は全体で 43.4%であり、前回（40.7%）と比べると、やや増加していることがわかる。
- さらに性別ごとでは、男子で 49.0%、女子で 37.8%であり、年齢別を加えると、大学生男子では 59.5%、大学生女子では 52.8%、高校生男子では 58.6%、高校生女子では 46.6%、中学生男子では 25.3%、中学生女子では 21.6%である。総じて、男子のほうが女子よりも金融や経済への関心が高い状況がうかがえる。
- 経済状態別にみたときに豊かであると回答した人（63.0%）は、そうではない人（38.8%）と比較して関心度が高い。

図表 2.1.金融や経済への関心（単一選択）

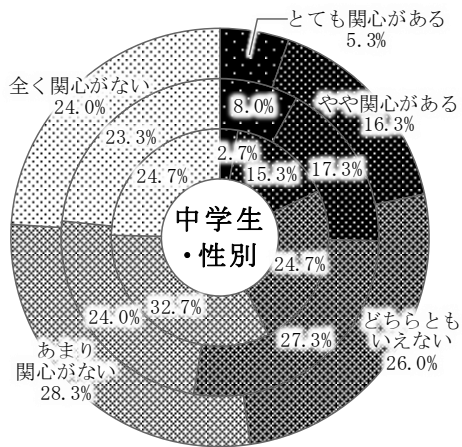




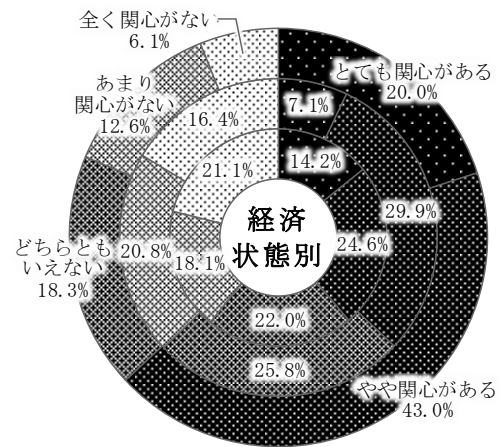
外: 大学生・全体= 400、中: 大学生・男子= 200、内: 大学生・女子= 200



外: 高校生・全体= 300、中: 高校生・男子= 150、内: 高校生・女子= 150



外: 中学生・全体= 300、中: 中学生・男子= 150、内: 中学生・女子= 150

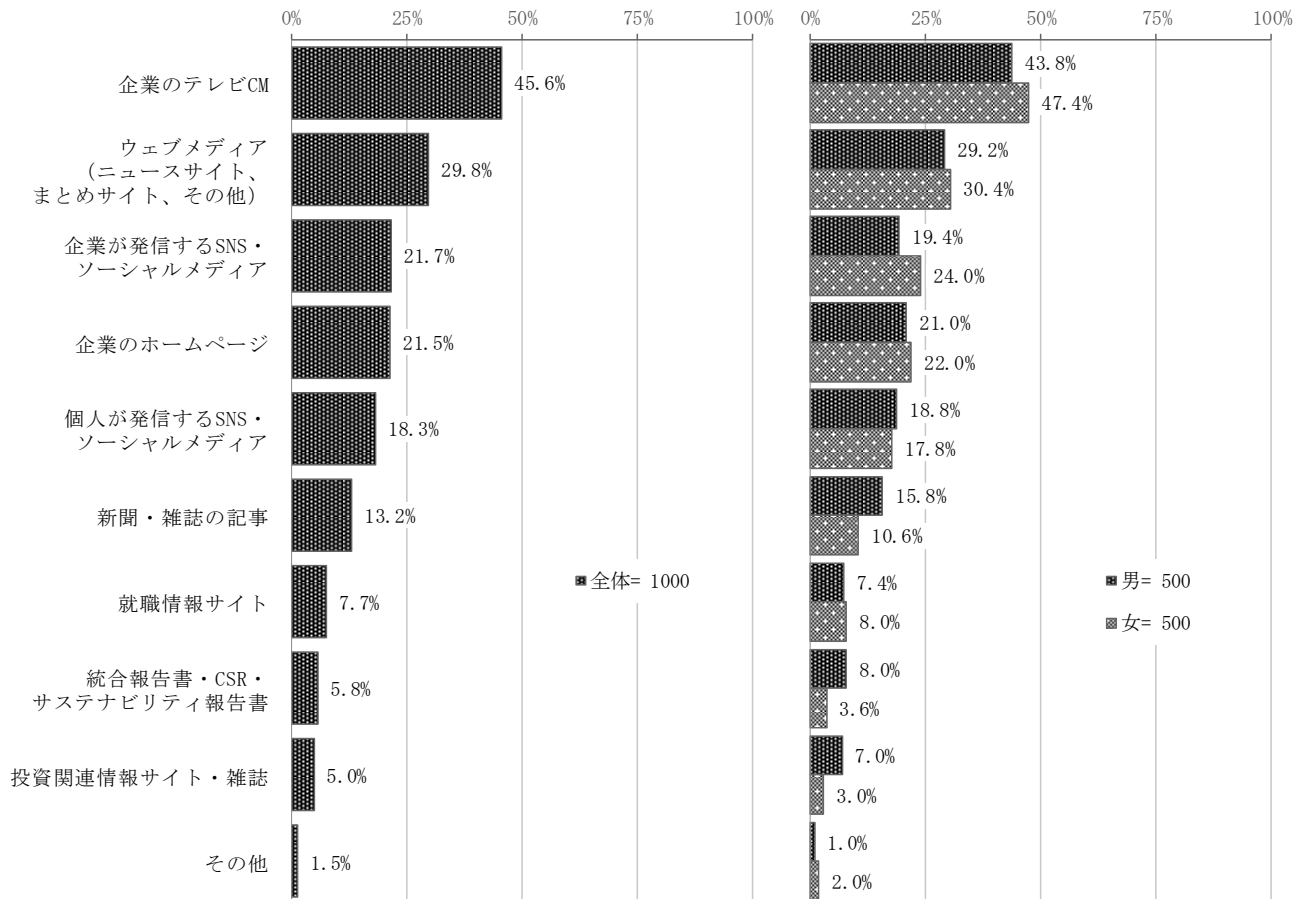


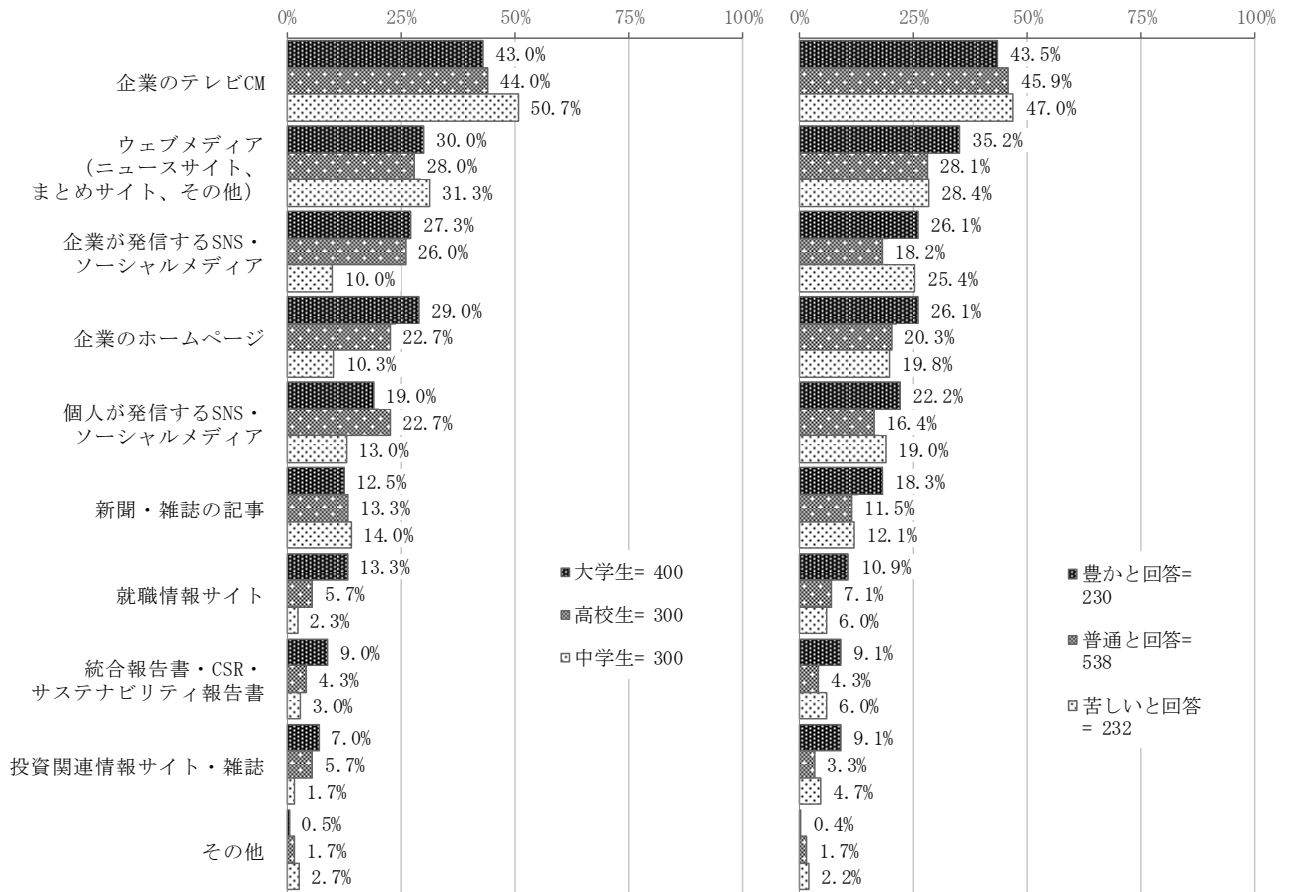
外: 豊かと回答= 230、中: 普通と回答= 538、内: 苦しいと回答= 232

2.2. 環境問題や社会課題に取り組む企業の認知経路

- 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業を認知する媒体としては、全体として「企業のテレビCM」を選ぶ若者が多く「ウェブメディア」「企業が発信するSNS」と続く。
- 「企業のホームページ」や「企業が発信するSNS」では、学齢が高くなるほど選択している若者が多く、「企業のテレビCM」は逆に学齢が高くなるほど選択している若者が少なくなる傾向がみられる。

図表 2.2.環境問題や社会課題に取り組む企業の認知経路（複数選択）



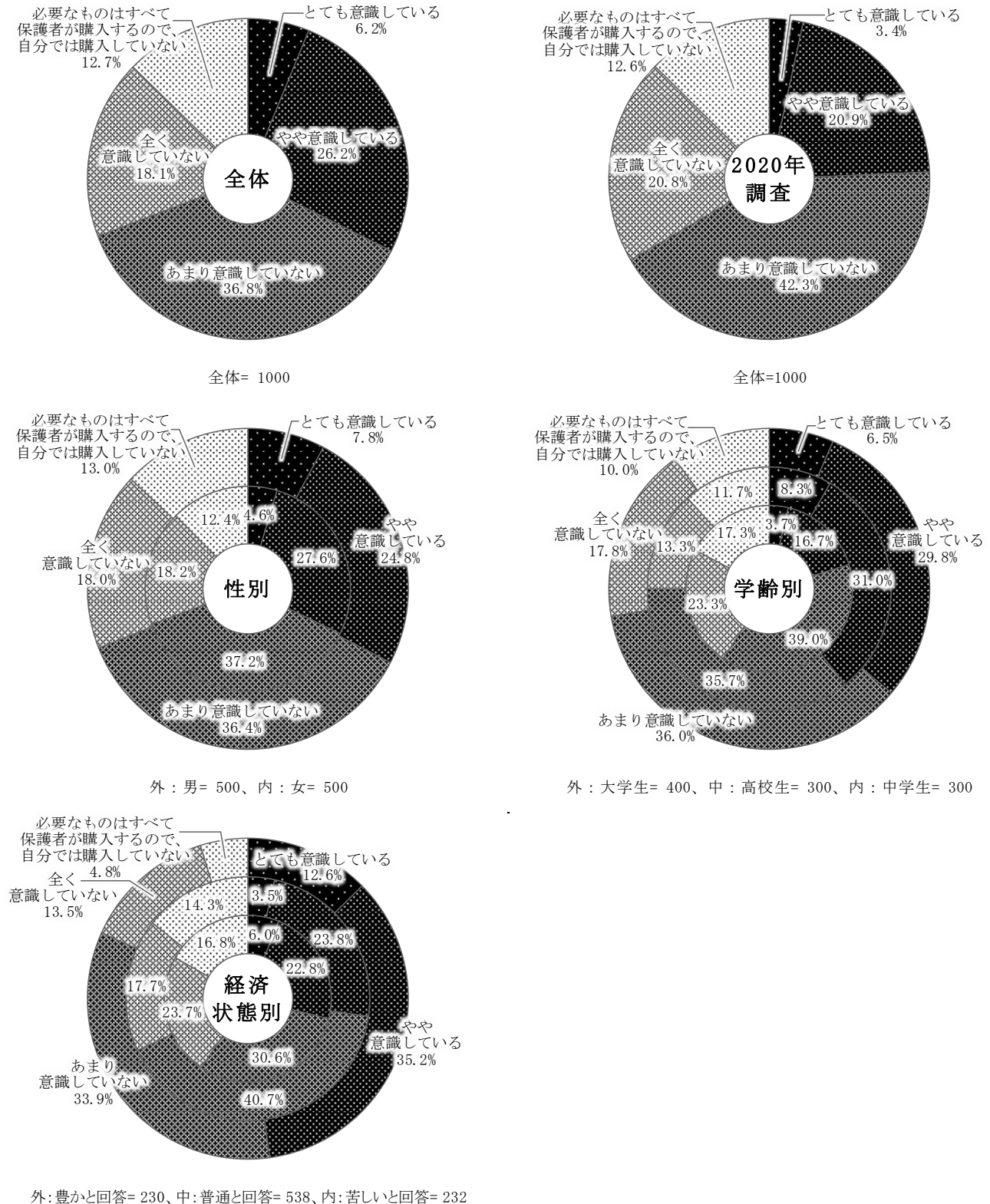


注 「その他」には、「学校」「家族や友達から」「商品のラベル」「ラジオの番組で」があった。

2.3. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組む企業の商品かどうかの意識

- 前回調査と比較し、環境問題や社会課題を意識した商品購入を行っている若者（前回：24.3%、今回：32.4%）は全体で約8%増加した。
- 経済状態別では、豊かと回答した若者のうち「意識している」と回答したのは47.8%である。一方、苦しいと回答した若者（28.8%）・普通と回答した若者（27.3%）と比べるとそのギャップは大きい。

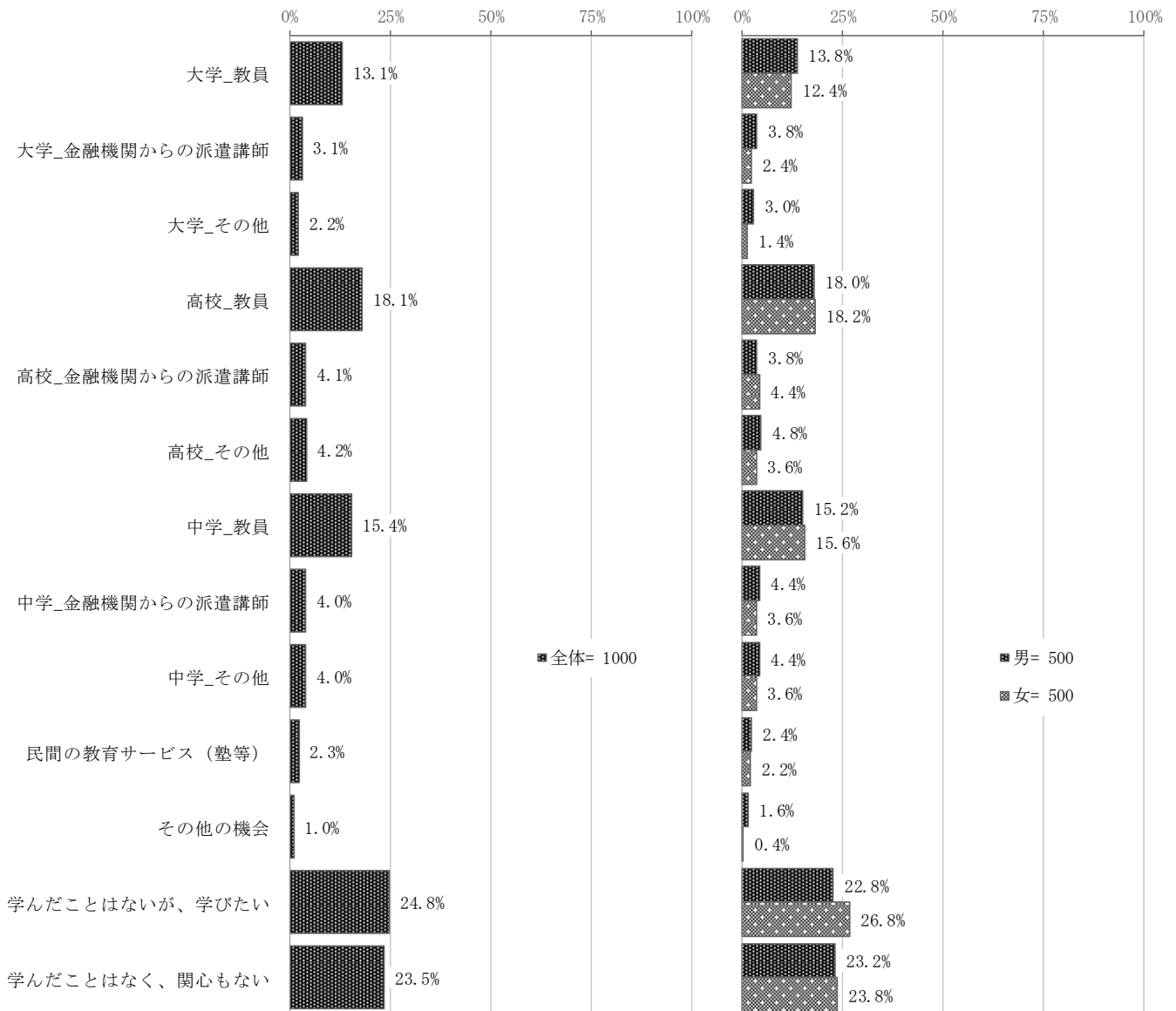
図表 1.8.商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組む企業の商品かどうかの意識（単一選択）



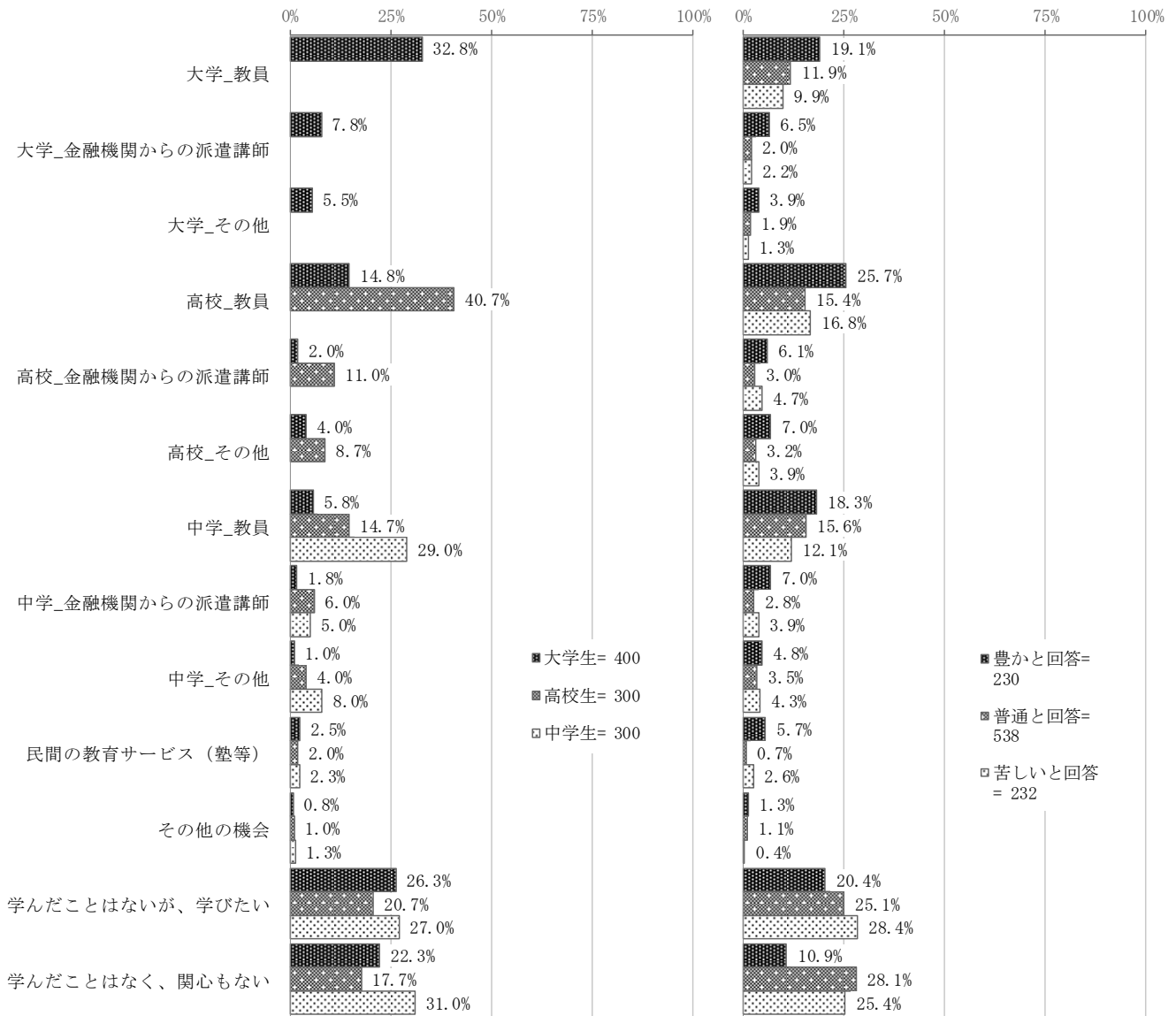
2.4. 金融や経済に関して学ぶ機会

- 若者が金融や経済を学ぶ機会は、大学、高校、中学ともに、教員から学ぶ機会が最も多い。
- 性別や、国公立による差はあまりみられないが、経済状態別にみたときに豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、僅かながら金融や経済に関して学ぶ機会が多い。

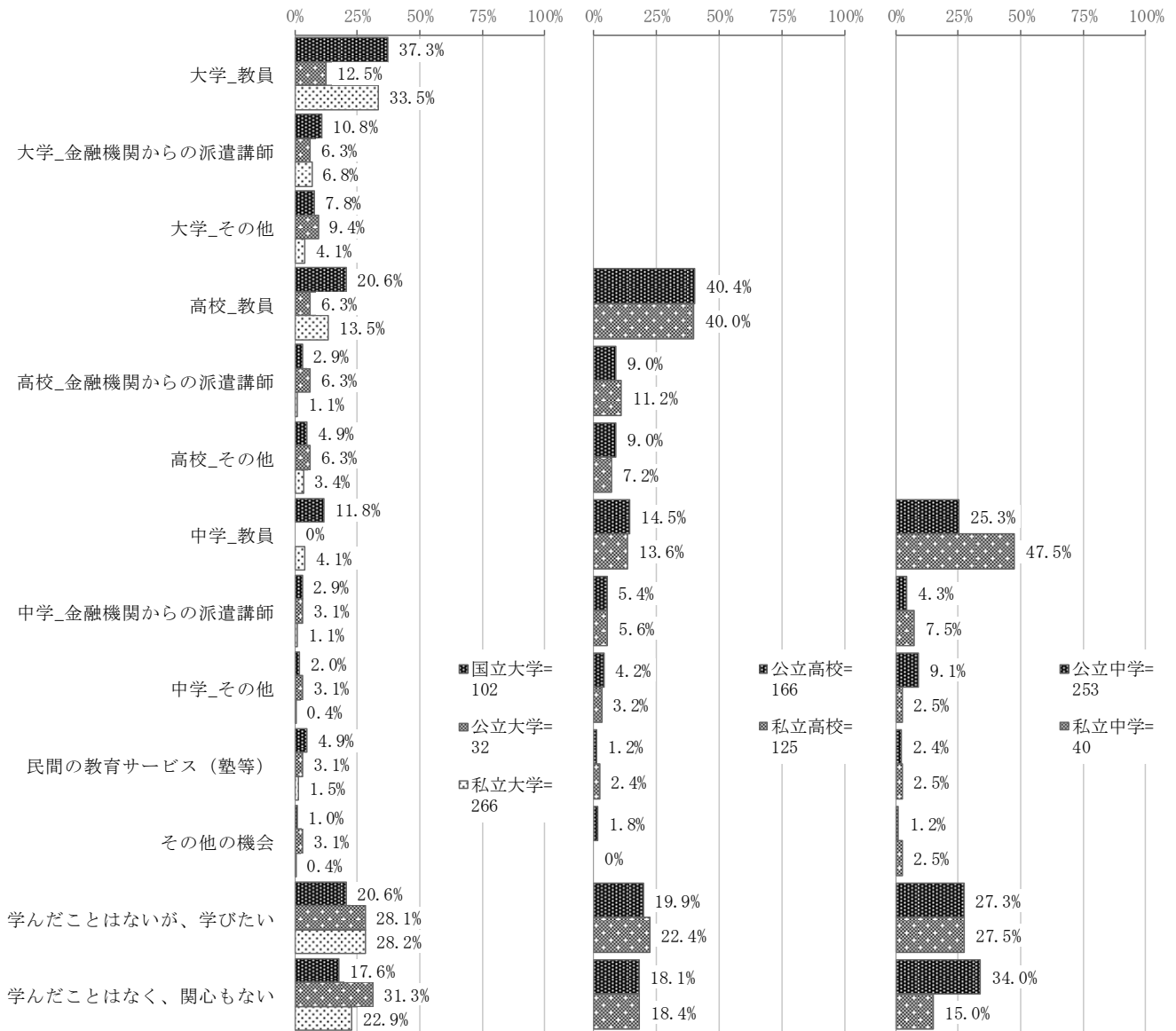
図表 2.3.金融や経済に関して学ぶ機会（複数選択）



注 「その他の機会」には、「親から学んだ」「親からの教育、本」「インターネット等の利用」「YouTube」「新聞」「講演会」があった。



注 「その他の機会」には、「親から学んだ」「親からの教育、本」「インターネット等の利用」「YouTube」「新聞」「講演会」があった。

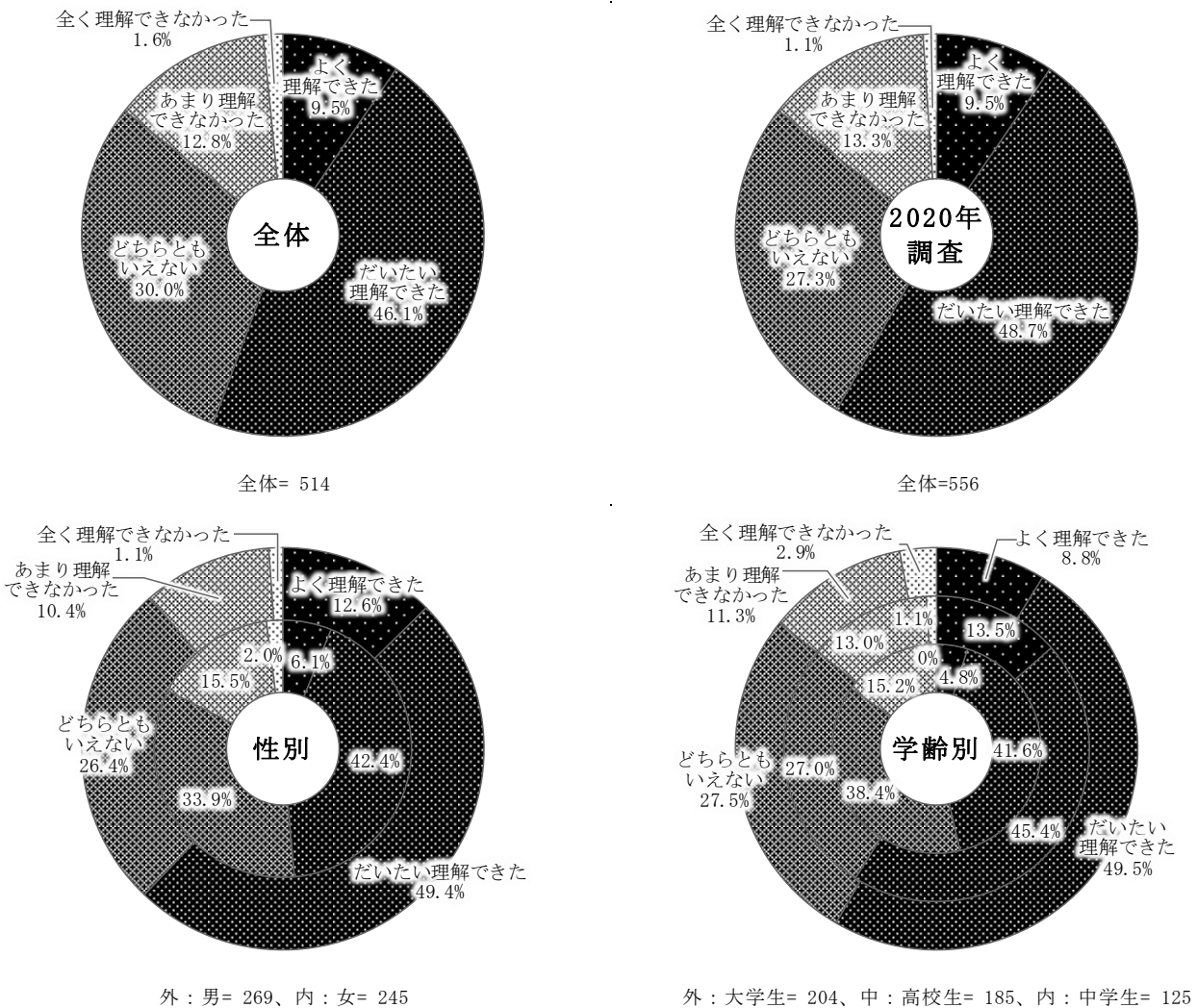


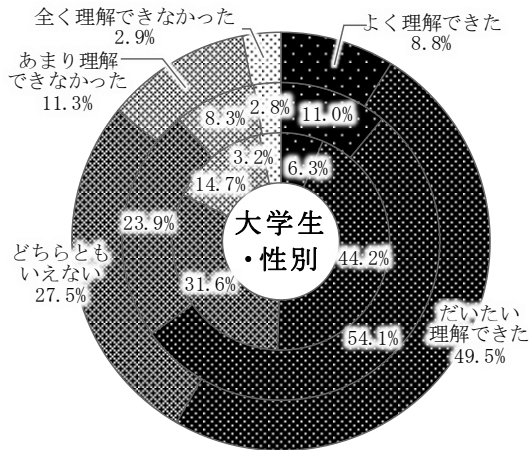
注 「その他の機会」には、「親から学んだ」「親からの教育、本」「インターネット等の利用」「YouTube」「新聞」「講演会」があった。

2.5. 金融や経済についての理解度

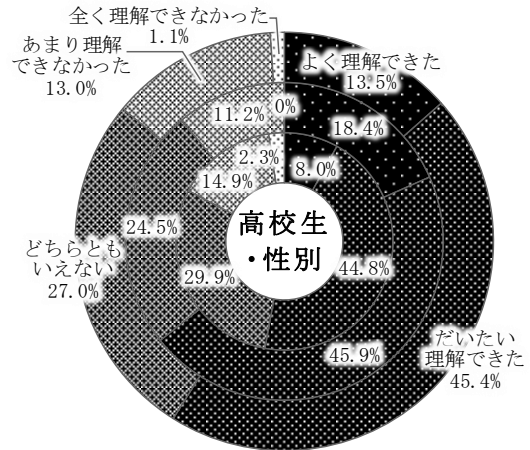
- 金融や経済についての授業を受けたことがある若者（n=514）のうち、理解できたと感じている（「よく理解できた」、「だいたい理解できた」）若者は全体で 55.6%、男子で 62.0%、女子で 48.5%である。概ね前回調査との傾向は変わらない。
- 学齢および性別ごとに理解ができたと感じている若者の比率は、大学生男子 65.1%、大学生女子 50.5%、高校生男子 64.3%、高校生女子 52.8%、中学生男子 53.3%、中学生女子 43.8%である。総じて、男子のほうが女子よりも金融や経済への理解度が高い状況がうかがえる。
- 大学のみ国公私立の分類によって、国立大学に所属する大学生の理解度が公立・私立と比べて、理解度が高かった。
- 経済状態別にみたときに豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、金融や経済についての理解度が高い。

図表 2.4.金融や経済についての理解度（単一選択）

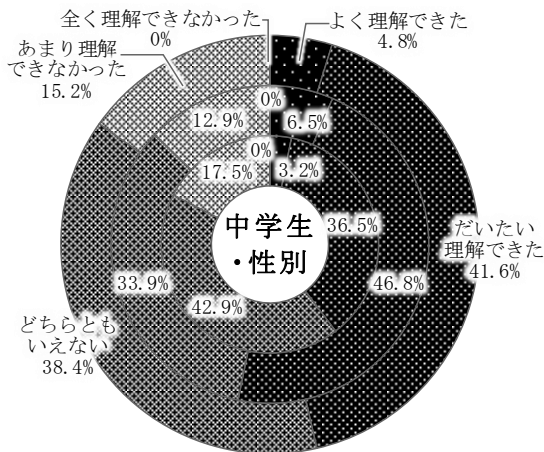




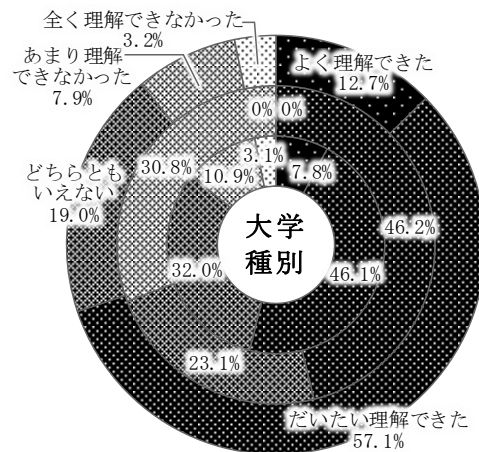
外:大学生・全体= 204、中:大学生・男子= 109、内:大学生・女子= 95



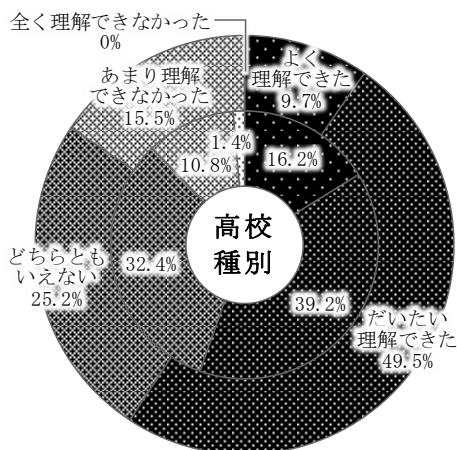
外:高校生・全体= 185、中:高校生・男子= 98、内:高校生・女子= 87



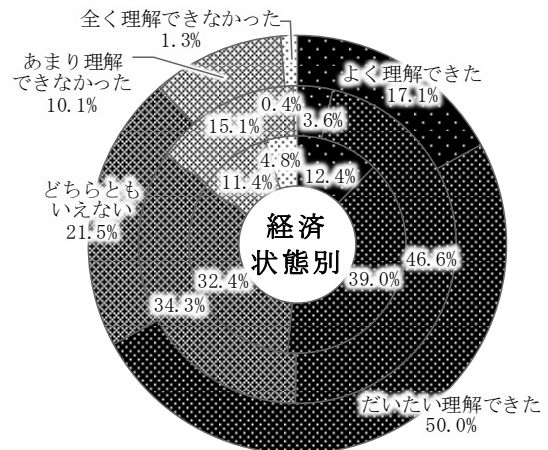
外:中学生・全体= 125、中:中学生・男子= 62、内:中学生・女子= 63



外:国立大学= 63、中:公立大学= 13、内:私立大学= 128

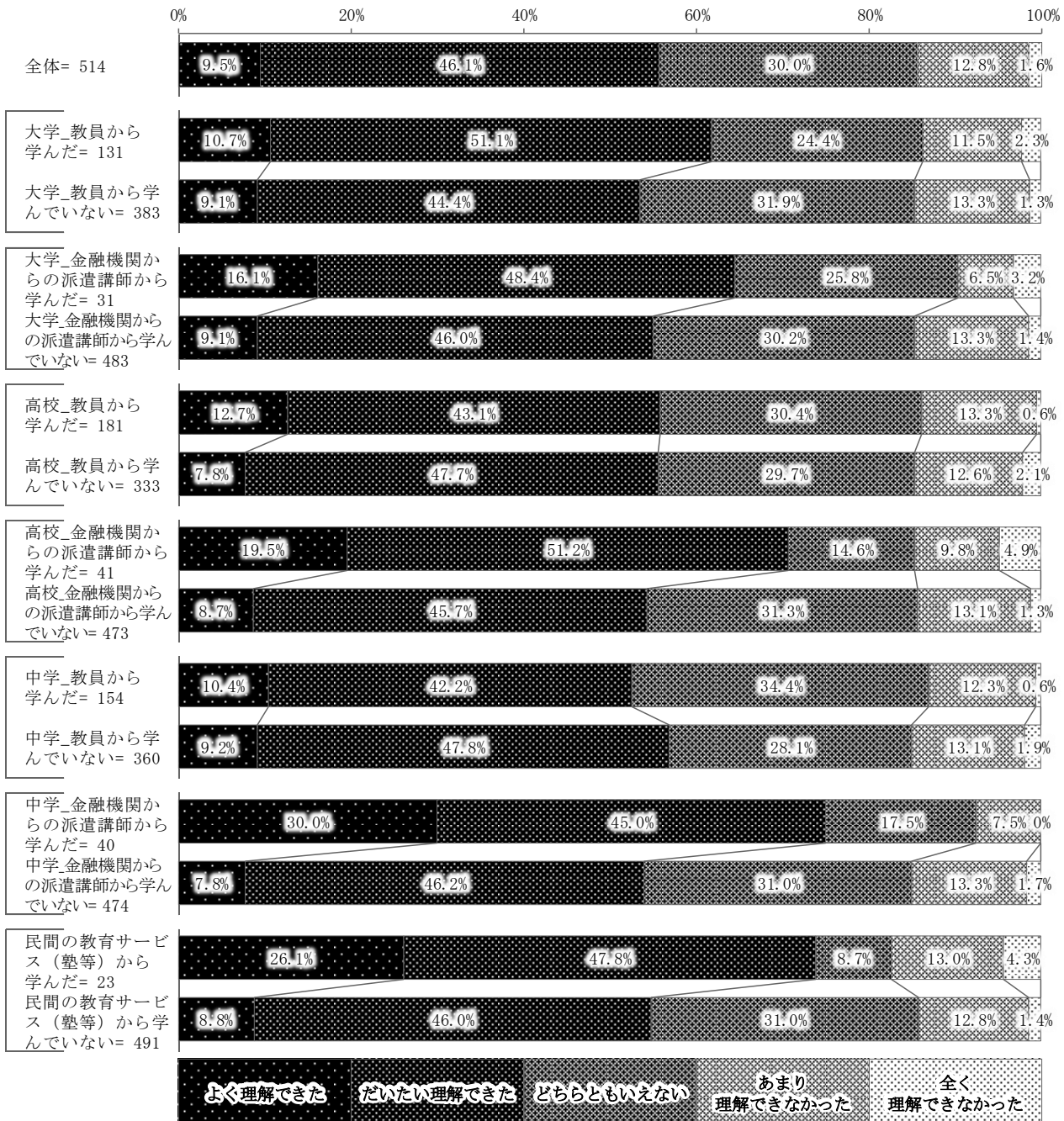


外:公立高校= 103、内:私立高校= 74
国立高校はサンプル数10未満のため記載しない。



外:豊かと回答= 158、中:普通と回答= 251、内:苦しいと回答= 105

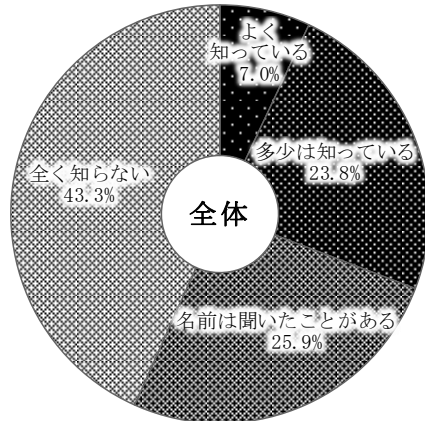
(参考) 図表 2.4.1.金融や経済に関して学ぶ機会別理解度



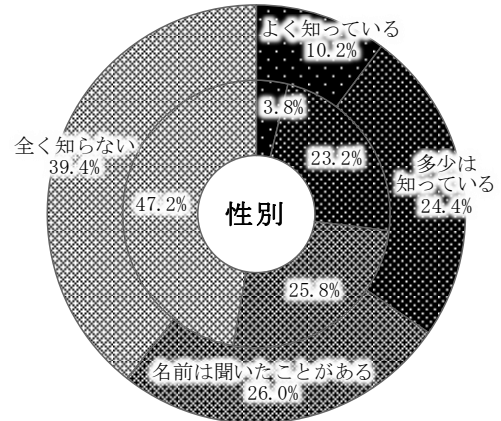
2.6. ESG 投資やサステナブル・ファイナンスの認知

- ESG 投資やサステナブル・ファイナンスという言葉を知っている（「よく知っている」「多少は知っている」と回答した若者は全体で 30.8%であり、男子で 34.6%、女子で 27.0%である。
- 学齢別では、大学生が 39.3%と最も高く、高校生（31.3%）中学生（19.0%）と続く。
- 経済状態別にみたときに豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、ESG 投資やサステナブル・ファイナンスという言葉を知っている若者が多い。

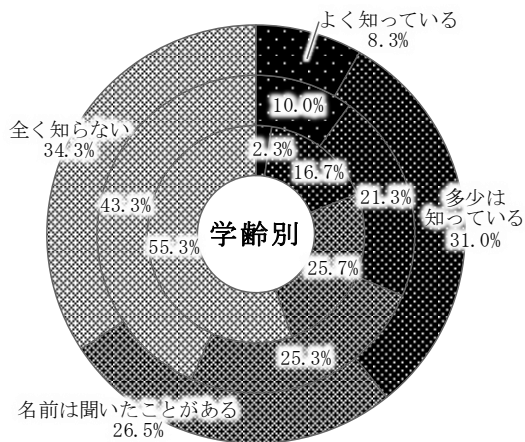
図表 2.5. ESG 投資やサステナブル・ファイナンスの認知（単一選択）



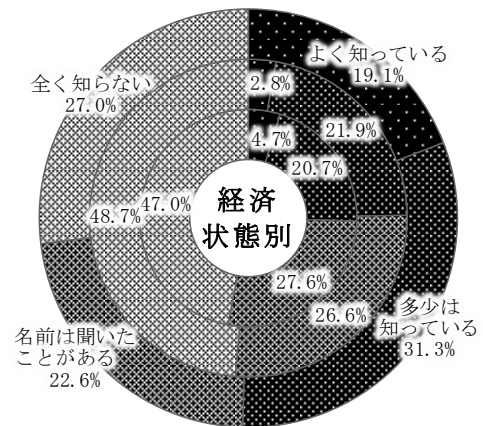
全体 = 1000



外：男 = 500、内：女 = 500



外：大学生 = 400、中：高校生 = 300、内：中学生 = 300

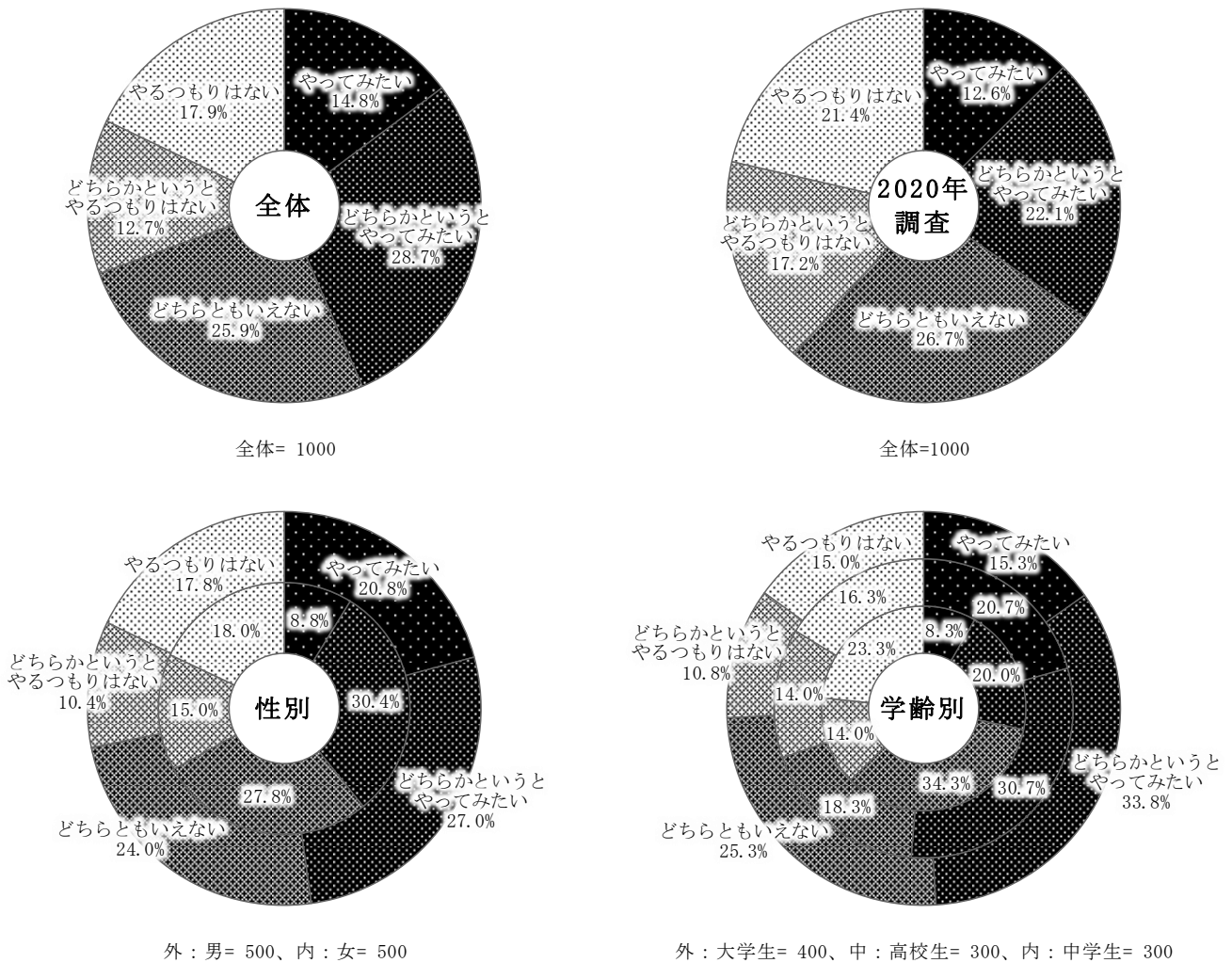


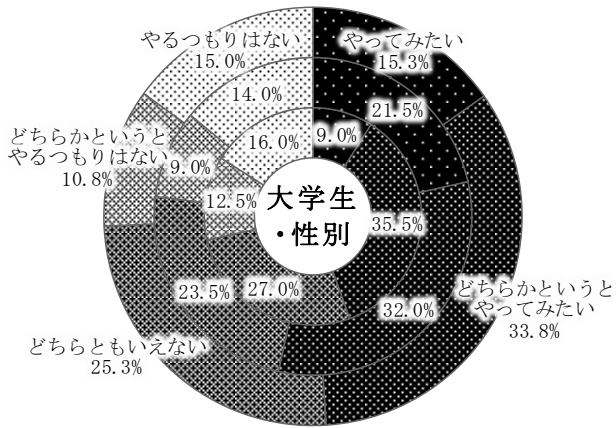
外：豊かと回答 = 230、中：普通と回答 = 538、内：苦しいと回答 = 232

2.7. 投資の意欲

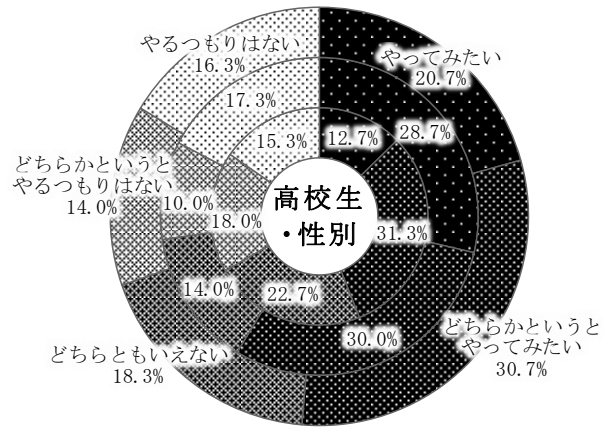
- 将来、投資をしてみたいか尋ねたところ、投資への意欲を持つ（「やってみたい」、「どちらかというをやってみたい」）若者は全体で 45.3%であり、男子で 47.8%、女子で 39.2%である。前回調査では、全体で 34.7%、男子で 41.6%、女子で 27.8%であったことから、全体的に投資に対する意欲を持つ若者が増えている。
- さらに学齢および性別ごとに投資への意欲を持つ若者の比率を比べると、大学生男子で 53.5%、大学生女子では 44.5%、高校生男子では 58.7%、高校生女子では 44%、中学生男子では 29.3%、中学生女子では 27.4%である。
- 経済状態別にみたときに豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、投資意欲が高い。

図表 2.6.投資の意欲（単一選択）

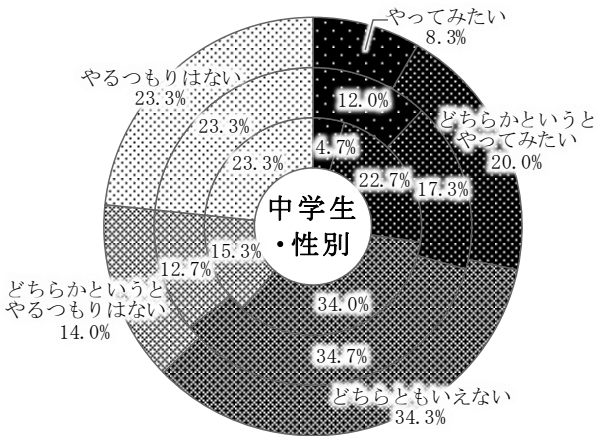




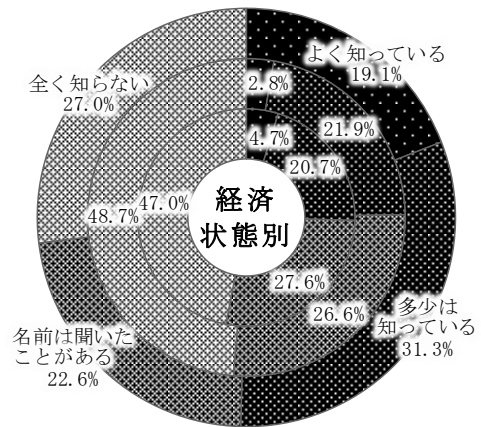
外: 大学生・全体= 400、中: 大学生・男子= 200、内: 大学生・女子= 200



外: 高校生・全体= 300、中: 高校生・男子= 150、内: 高校生・女子= 150



外: 中学生・全体= 300、中: 中学生・男子= 150、内: 中学生・女子= 150

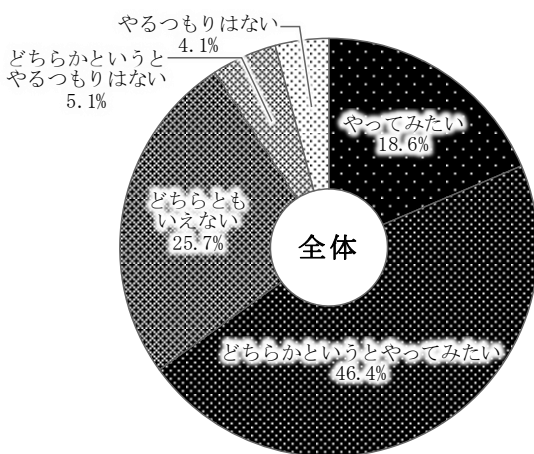


外: 豊かと回答= 230、中: 普通と回答= 538、内: 苦しいと回答= 232

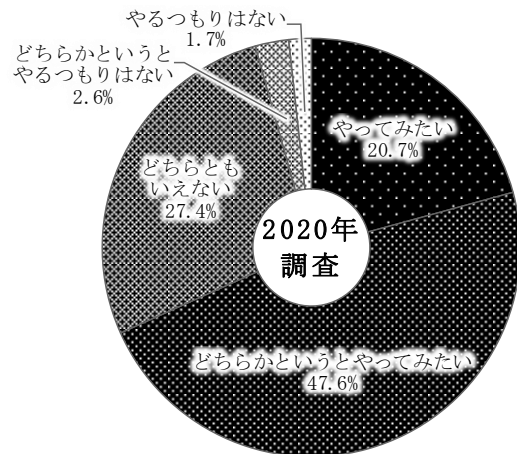
2.8. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資の意欲

- 投資への意欲がある若者（n=435）に対し、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業に優先して投資をしたいか尋ねたところ、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲を持つ（「やってみよう」、「どちらかというをやってみよう」）若者は全体で 65.0%、男子で 67.4%、女子で 62.3%である。前回調査では全体で 68.3%、男子で 69.3%、女子で 66.9%である。
- 全体の総数には大きな変化はないものの、投資全体では男子の関心が高い一方で、環境問題や社会課題に取り組む企業の投資については女子の関心が僅かに高い結果となった。
- 経済状況別では、豊かと回答した若者（69.5%）が最も多く、次に苦しいと回答した若者（57.3%）、普通と回答した若者（65.1%）と続く。

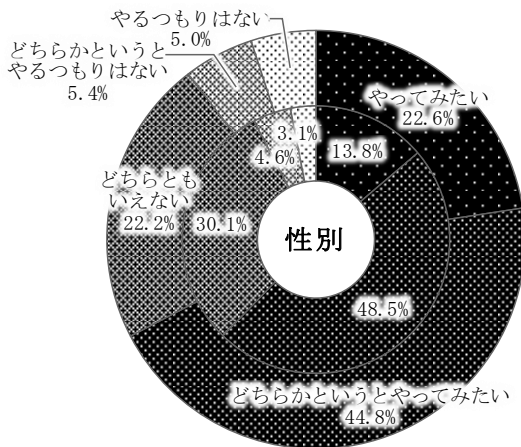
図表 2.7.環境問題や社会課題に取り組む企業への投資の意欲（単一選択）



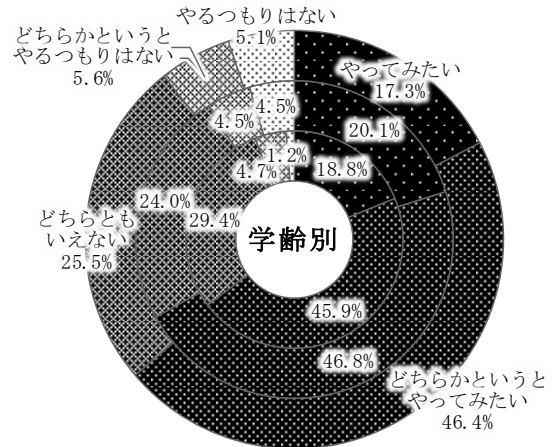
全体= 435



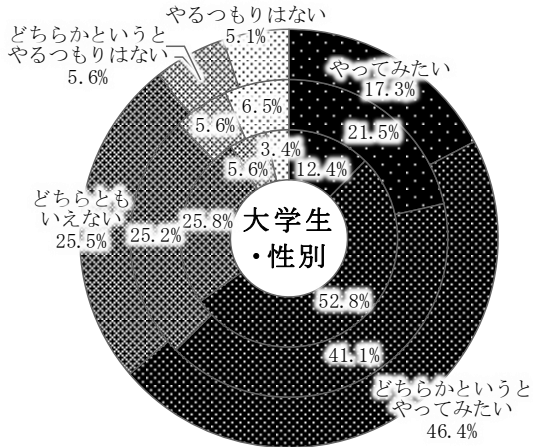
全体=347



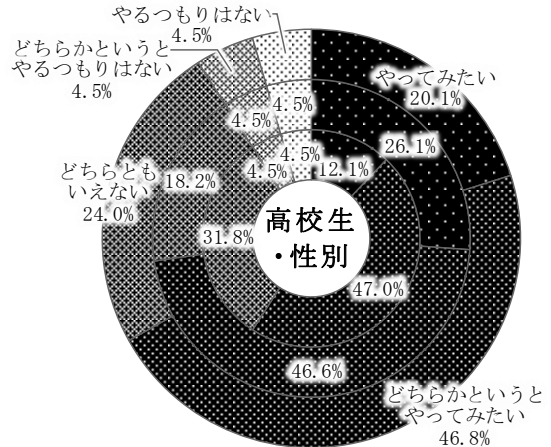
外：男= 239、内：女= 196



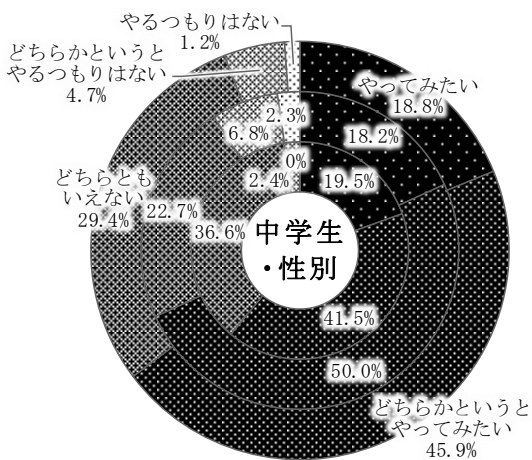
外：大学生= 196、中：高校生= 154、内：中学生= 85



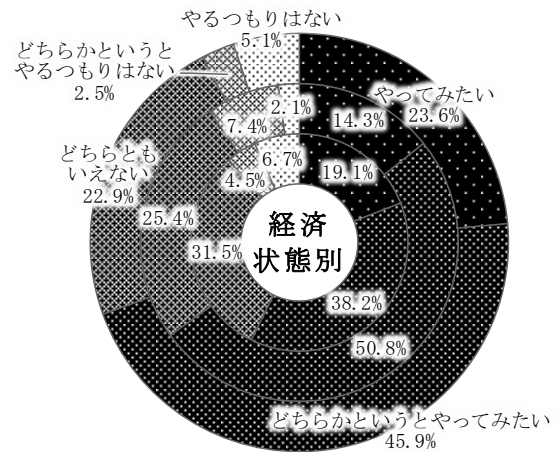
外:大学生・全体= 196、中:大学生・男子= 107、内:大学生・女子= 89



外:高校生・全体= 154、中:高校生・男子= 88、内:高校生・女子= 66



外:中学生・全体= 85、中:中学生・男= 44、内:中学生・女= 41

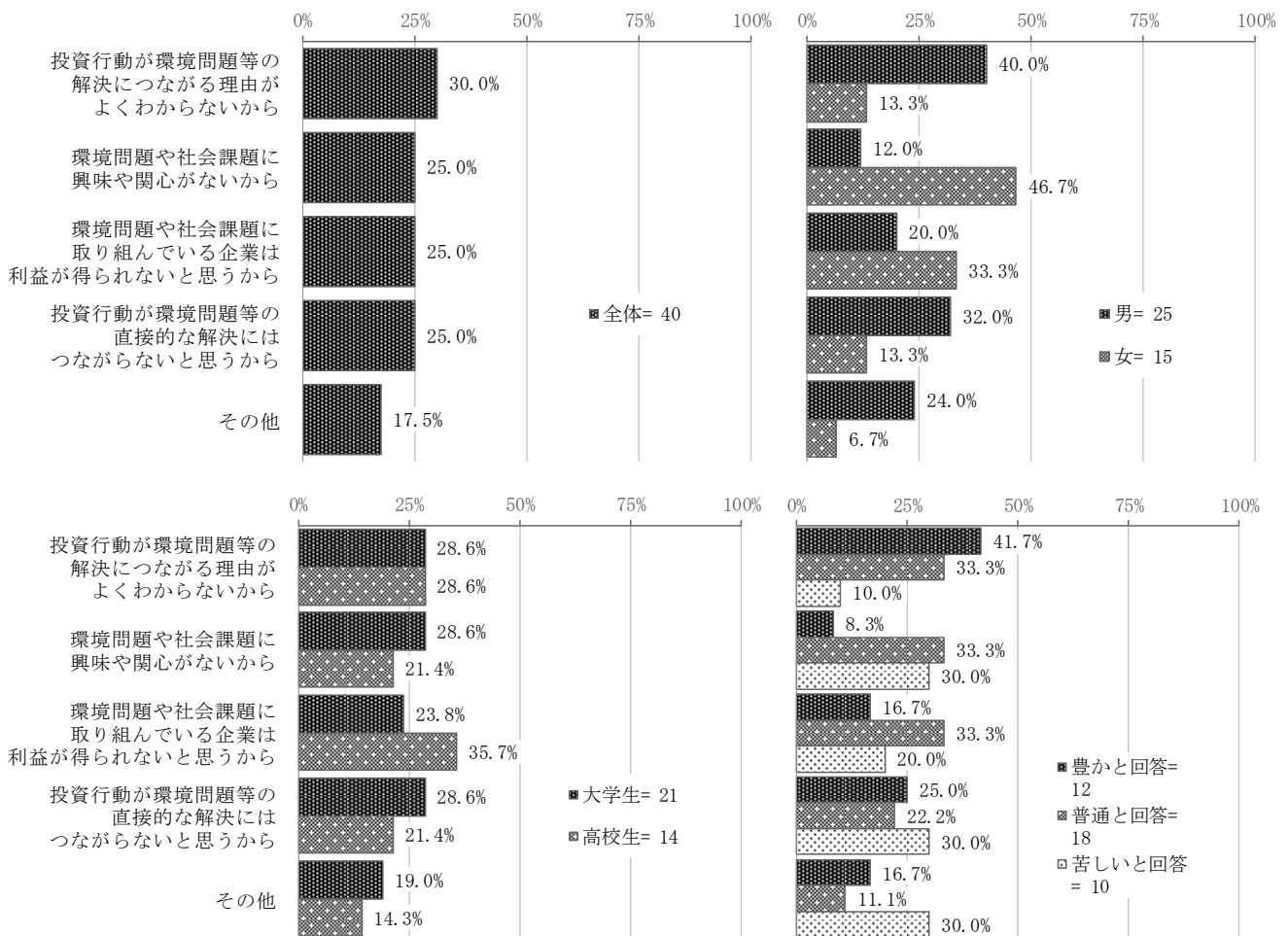


外:豊かと回答= 157、中:普通と回答= 189、内:苦しいと回答= 89

2.8.1. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない理由

- 前の質問で環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない（どちらかというともやるつもりはない、やるつもりはない）と回答した若者（n=40）に対して、その理由を確認したところ、「投資行動が環境問題等の解決につながる理由がよくわからない」「環境問題や社会課題に興味や関心がない」「環境問題や社会課題に取り組んでいる企業は利益が得られない」「投資行動が環境問題等の直接的な解決にはつながらない」といずれの選択肢もほぼ同数の回答を得た。
- 「その他」の回答のなかには、うわべだけの取り組みに対する否定的な視点が環境問題や社会課題に取り組む企業への投資意欲をなくす原因となっているものもあった。

図表 2.7.1.環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない理由（複数選択）



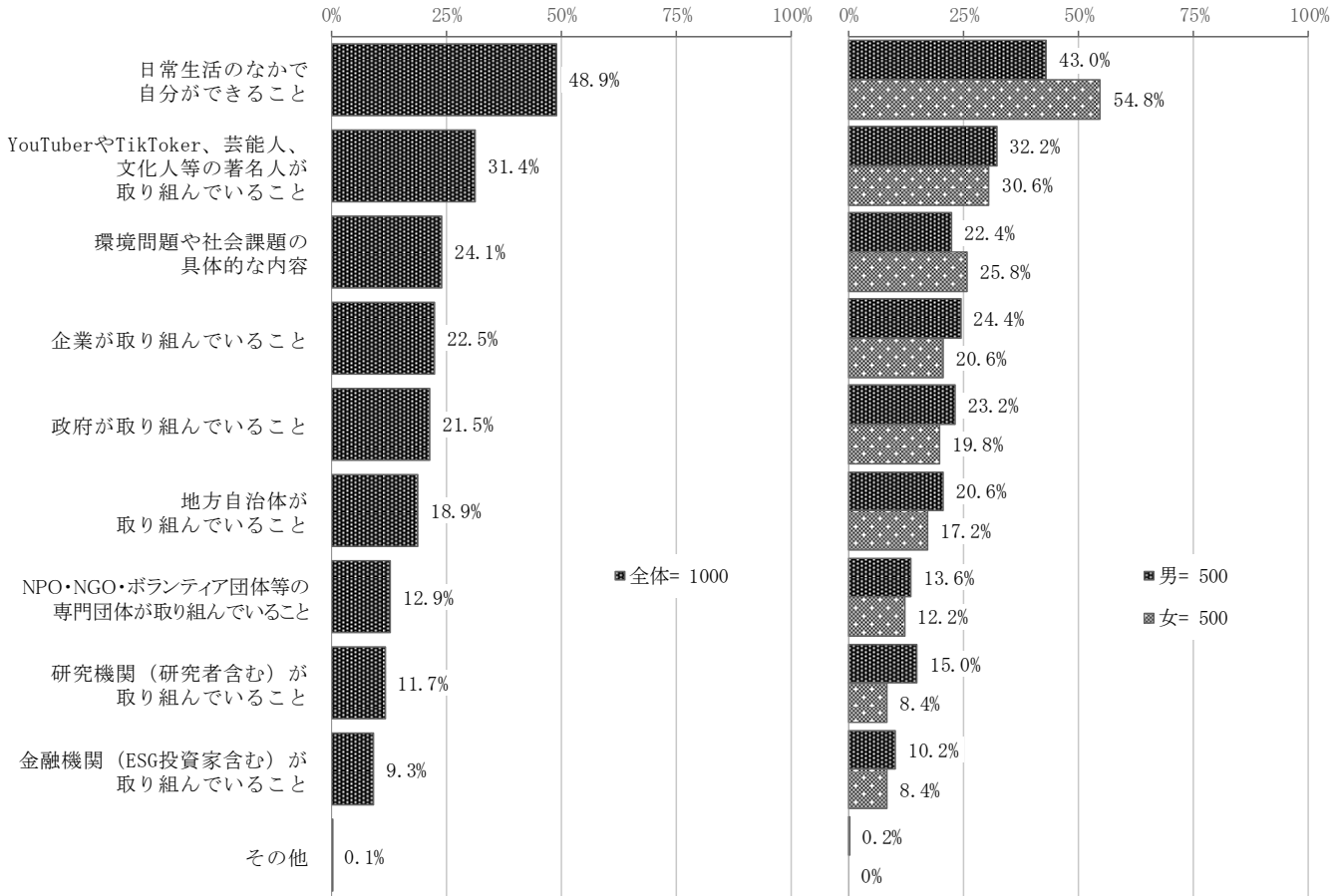
中学生はサンプル数 10 未満のため記載しない。

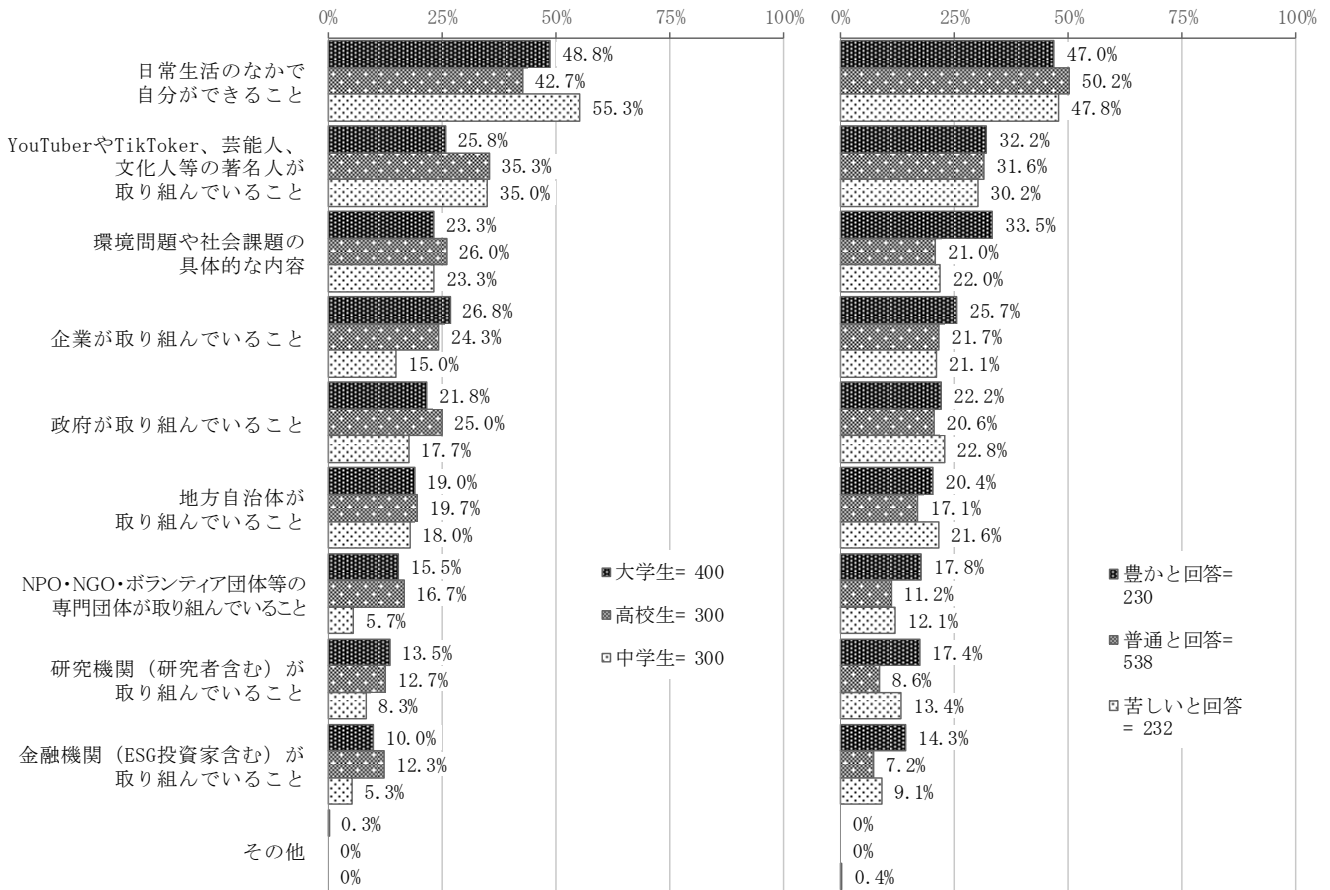
注 「その他」には、「今の環境問題はデタラメだから」「上辺だけの企業に投資したくないから」「上辺だけでとりあえず環境問題のことを言っておけば良い、儲かる感があるから」「その点は重視しないため」「自分の生活に回すため」「環境問題の善とされているものが本当に環境問題に役立っているとは思えないから。EV 自動車など」「目的が異なる」があった。

2.9. 環境問題や社会課題に関心をより深めるきっかけ

- 全体では、「日常のなかで自分ができること」(48.9%)、「Youtuber や TikToker、芸能人、文化人等の著名人が取り組んでいること」(31.4%) が上位となった。特に中学生ではその傾向が強い。
- 性別では、女子は男子に比べて「日常のなかで自分ができること」(男子：43.0%、女子 54.8%) を重視する傾向が強い。

図表 2.8.環境問題や社会課題に関心をより深めるきっかけ（複数選択）





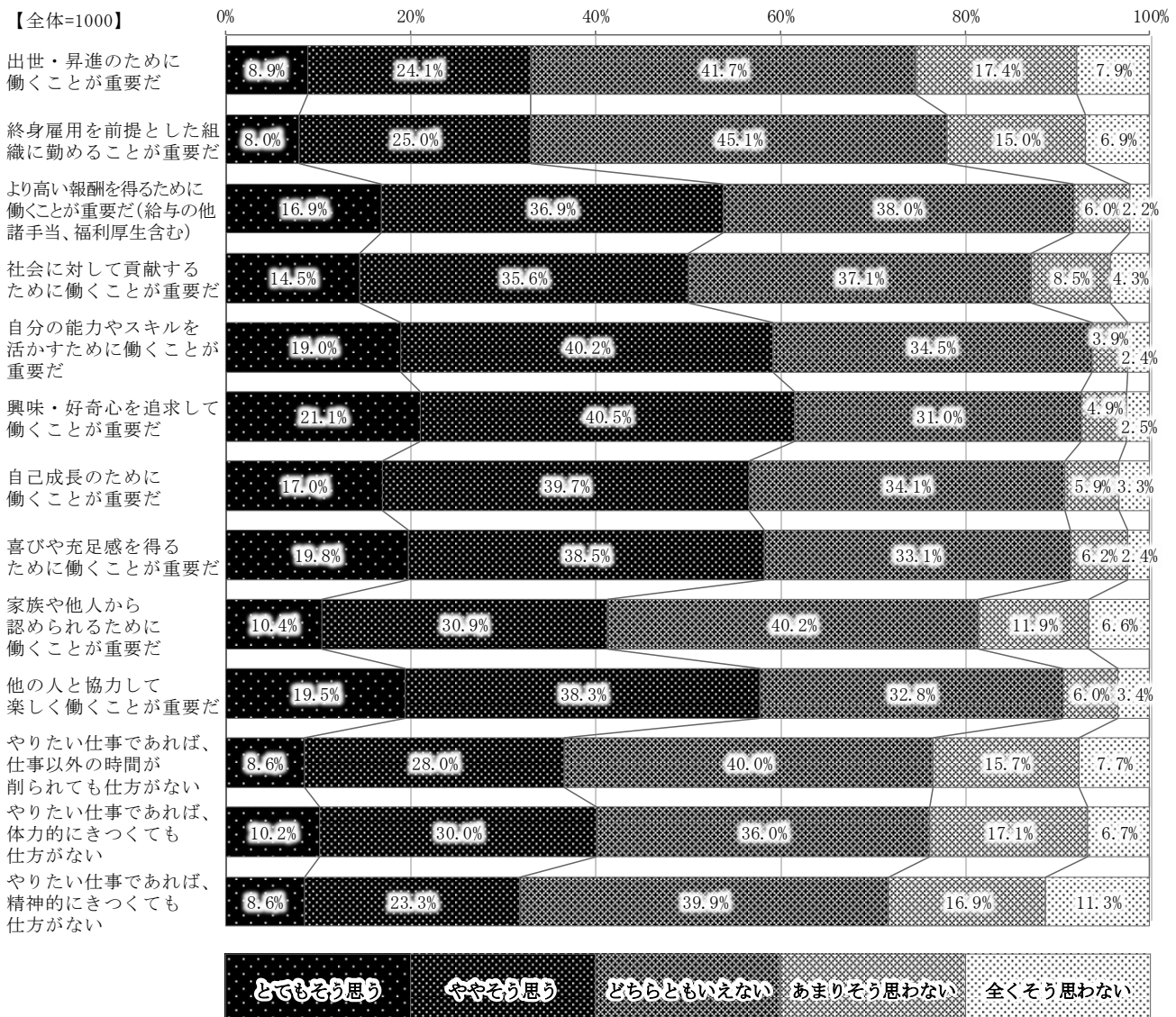
注 「その他」には、「大学で学んだ情報」があった。

3. キャリア意識

3.1. 現在のキャリア意識

- 「出世・昇進のために働くことが重要だ」については、肯定的回答（「とてもそう思う」「ややそう思う」）が約3割である。
- 「自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ」「興味・好奇心を追求して働くことが重要だ」「喜びや充足感を得るために働くことが重要だ」については、肯定的回答が約6割に上る。
- 「他の人と協力して楽しく働くことが重要だ」については、肯定的回答が約6割に上る。
- 「やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない」「やりたい仕事であれば、精神的にきつなくても仕方がない」「やりたい仕事であれば、体力的にきつなくても仕方がない」については否定的回答（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）は2~3割である。

図表 3.1.現在のキャリア意識（単一選択）



【大学生=400】

出世・昇進のために働くことが重要だ

終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ

より高い報酬を得るために働くことが重要だ(給与の他諸手当、福利厚生含む)

社会に対して貢献するために働くことが重要だ

自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ

興味・好奇心を追求して働くことが重要だ

自己成長のために働くことが重要だ

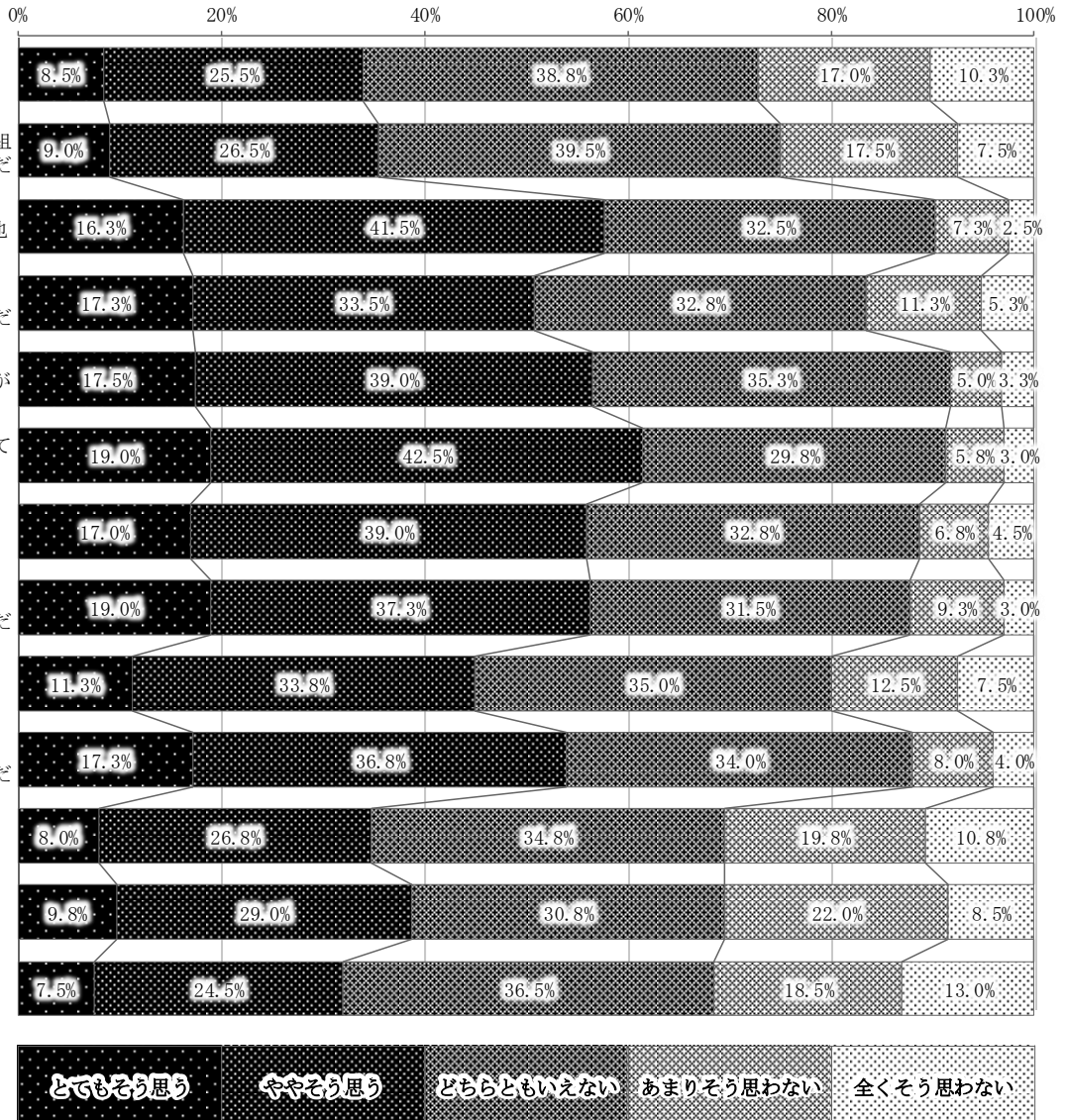
喜びや充足感を得るために働くことが重要だ

家族や他人から認められるために働くことが重要だ

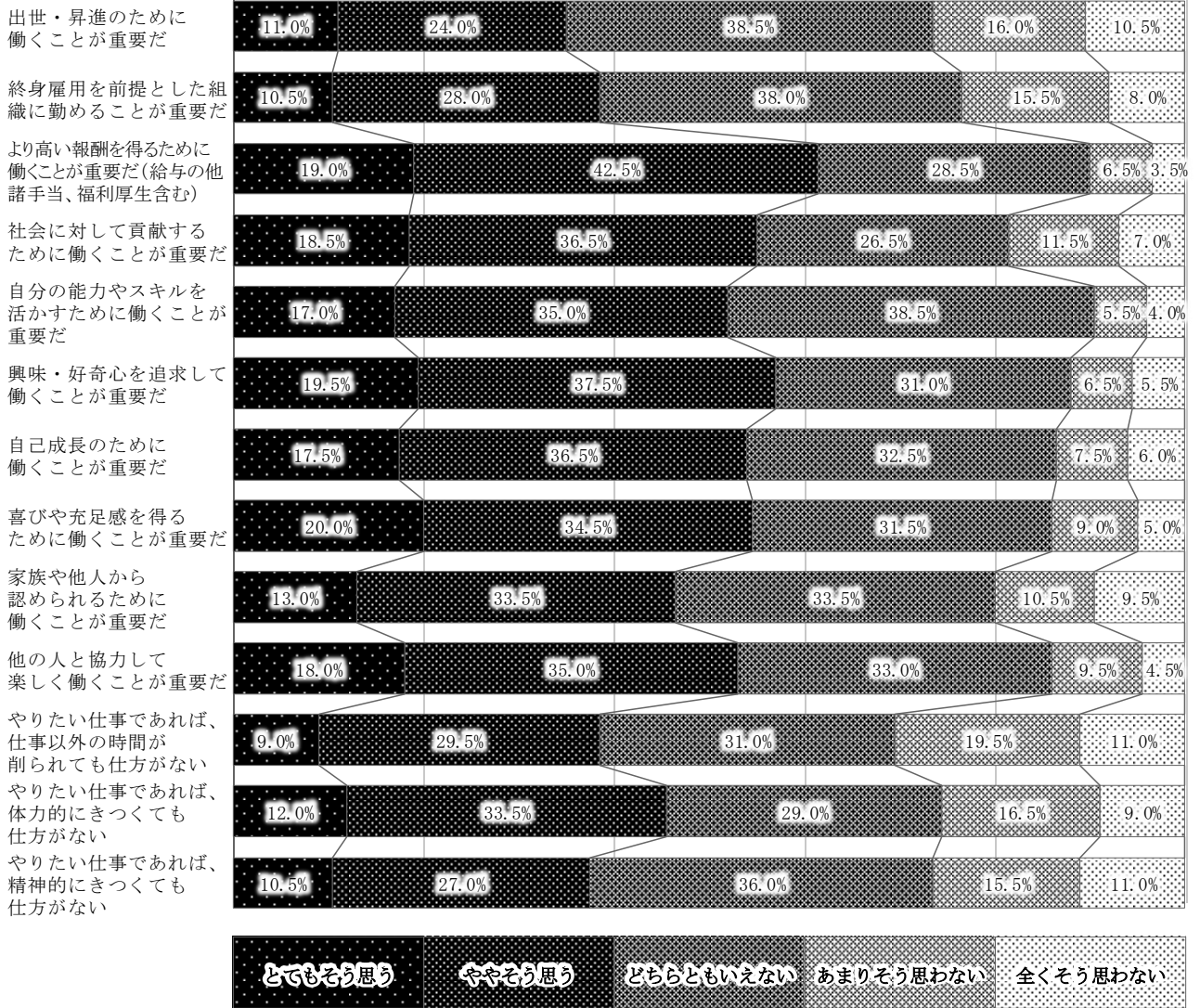
他の人と協力して楽しく働くことが重要だ

やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない
やりたい仕事であれば、体力的にきつくても仕方がない

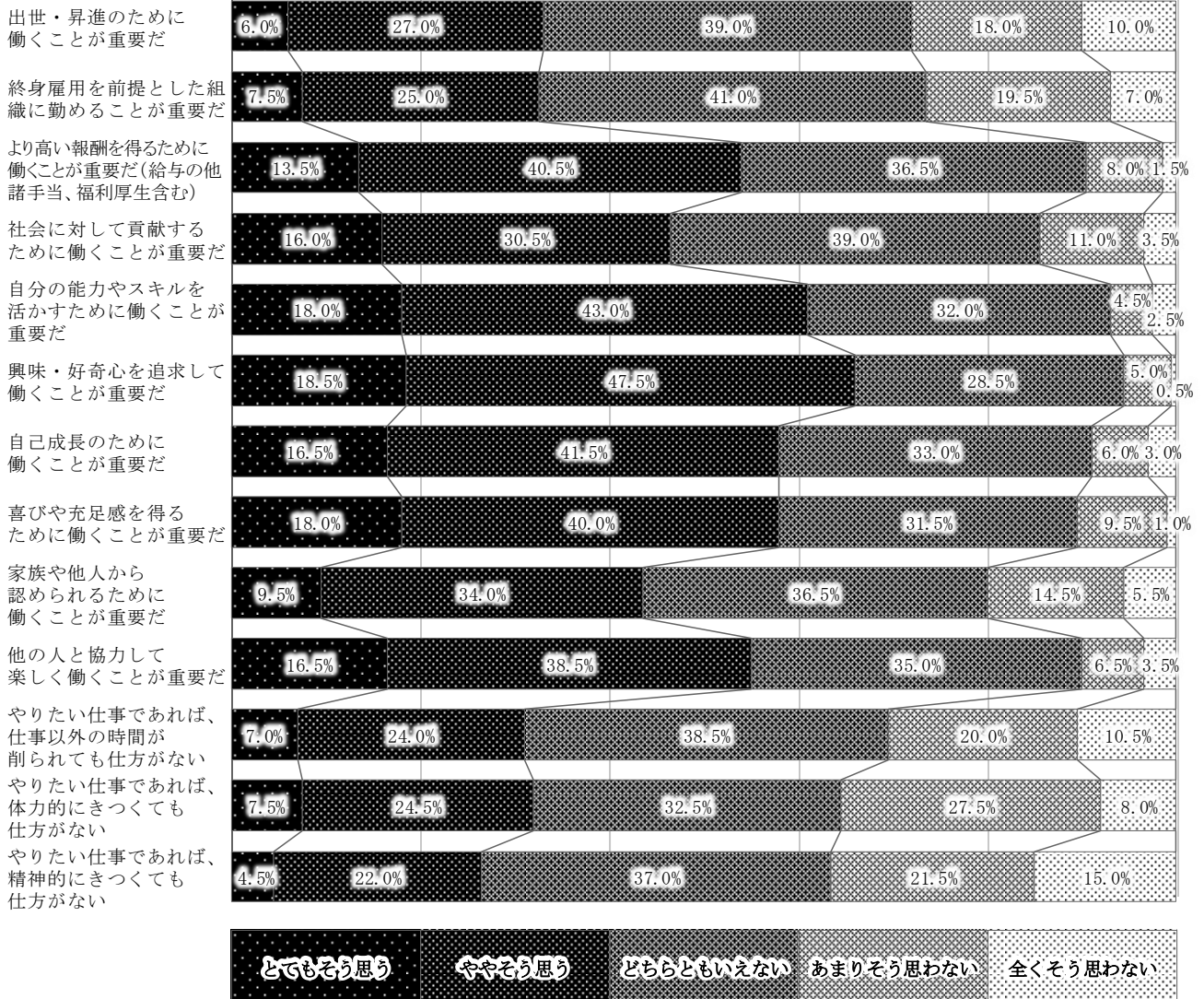
やりたい仕事であれば、精神的にきつくても仕方がない



【大学生・男=200】

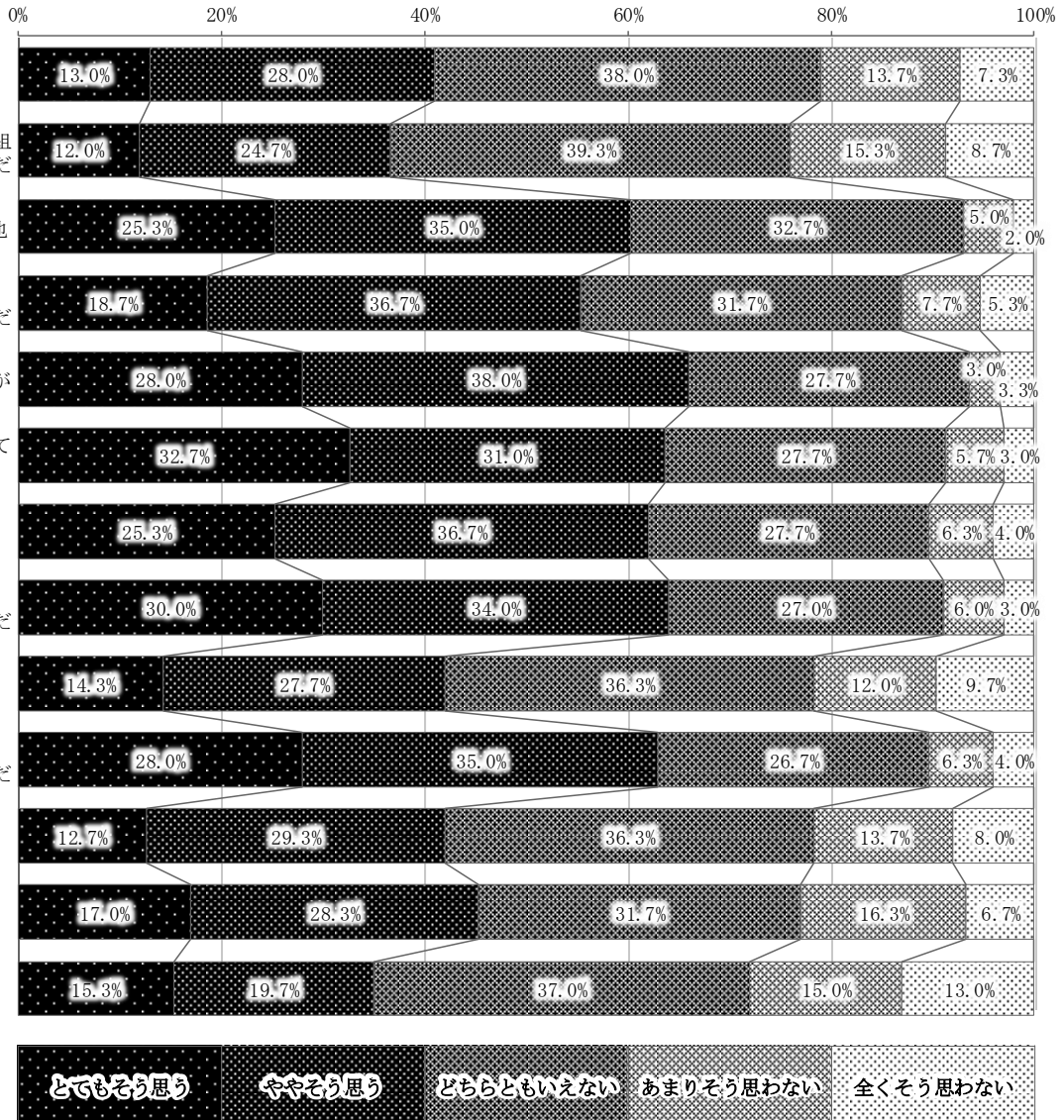


【大学生・女=200】

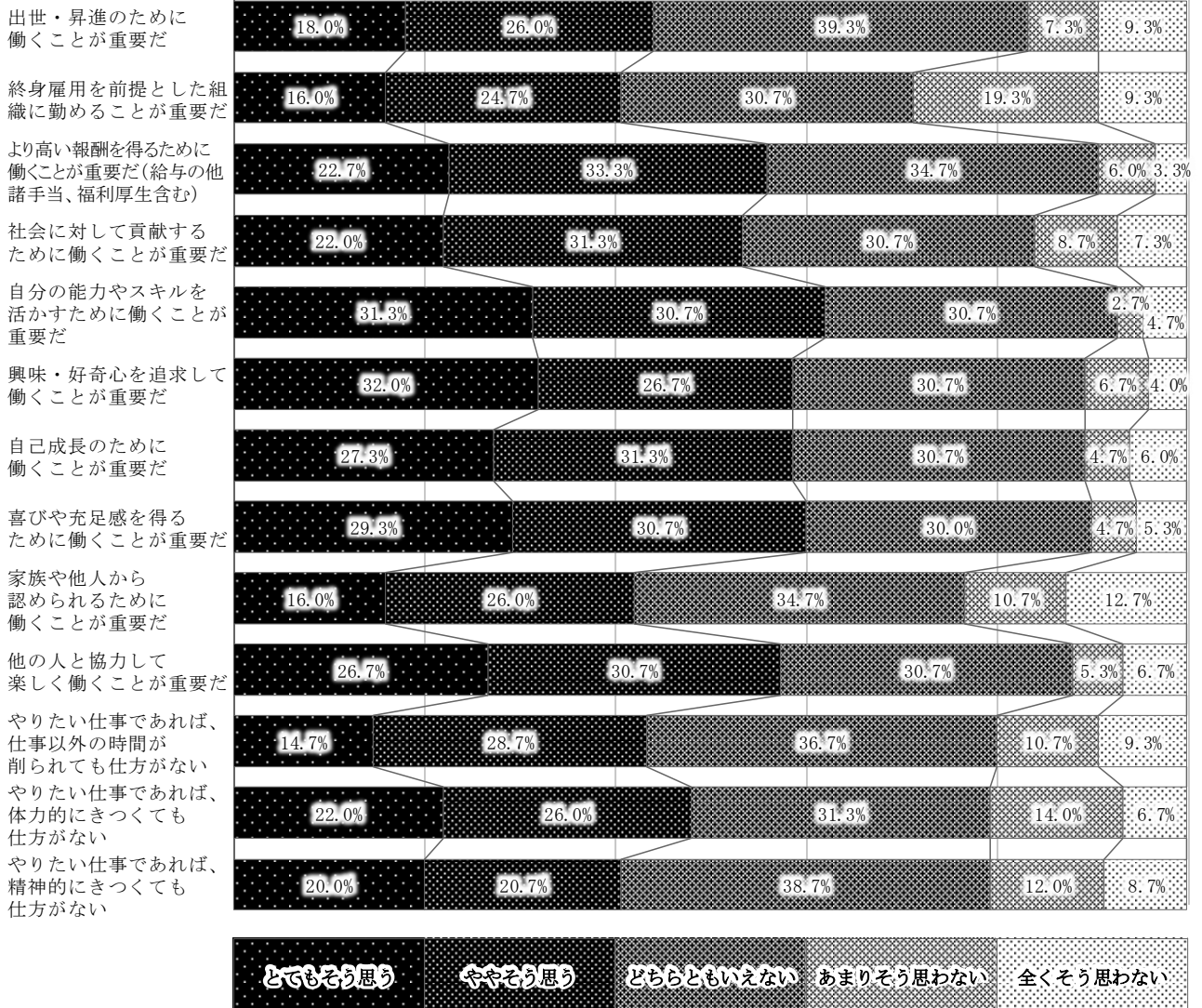


【高校生=300】

- 出世・昇進のために働くことが重要だ
- 終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
- より高い報酬を得るために働くことが重要だ(給与の他諸手当、福利厚生含む)
- 社会に対して貢献するために働くことが重要だ
- 自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
- 興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
- 自己成長のために働くことが重要だ
- 喜びや充足感を得るために働くことが重要だ
- 家族や他人から認められるために働くことが重要だ
- 他の人と協力して楽しく働くことが重要だ
- やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない
- やりたい仕事であれば、体力的にきつくても仕方がない
- やりたい仕事であれば、精神的にきつくても仕方がない



【高校生・男=150】

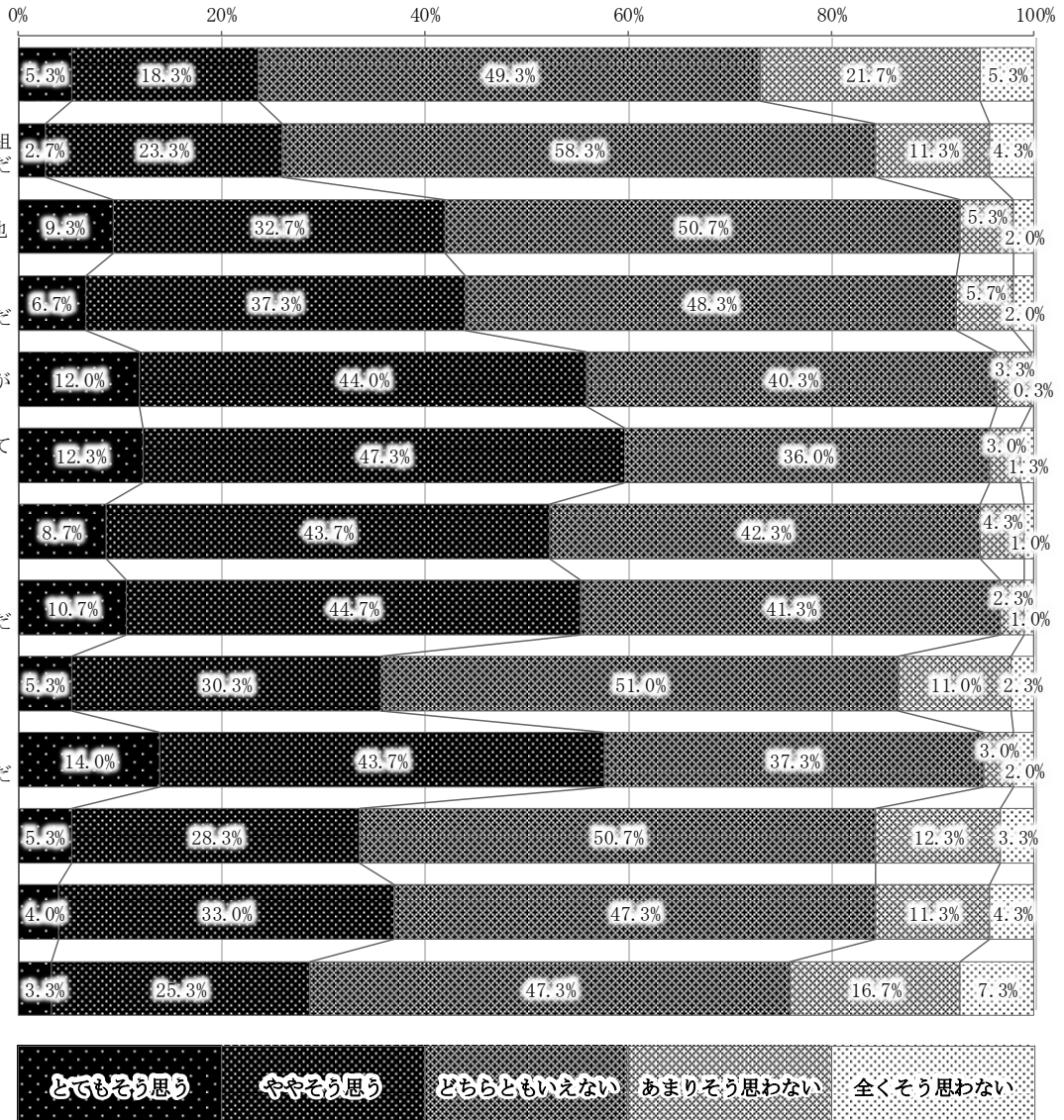


【高校生・女=150】



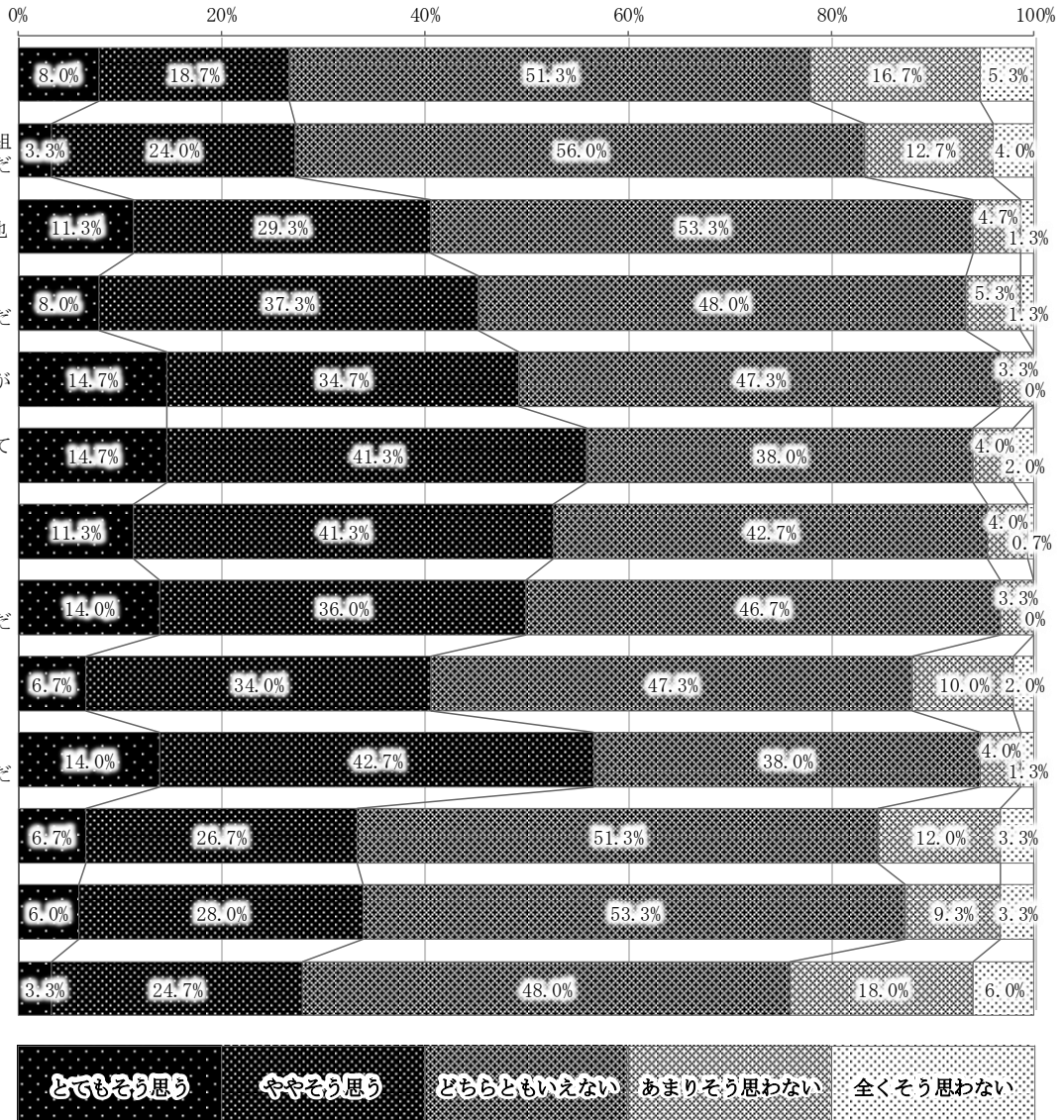
【中学生=300】

- 出世・昇進のために働くことが重要だ
- 終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
- より高い報酬を得るために働くことが重要だ(給与の他諸手当、福利厚生含む)
- 社会に対して貢献するために働くことが重要だ
- 自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
- 興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
- 自己成長のために働くことが重要だ
- 喜びや充足感を得るために働くことが重要だ
- 家族や他人から認められるために働くことが重要だ
- 他の人と協力して楽しく働くことが重要だ
- やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない
- やりたい仕事であれば、体力的にきつくても仕方がない
- やりたい仕事であれば、精神的にきつくても仕方がない



【中学生・男=150】

- 出世・昇進のために働くことが重要だ
- 終身雇用を前提とした組織に勤めることが重要だ
- より高い報酬を得るために働くことが重要だ(給与の他諸手当、福利厚生含む)
- 社会に対して貢献するために働くことが重要だ
- 自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ
- 興味・好奇心を追求して働くことが重要だ
- 自己成長のために働くことが重要だ
- 喜びや充足感を得るために働くことが重要だ
- 家族や他人から認められるために働くことが重要だ
- 他の人と協力して楽しく働くことが重要だ
- やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない
- やりたい仕事であれば、体力的にきつくても仕方がない
- やりたい仕事であれば、精神的にきつくても仕方がない



【中学生・女=150】

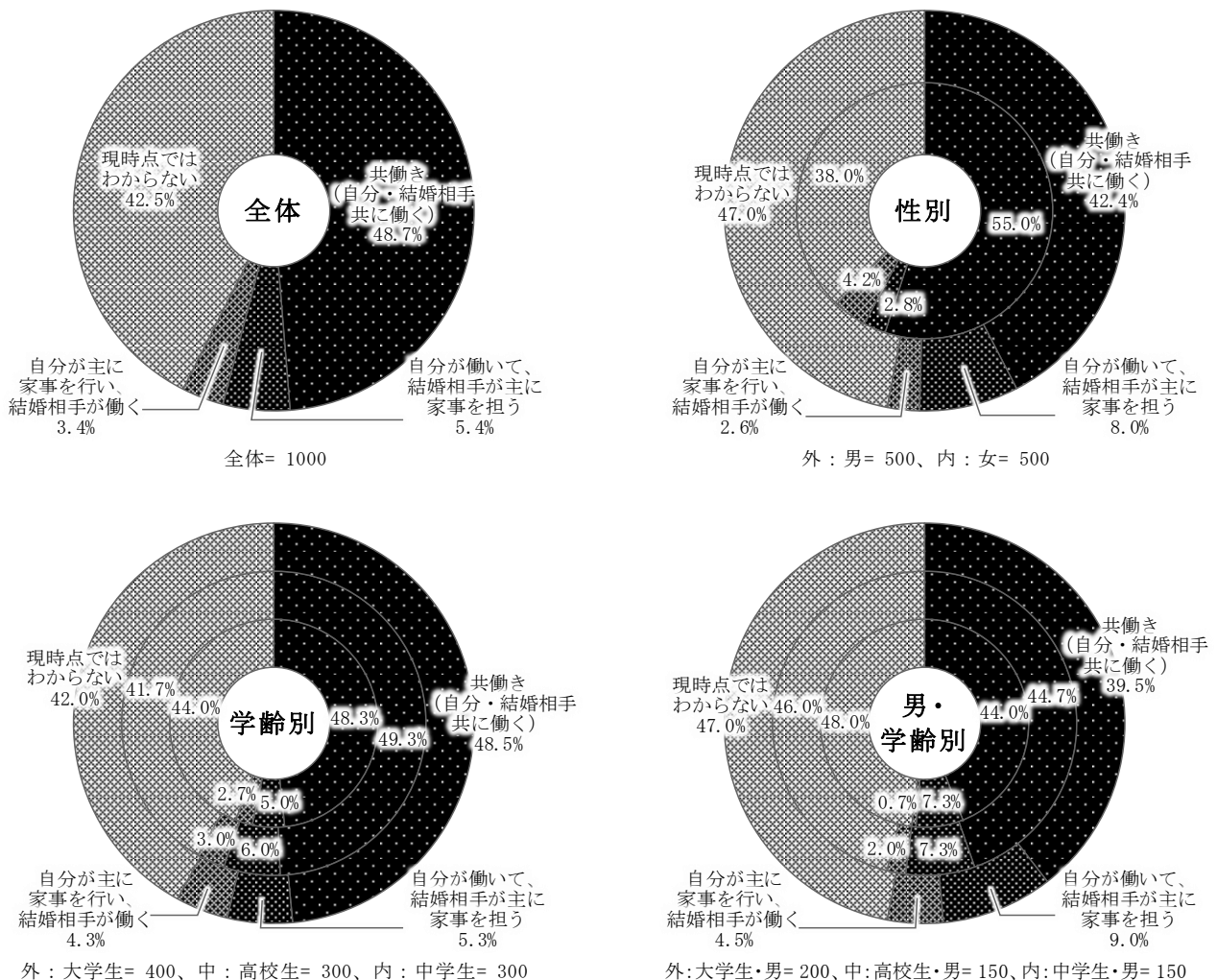


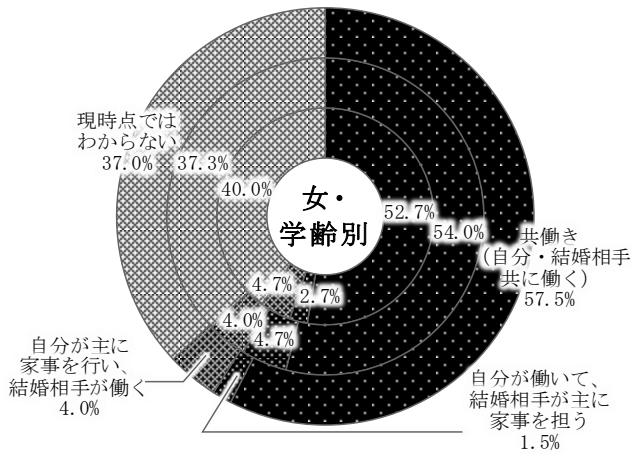
3.2. 結婚後に希望する働き方

3.2.1. 結婚後に希望する働き方_子どもがいない場合

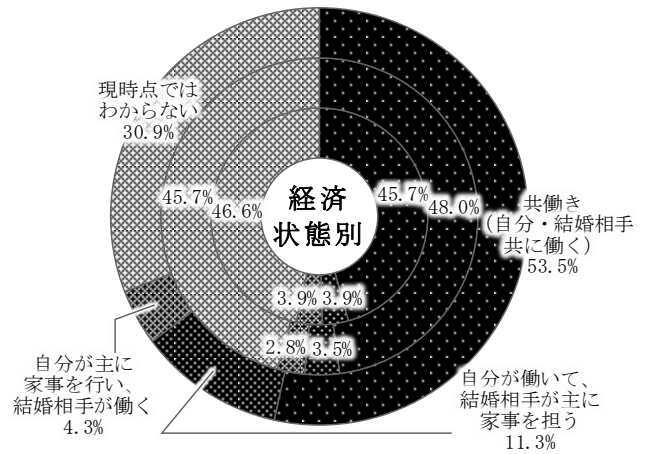
- 結婚後、子どもがいない場合に希望する働き方として、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（48.7%）を選んだ若者が最も多い。また、男子（42.4%）より多くの女子（55.0%）が「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んでおり、女子の共働きへの意欲が高い状況がうかがえる。
- 学齢別では、大学生、高校生、中学生いずれにおいても、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んだ割合が約5割である。ただし、学齢別・性別では、男子は大学生が高校生及び中学生よりも「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を希望する割合が低い一方、女子は年齢が上昇するにしたがって「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を希望する割合が上昇しており、傾向の差異がみられた。
- 経済状態別では、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んだ割合は、豊かと回答した若者が53.5%と最も高く、普通と回答した若者（48.0%）、苦しいと回答した若者（45.7%）と続く。また、海外経験別では、海外経験がある若者が54.4%、海外経験がない若者が48.3%である。
- 海外経験の有無別では、海外経験ありの若者は、海外経験なしの若者に比べて「自分が働いて結婚相手が主に家事/育児を担う」（海外経験あり（19.1%）、海外経験なし（4.4%））が多く、「現時点ではわからない」（海外経験あり（20.6%）、海外経験なし（44.1%））が少ない。

図表 3.2.1.結婚後に希望する働き方_子どもがいない場合（単一選択）

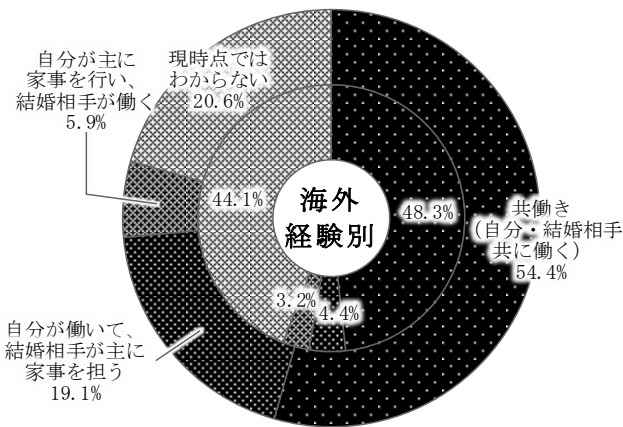




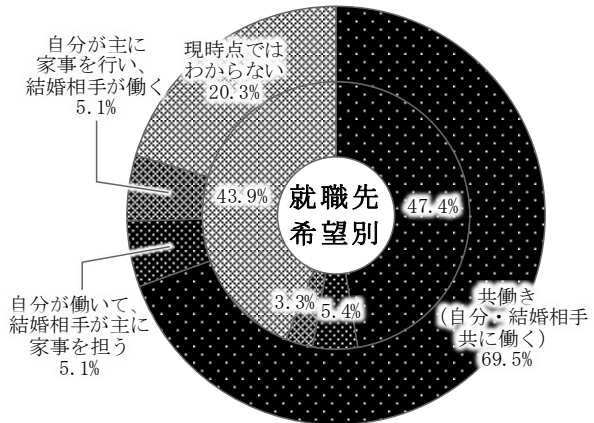
外: 大学生・女= 200、中: 高校生・女= 150、内: 中学生・女= 150



外: 豊かと回答= 230、中: 普通と回答= 538、内: 苦しいと回答= 232



外: 海外経験あり= 68、内: 海外経験なし= 932

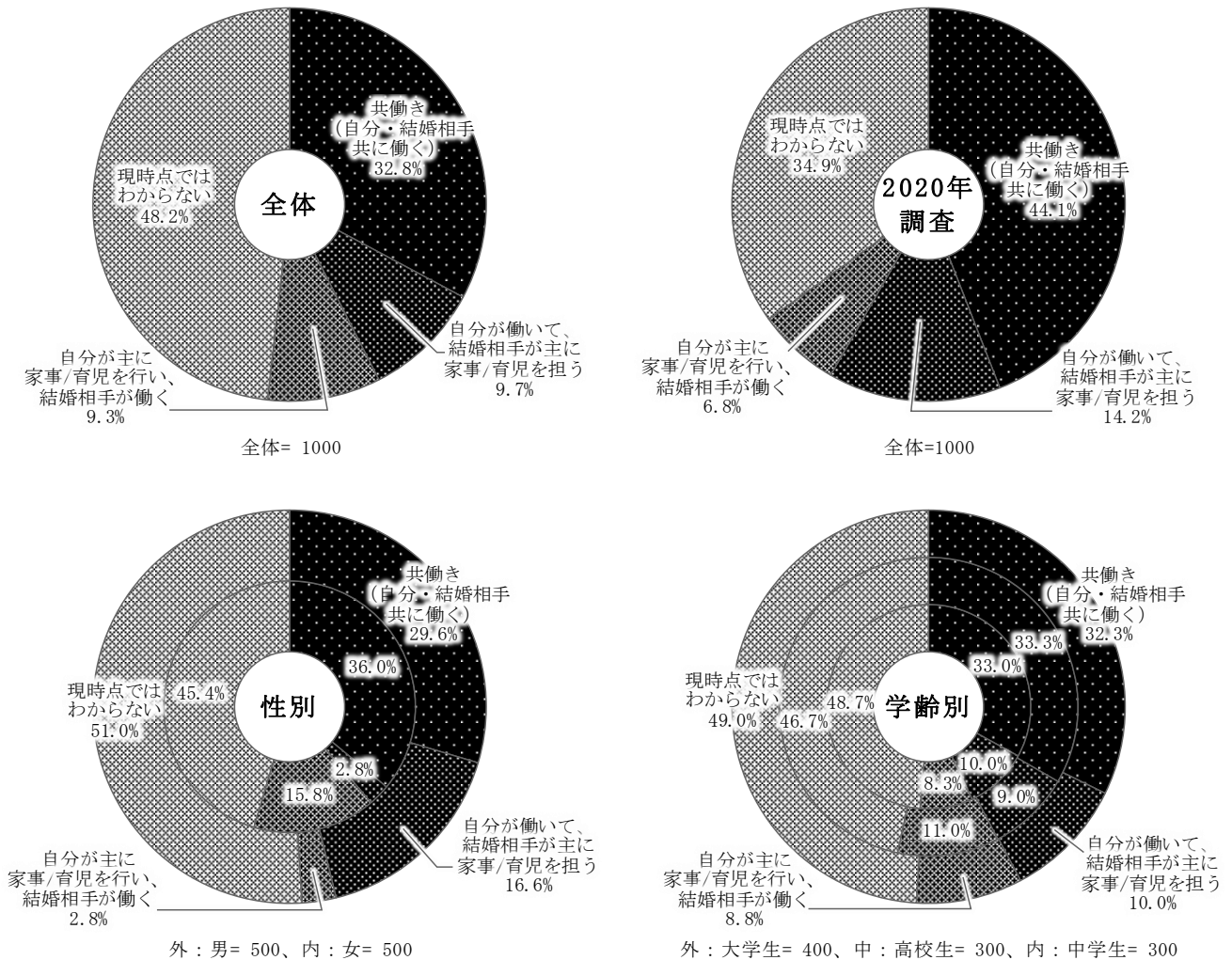


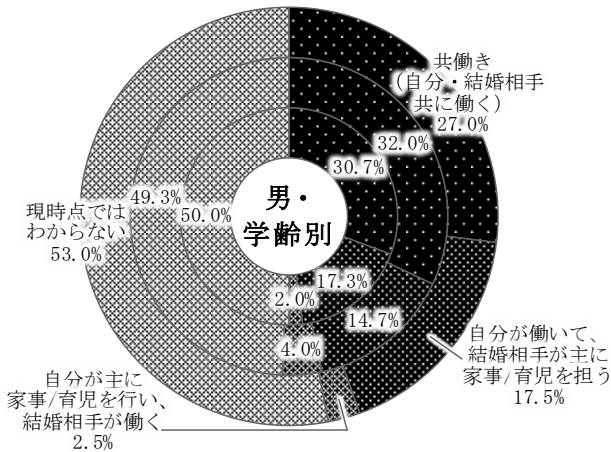
外: 将来就職したい企業や団体として、1位に「仕事と家庭の両立がしやすい」を選択した回答者= 59
内: その他の回答者= 941

3.2.2. 結婚後に希望する働き方_子どもがいる場合

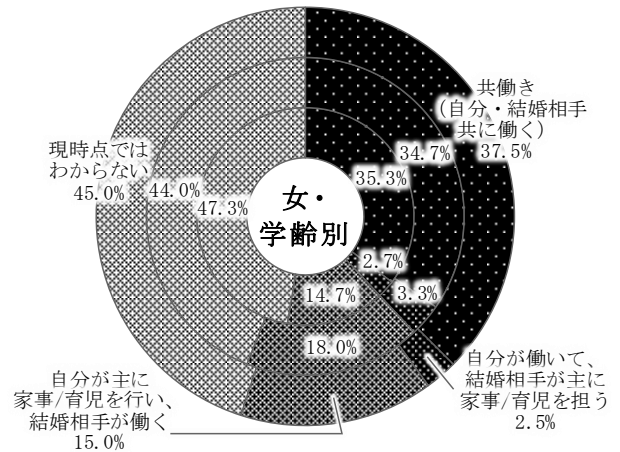
- 結婚後に、子どもがいる場合の自分が希望する働き方として、「現時点ではわからない」を除くと、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（32.8%）を選んだ若者が最も多いものの、前回調査と比べて割合は低下している。また、結婚後に子どもがいない場合と比べても割合は低い。
- 海外経験の有無別では、海外経験ありの若者は、海外経験なしの若者に比べて「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（海外経験あり（50.0%）、海外経験なし（31.5%））が多く、「現時点ではわからない」（海外経験あり（22.1%）、海外経験なし（50.1%））が少ない。

図表 3.2.2.結婚後に希望する働き方_子どもがいる場合（単一選択）

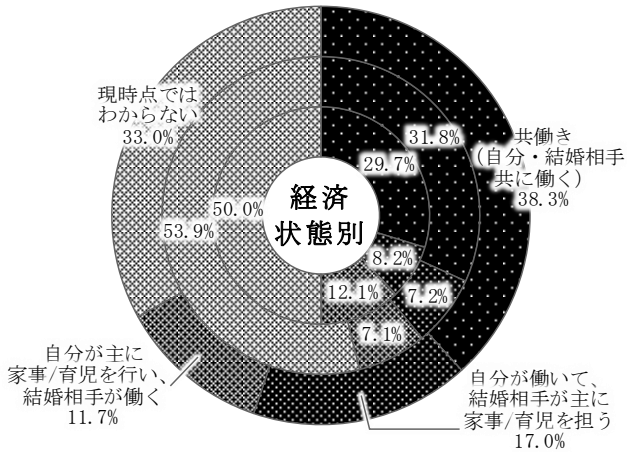




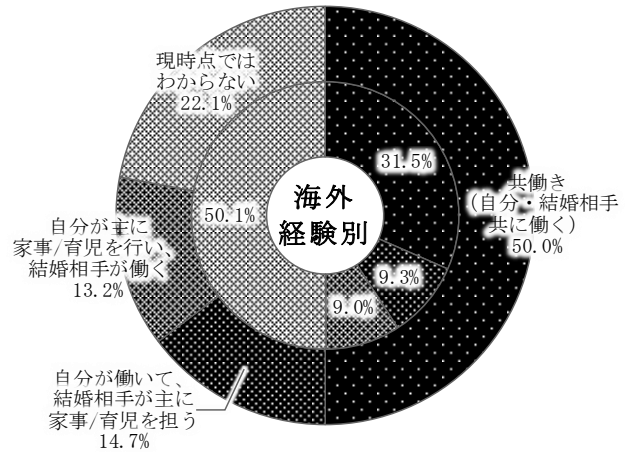
外: 男・大学生= 200、中: 男・高校生・男= 150、内: 男・中学生= 150



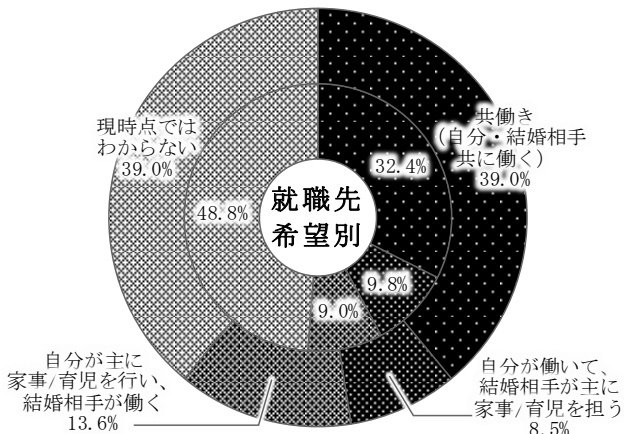
外: 女・大学生= 200、中: 女・高校生・男= 150、内: 女・中学生= 150



外: 豊かと回答= 230、中: 普通と回答= 538、内: 苦しいと回答= 232



外: 海外経験あり= 68、内: 海外経験なし= 932

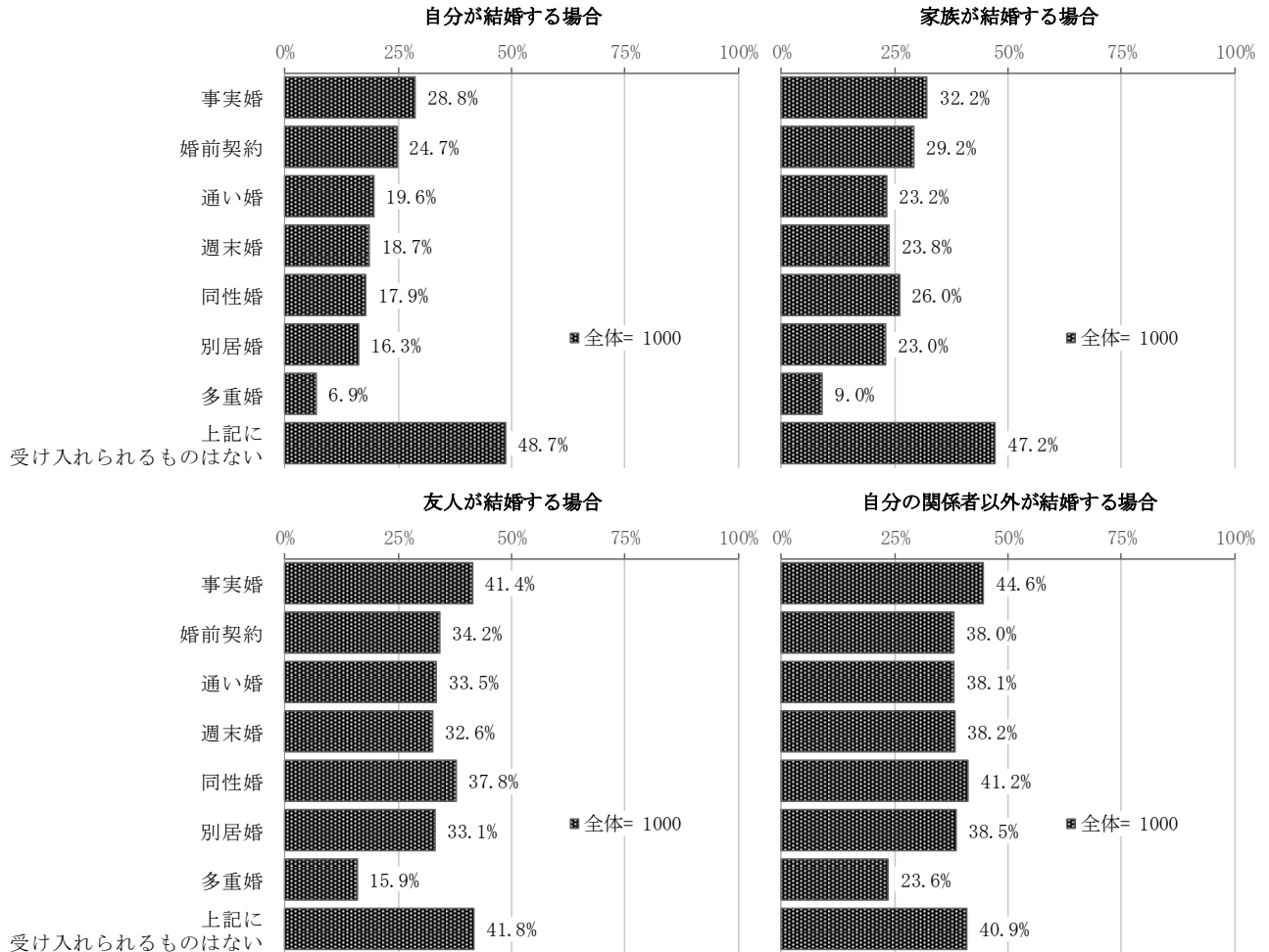


外: 将来就職したい企業や団体として、1位に「仕事と家庭の両立がしやすい」を選択した回答者= 59
内: その他の回答者= 941

3.3. 多様な結婚に対する意識

- だれが結婚する場合においても、事実婚が最も受け入れられている一方、多重婚は他の結婚の形と比べて強い抵抗感があるとみられる。
- また、すべての結婚の形で、自分の関係者以外が結婚する場合、友人が結婚する場合、家族が結婚する場合、自分が結婚する場合の順に、受け入れられる割合が高くなっている。

図表 3.3. 多様な結婚に対する意識（複数選択）

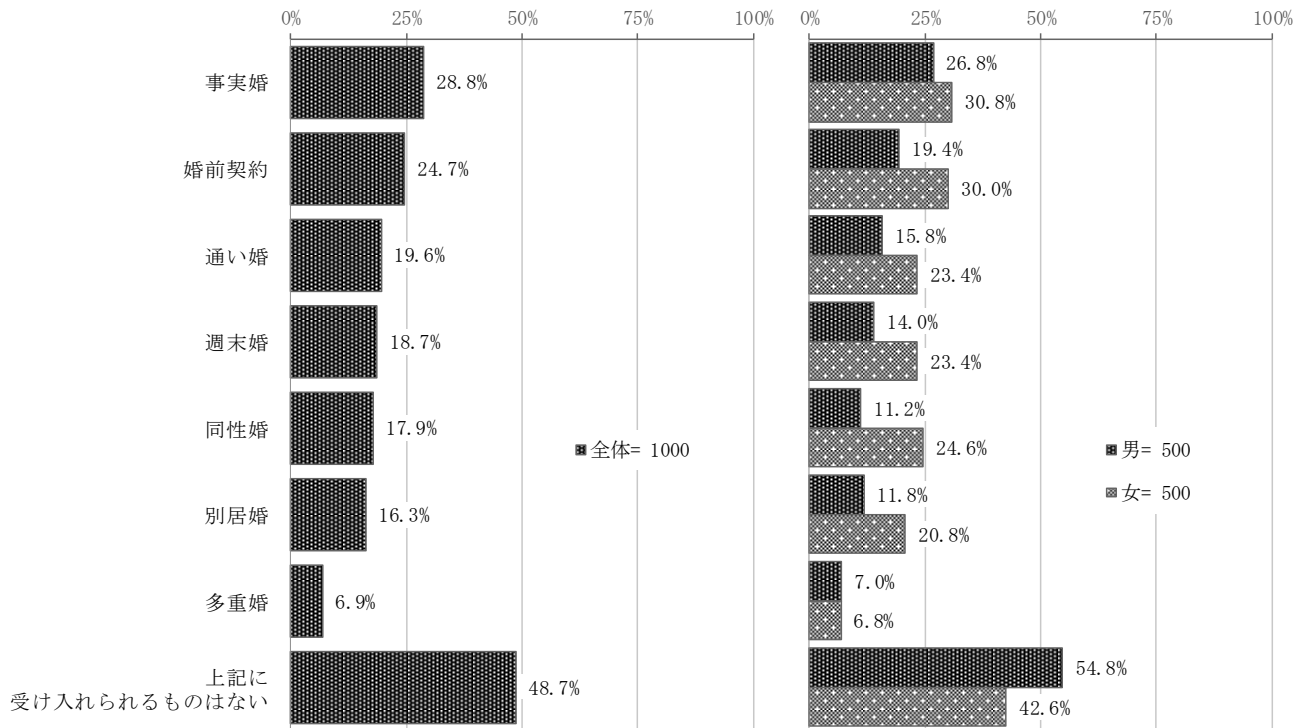


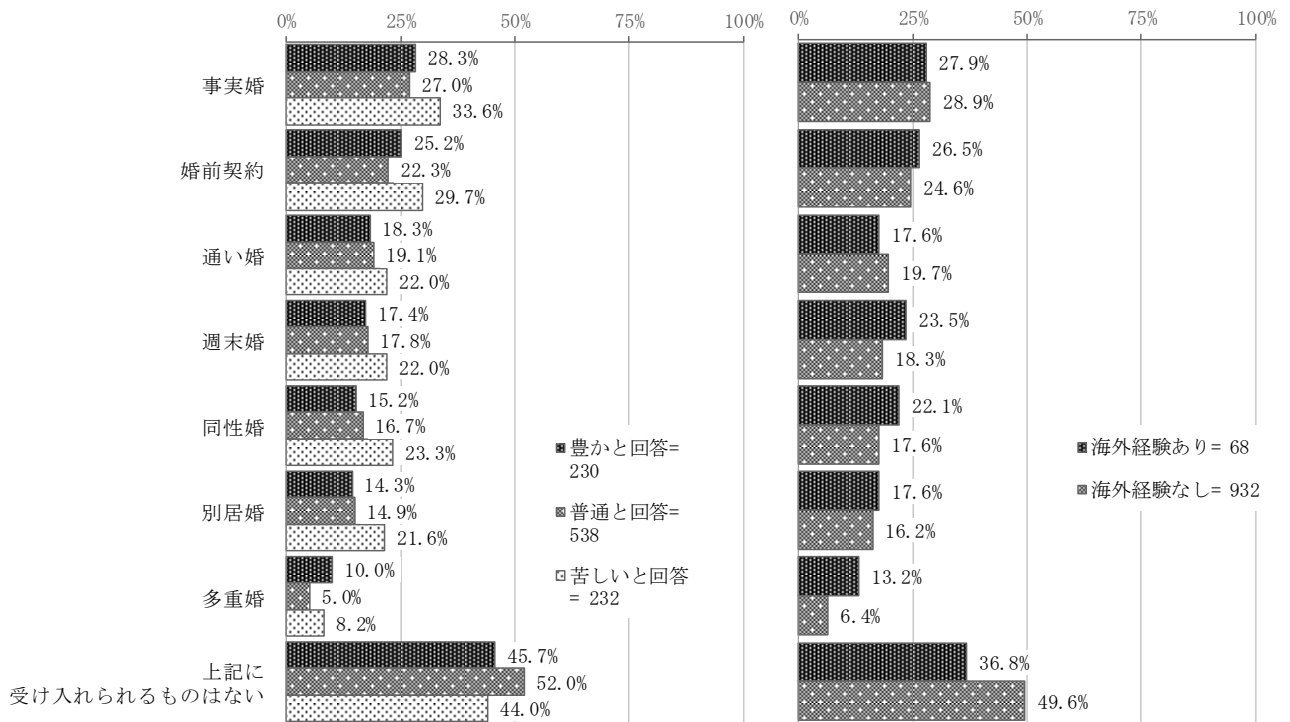
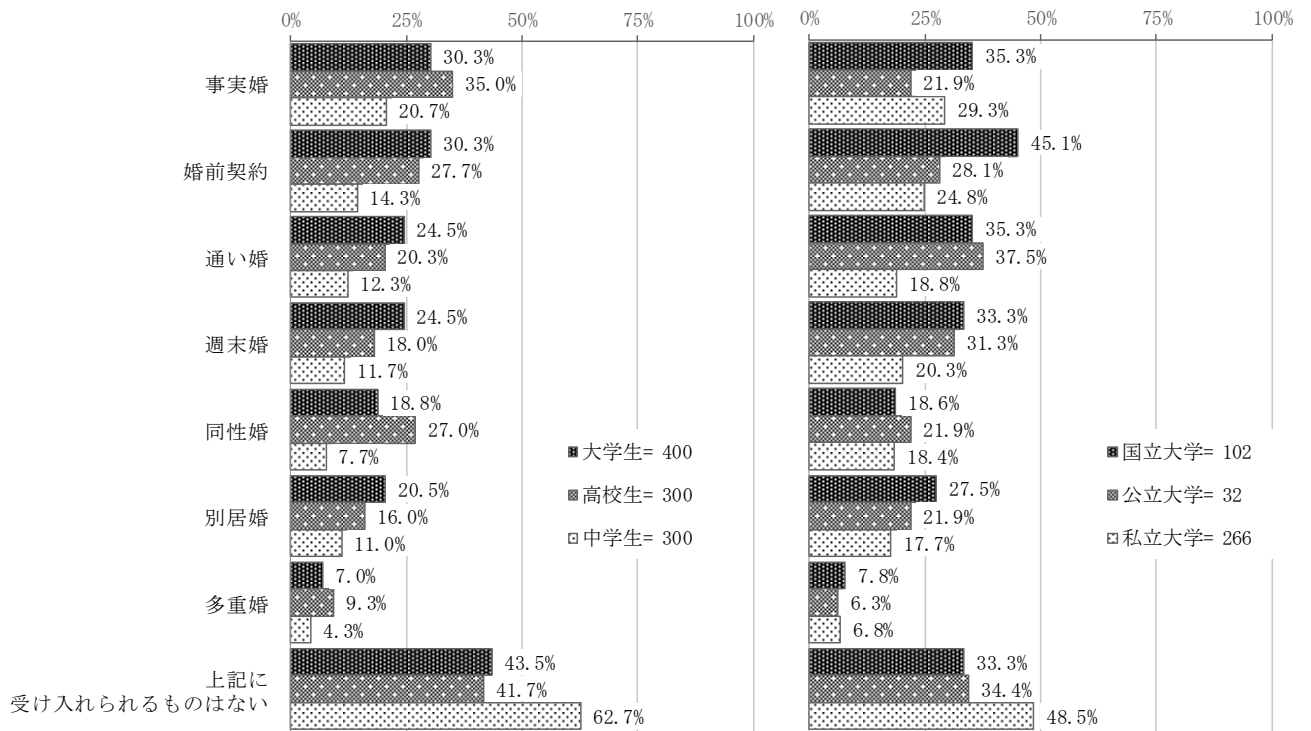
事実婚：パートナー（異性・同性）と、婚姻届を提出せずに、夫婦と同様の関係になること
 婚前契約：入籍前に結婚後の生活や離婚の際の条件などを契約で取り決めておくこと
 通い婚：婚姻届は提出するが、基本的には別居生活をし、2人の都合に合わせてお互いの家を行き来すること
 週末婚：婚姻届は提出するが、基本的には別居生活をし、週末だけ共同生活をする
 同性婚：同性同士が、パートナーシップ制度を使って、「結婚」に相当する関係になること
 別居婚：婚姻届は提出するが、別居生活を維持すること
 多重婚：1対1以上で結婚すること

3.3.1. 多様な結婚に対する意識_自分が結婚する場合

- 多様な結婚について、自分が結婚する場合の許容できる結婚形態としては、事実婚が28.8%と最も高く、婚前契約(24.7%)、通い婚(19.6%)、週末婚(18.7%)、同性婚(17.9%)、別居婚(16.3%)、多重婚(6.9%)と続く。
- 性別では、事実婚、婚前契約、通い婚、週末婚、同性婚、別居婚について、男子より女子のほうが受け入れられる割合が高い。一方で、多重婚については、男女ともに抵抗感が強く、大きな差異はみられない。
- 学齢別では、「上記に受け入れられるものはない」を選んだ割合は、大学生、高校生が約4割と、中学生が62.7%に比べると、多様な結婚に対する受容性が高い。
- 大学の学校種別では、国立大学の学生は婚前契約(45.1%)、公立大学の学生は通い婚(37.5%)、私立大学の学生は事実婚(29.3%)を選ぶ割合がそれぞれ多様な結婚形態のうちで最も高い。また、「上記に受け入れられるものはない」を選んだ割合は、私立大学の学生が48.5%に対して、国公立大学の学生が約3割であり、大学の学校種ごとに傾向の差異がみられる。
- 海外経験別では、「上記に受け入れられるものはない」を選んだ割合は、海外経験がない若者が49.6%と、海外経験がある若者(36.8%)と比べて高くなっている。

図表 3.3.1.多様な結婚に対する意識_自分が結婚する場合(複数選択)

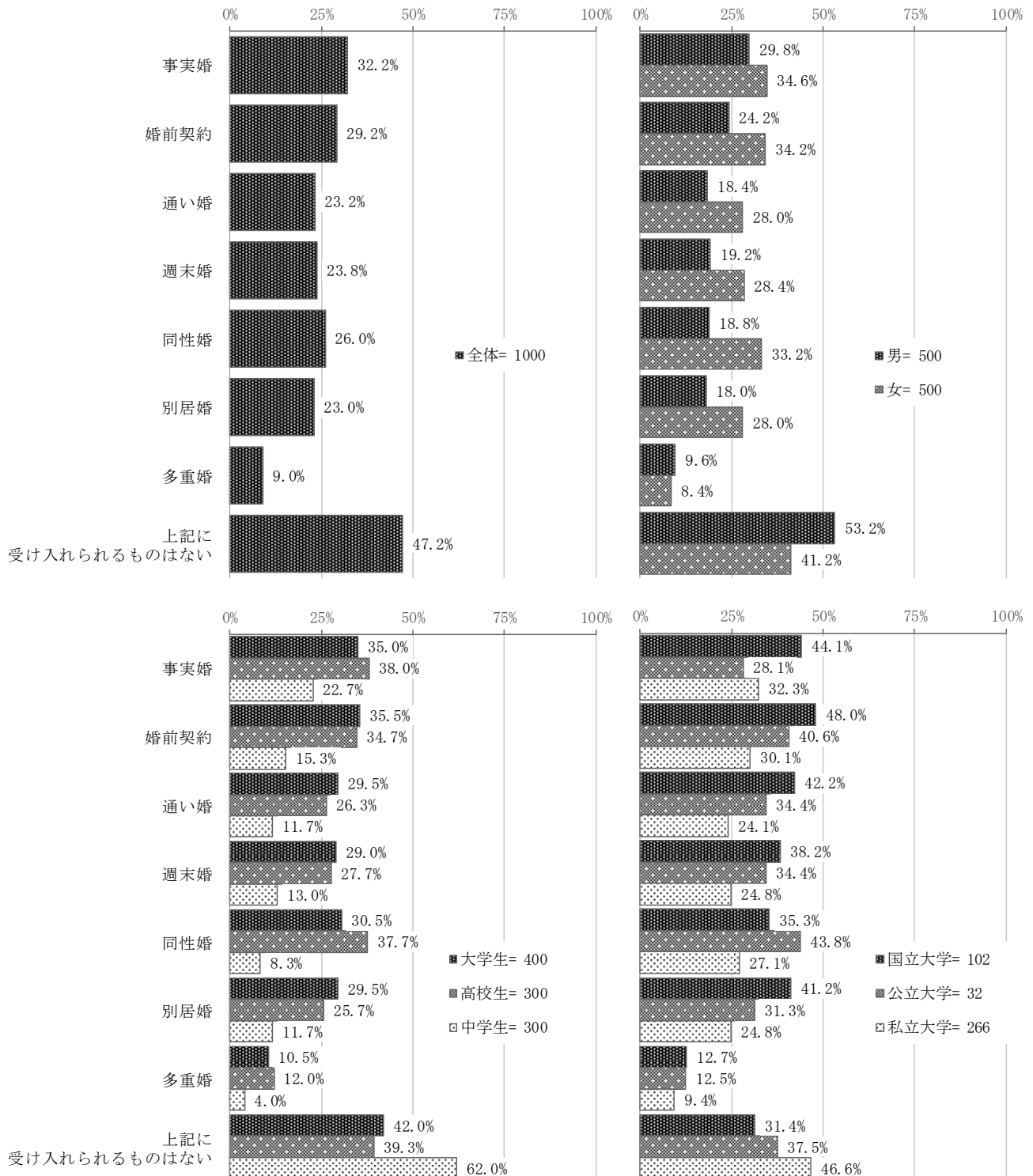


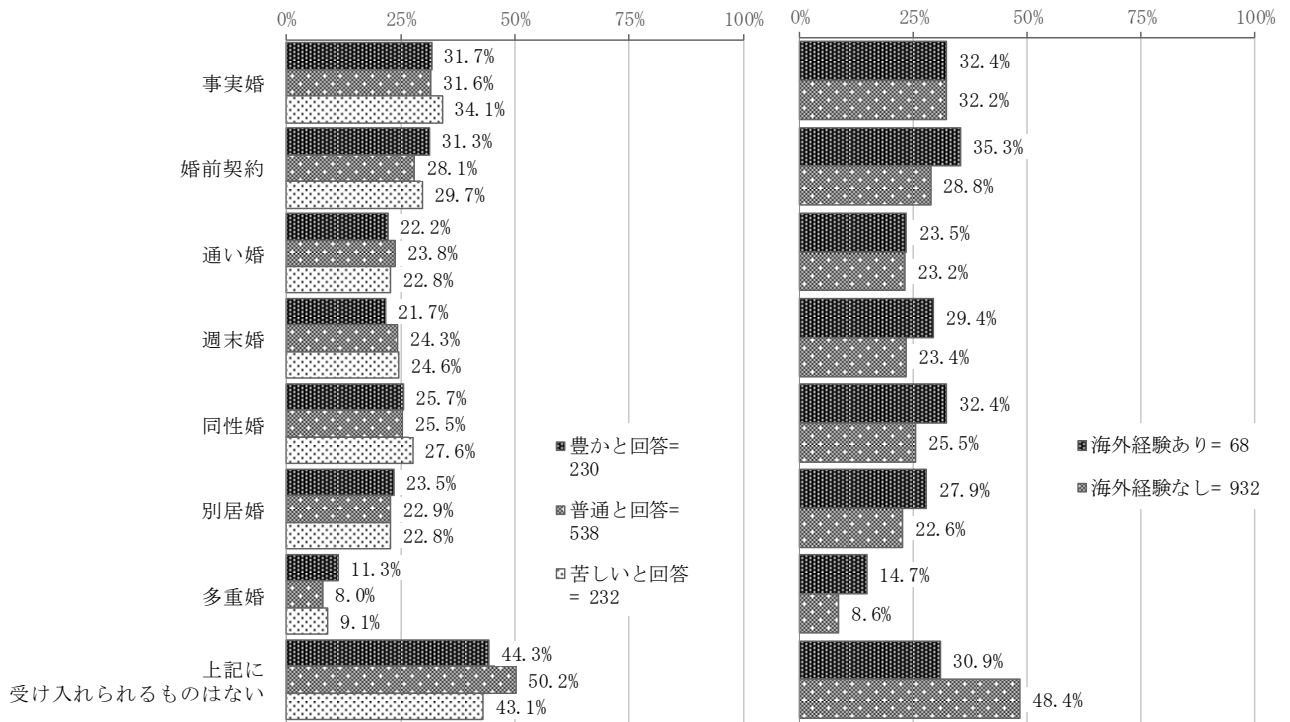


3.3.2. 多様な結婚に対する意識_家族が結婚する場合

- 多様な結婚について、家族が結婚する場合の許容できる結婚形態としては、事実婚が32.2%と最も高く、婚前契約(29.2%)、同性婚(26.0%)、週末婚(23.8%)、通い婚(23.2%)、別居婚(23.0%)、多重婚(9.0%)と続く。
- 大学の学校種別では、「上記に受け入れられるものはない」を除くと、国公立大学の学生は婚前契約を選ぶ割合が最も高い一方で、私立大学の学生は事実婚を選ぶ割合が最も高い。

図表 3.3.2. 多様な結婚に対する意識_家族が結婚する場合 (複数選択)

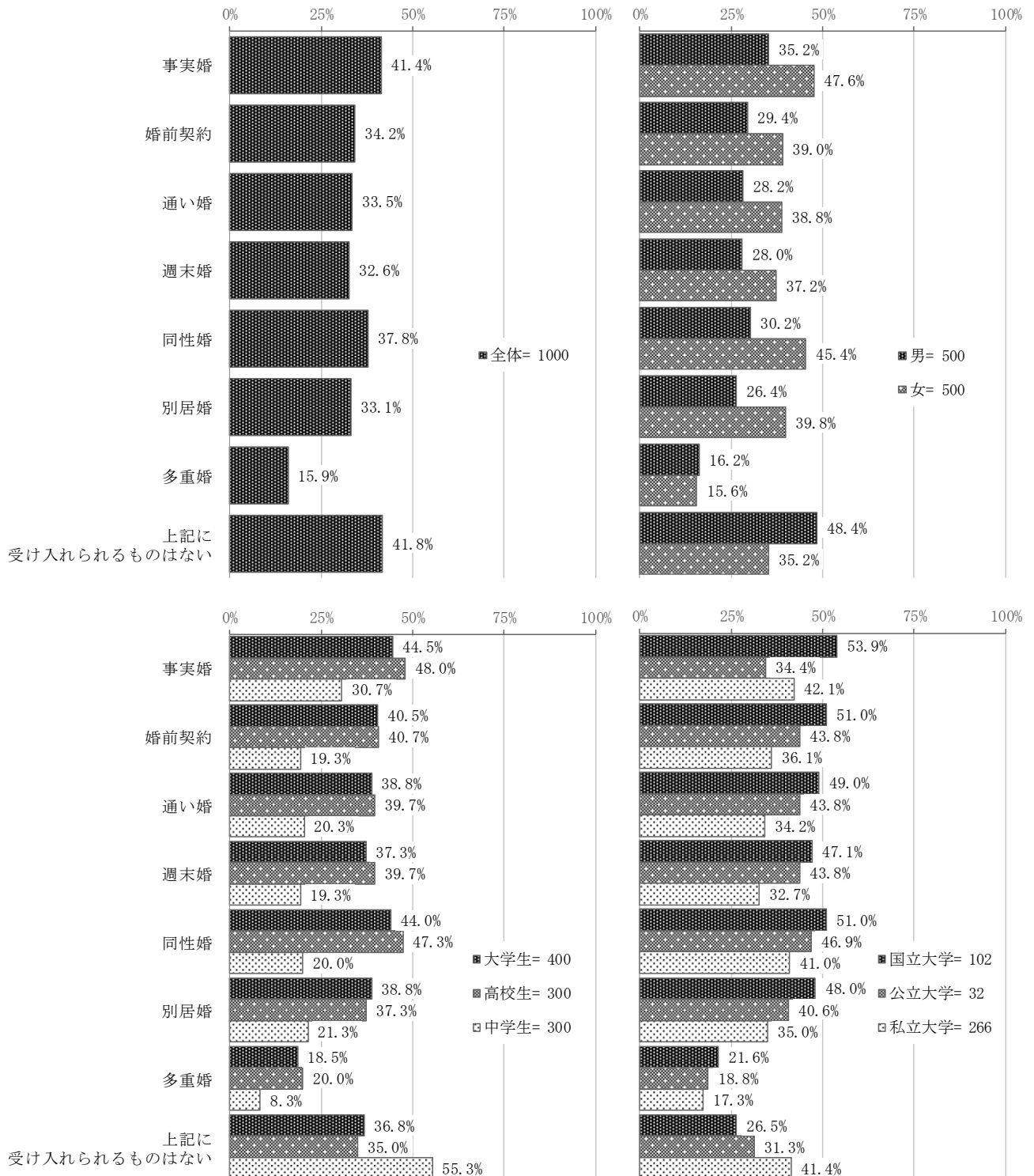


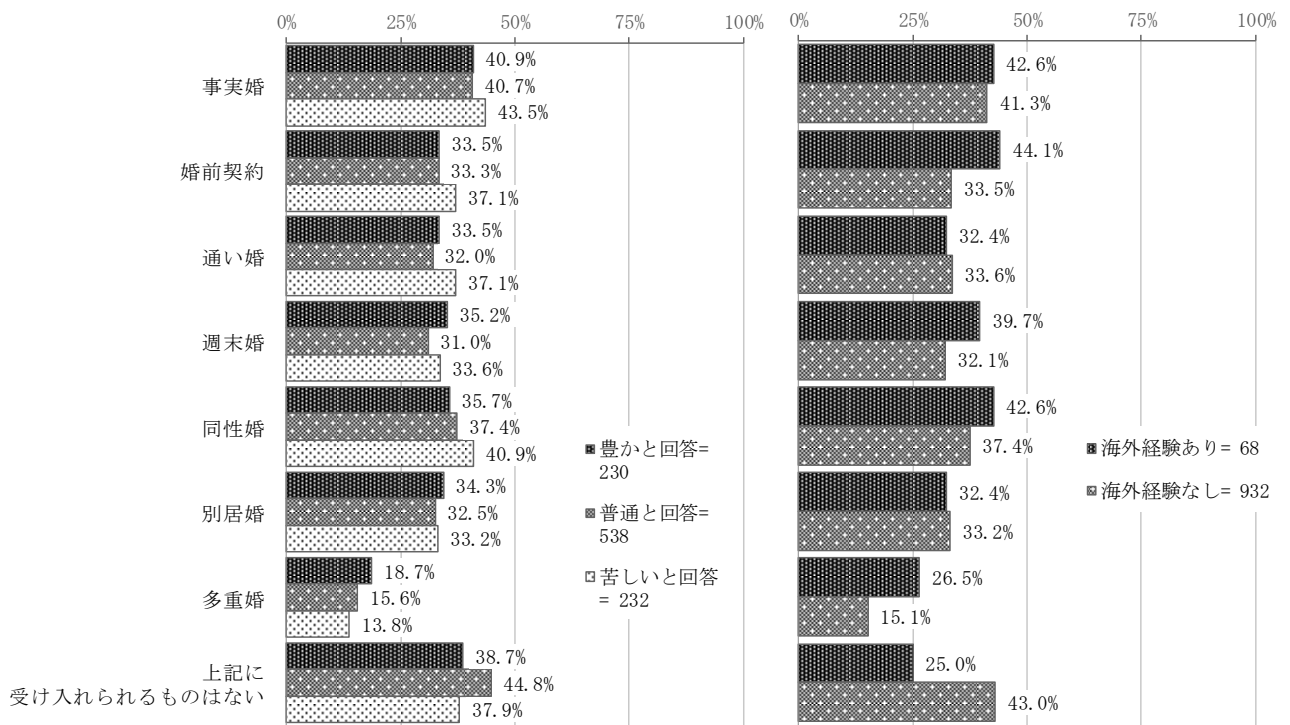


3.3.3. 多様な結婚に対する意識_友人が結婚する場合

- 多様な結婚について、友人が結婚する場合の許容できる結婚形態としては、事実婚が41.4%と最も高く、同性婚(37.8%)、婚前契約(34.2%)、通い婚(33.5%)、別居婚(33.1%)、週末婚(32.6%)、多重婚(15.9%)と続く。
- 大学の学校種別では、国立大学および私立大学の学生は事実婚を選ぶ割合が最も高い一方で、公立大学の学生は同性婚を選ぶ割合が最も高い。

図表 3.3.3.多様な結婚に対する意識_友人が結婚する場合 (複数選択)

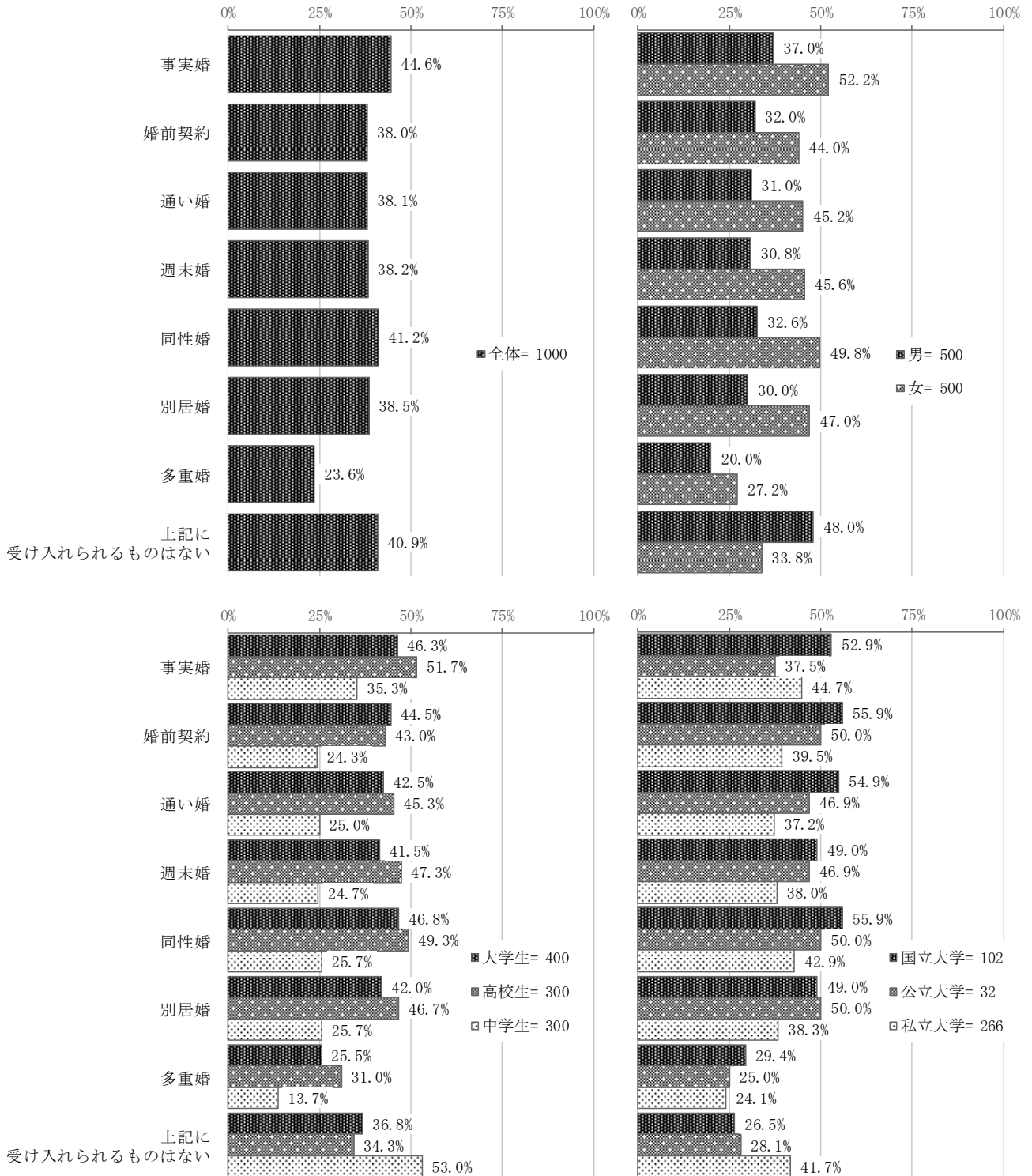


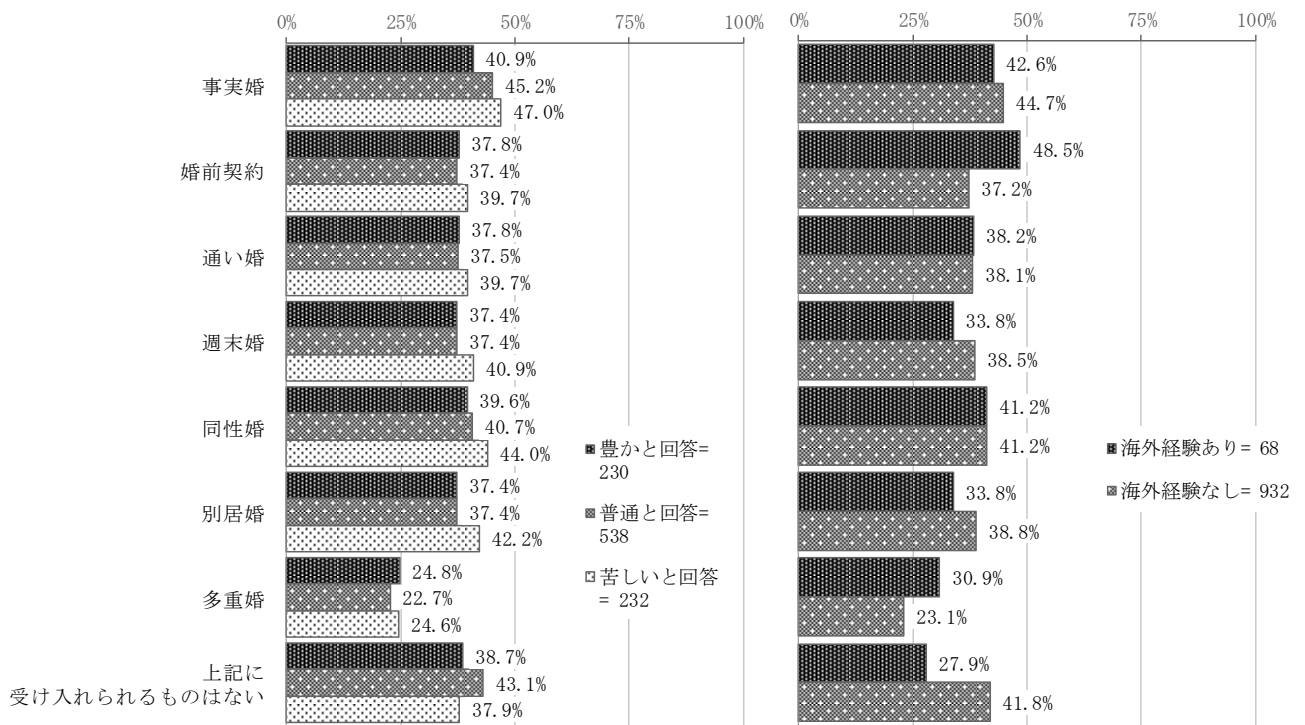


3.3.4. 多様な結婚に対する意識_自分の関係者以外が結婚する場合

- 多様な結婚について、自分の関係者以外が結婚する場合の許容できる結婚形態として、事実婚が 44.6% と最も高く、同性婚 (41.2%)、別居婚 (38.5%)、週末婚 (38.2%)、通い婚 (38.1%)、婚前契約 (38.0%)、多重婚 (23.6%) と続く。
- 性別、学齢別、経済状態別、海外経験別では、自分が結婚する場合と同じ傾向がみられる。
- 大学の学校種別では、国立大学の学生は婚前契約および同性婚 (55.9%)、公立大学の学生は婚前契約、同性婚および別居婚 (50.0%)、私立大学の学生は事実婚 (44.7%) を選ぶ割合がそれぞれ最も高い。

図表 3.3.4.多様な結婚に対する意識_自分の関係者以外が結婚する場合 (複数選択)

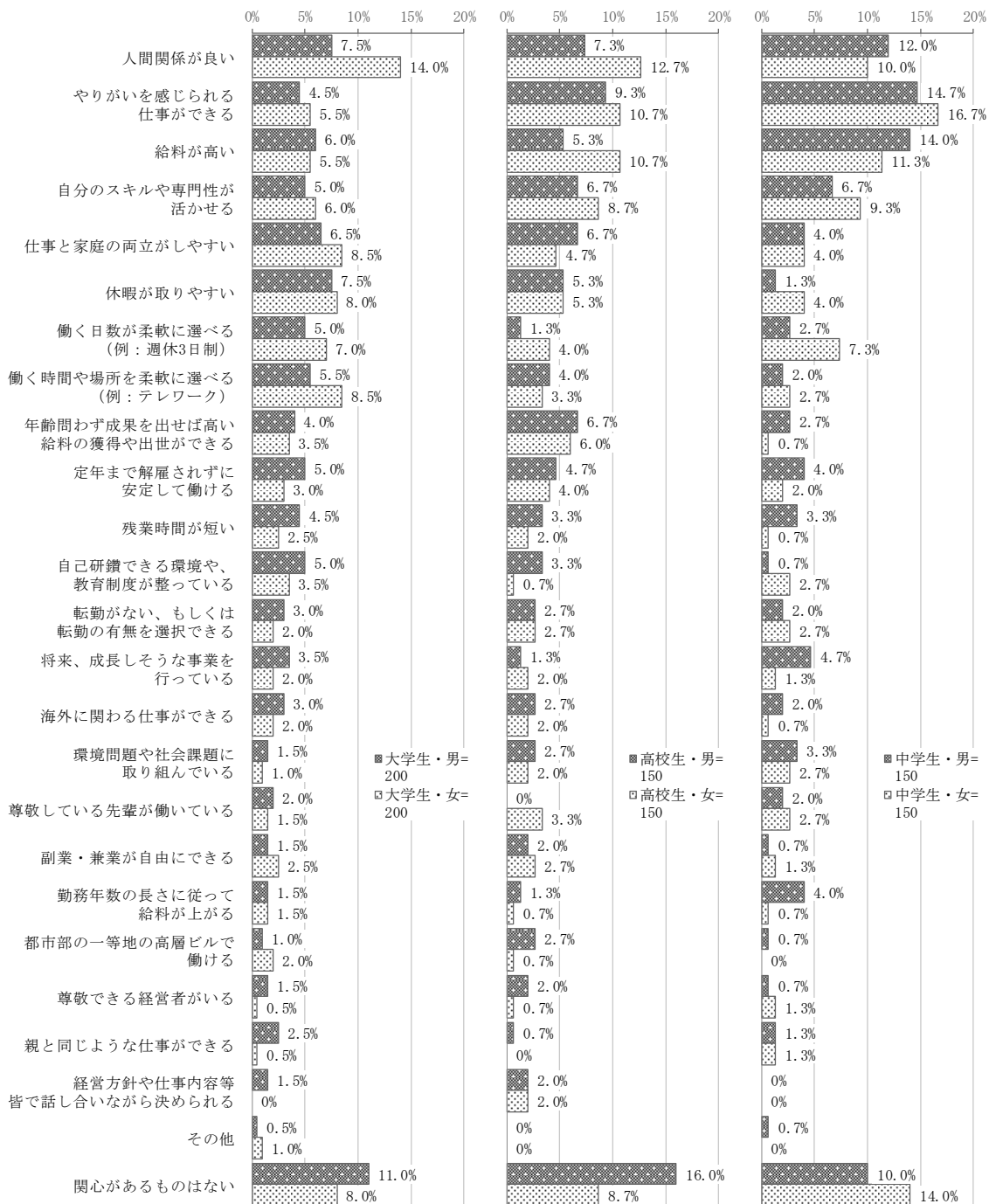




3.4. 就職したい企業や団体の条件

- 就職したい企業や団体の条件として、中学生は「やりがいを感じられる仕事ができる」、高校生は「やりがいを感じられる仕事ができる」や「人間関係が良い」、大学生は「人間関係が良い」を多く挙げており、年齢が上昇するにしたがって、重視する条件がやりがいを感じられることから、人間関係のよさにシフトしている。
- 性別では、女子は「人間関係が良い」を最も重視する一方、男子は「人間関係がよい」と同等に、「やりがいを感じられる仕事ができる」も重視しており、就職したい企業や団体の条件は男女で若干の差異がみられる。

図表 3.4. 就職したい企業や団体の条件（1位）

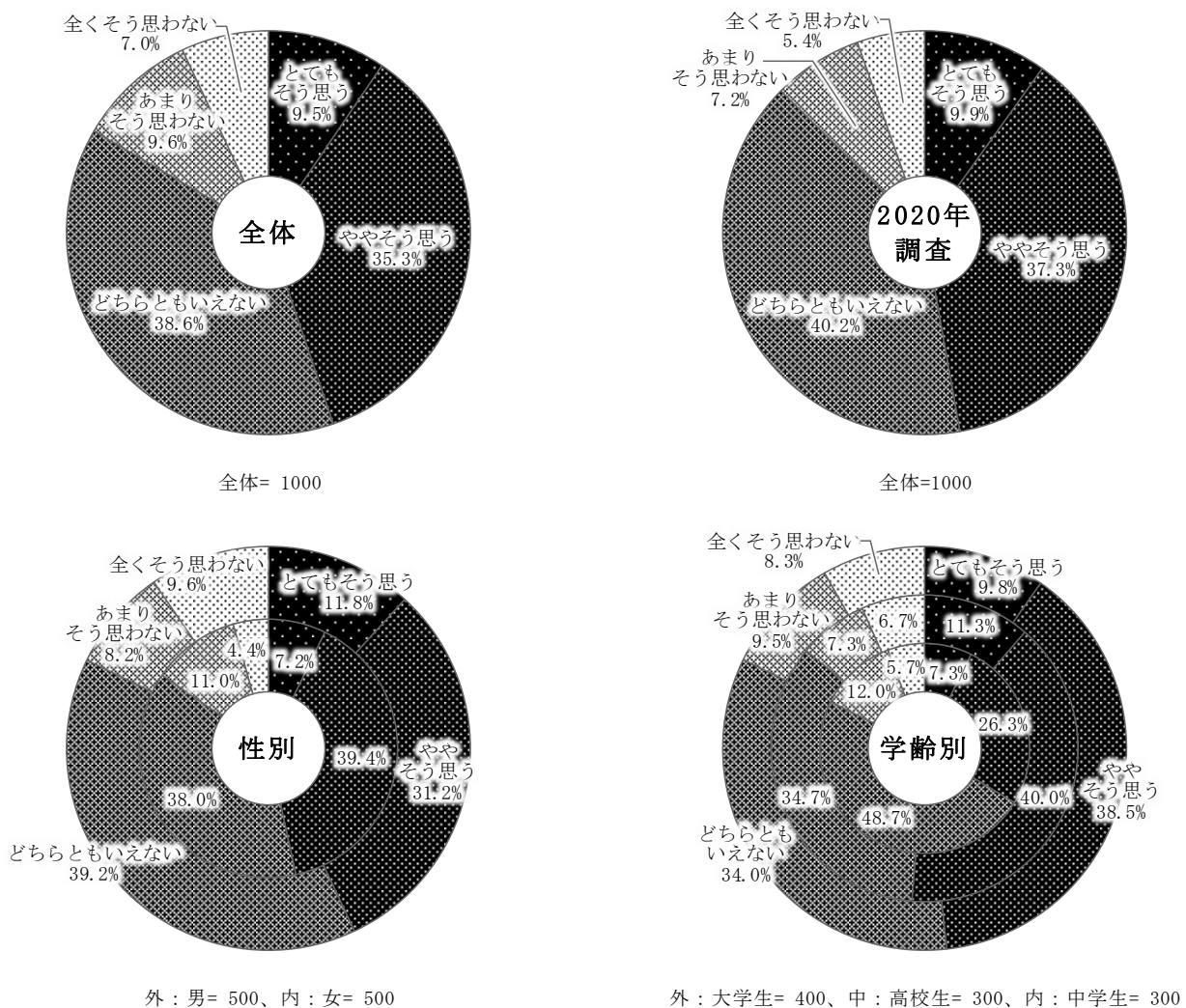


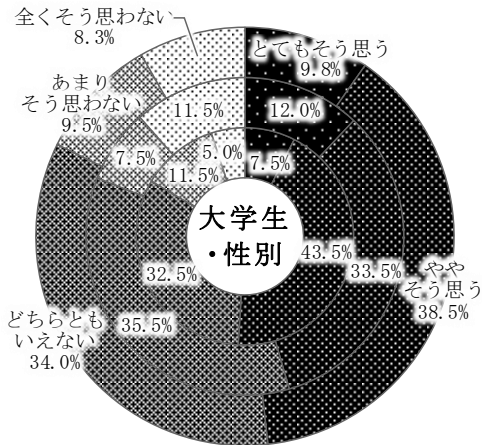
注 「その他」には、「自分の好きなスポーツのクラブチームがある会社」「やりたい分野」「好奇心が赴く仕事」があった。

3.5. 環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲

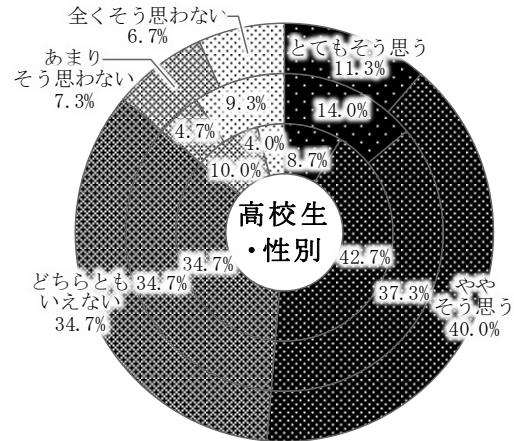
- 将来、環境問題や社会課題の解決に取り組んでいる企業や団体で働きたいか尋ねたところ、環境問題や社会問題に取り組んでいる企業で働く意欲（「とてもそう思う」「ややそう思う」）がある若者は、全体では44.8%と前回調査から概ね横ばいである。
- 性別では、男子が43.0%、女子が46.6%と、大きな差異はみられない。
- 一方で、学齢別では、大学生・高校生は約5割であり、中学生（33.6%）に比べて、環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲が高い。
- 経済状態別では、普通・苦しいと回答した若者が約4割であるのに対して、豊かと回答した若者が60.0%と、経済状態により環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲は異なる。
- 海外経験別では、海外経験がある若者（73.5%）が、海外経験がない若者（42.7%）を上回っており、海外で教育を受けた経験の有無により環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲は異なる。

図表 3.5.環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲（単一選択）

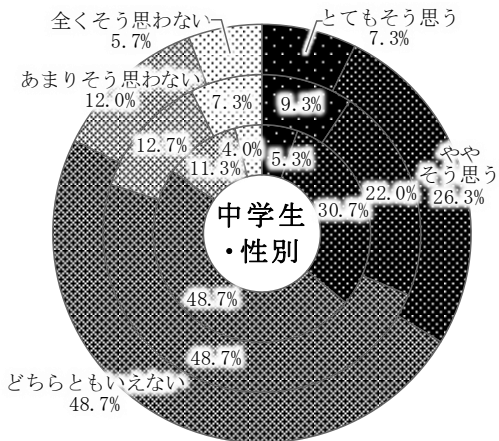




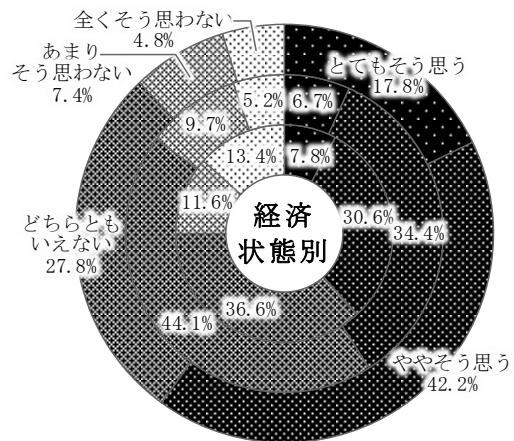
外: 大学生・全体= 400、中: 大学生・男子= 200、内: 大学生・女子= 200



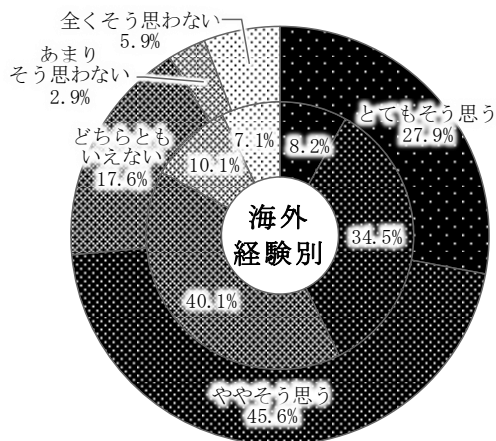
外: 高校生・全体= 300、中: 高校生・男子= 150、内: 高校生・女子= 150



外: 中学生・全体= 300、中: 中学生・男子= 150、内: 中学生・女子= 150



外: 豊かと回答= 230、中: 普通と回答= 538、内: 苦しいと回答= 232



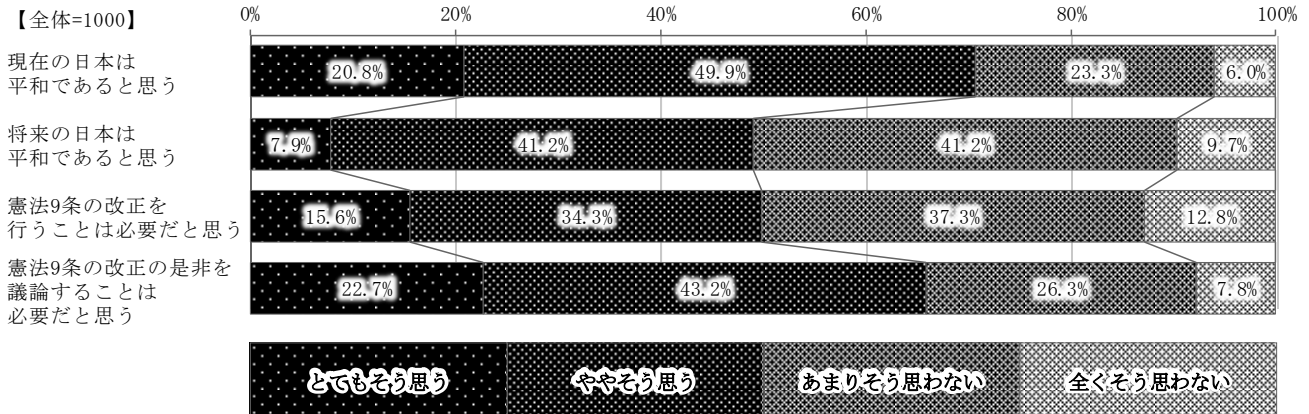
外: 海外経験あり= 68、内: 海外経験なし= 932

4. 平和に関して

4.1. 平和に対する意識

- 「現在の日本は平和である」と思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は全体の70.7%だが、「将来の日本は平和である」と思う若者は49.1%である。約半数の若者は、将来、日本が平和ではない可能性を感じている。
- 憲法9条の改正については、必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）が全体の49.9%、必要だと思わない若者（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）が50.1%とほぼ意見が二分している。

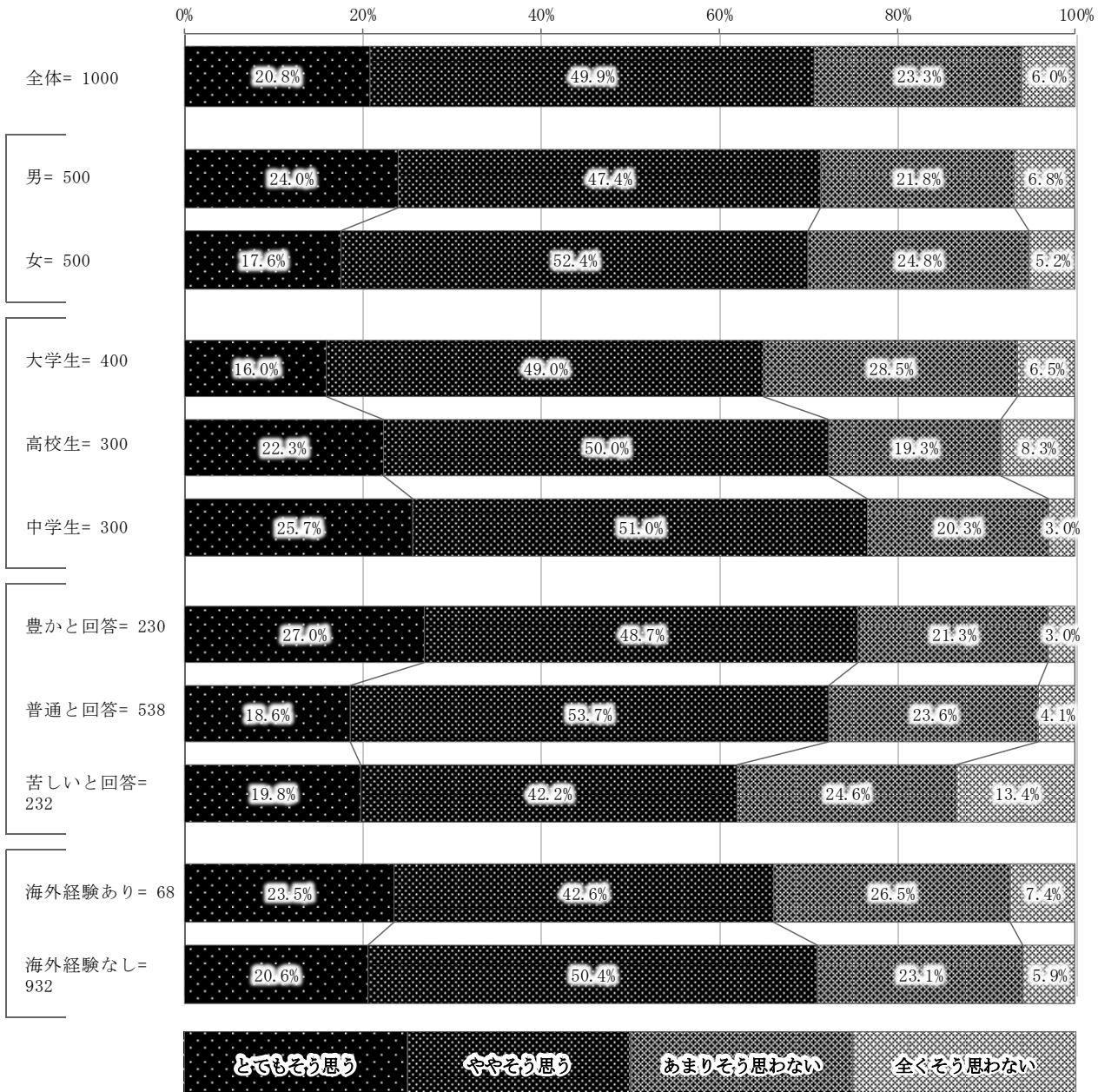
図表 4.1. 平和に対する意識（単一選択）



4.1.1. 現在の日本の平和に対する意識

- 現在の日本は平和であると思うか尋ねたところ、「現在の日本は平和である」と思う若者（「とても思う」「ややそう思う」）は全体の 70.7%である。男女差はさほど大きくないが、年齢があがるにつれて、「現在の日本は平和である」と考える割合が減少傾向にある。
- 経済状況別にみると豊か・普通と回答した若者と苦しいと回答した若者を比べると、苦しいと回答した若者ほど「平和ではない」と感じている若者が多い。

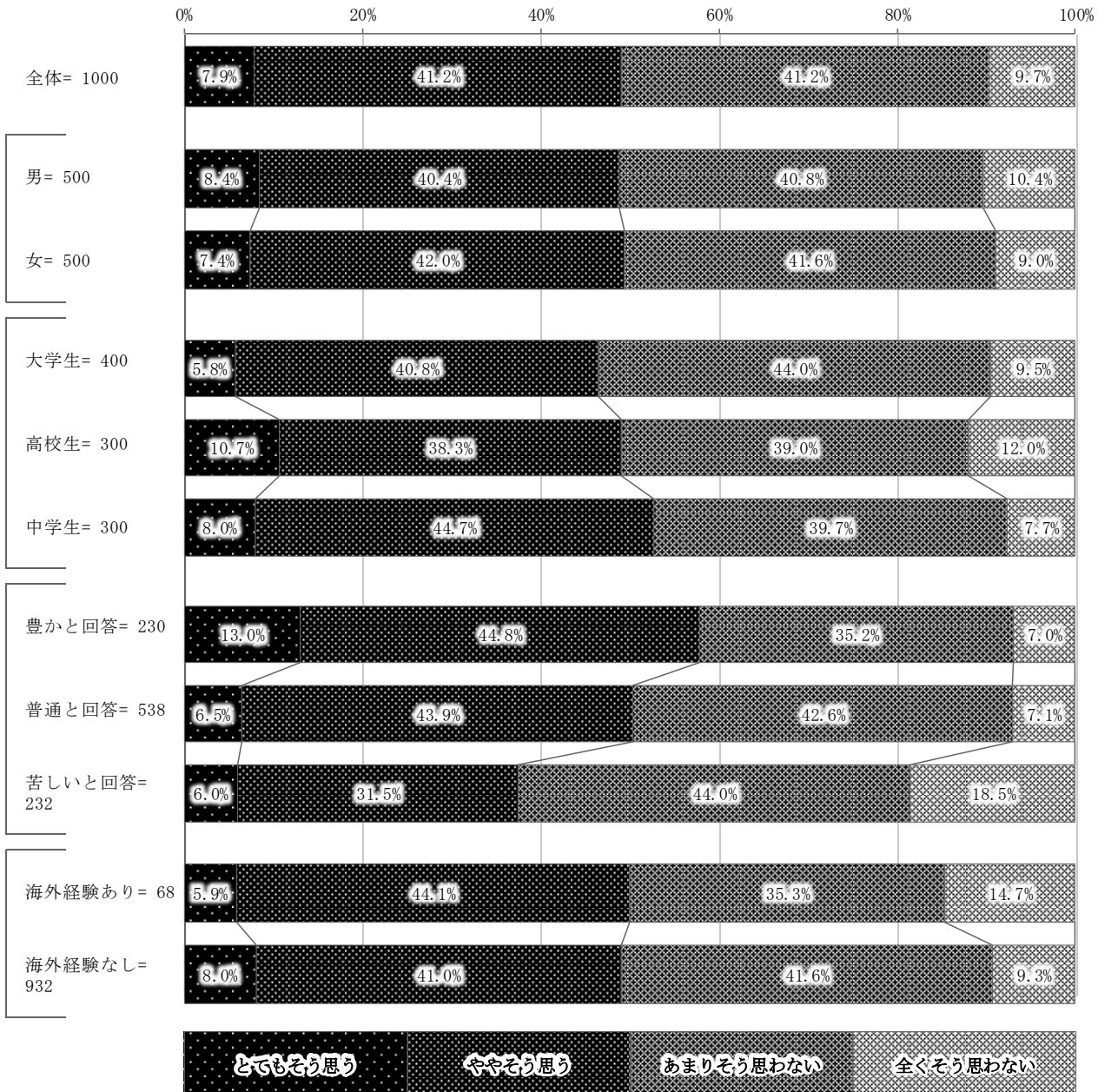
図表 4.1.1.現在の平和に対する意識（単一選択）



4.1.2. 将来の日本の平和に対する意識

- 将来の日本は平和であると思うか尋ねたところ、「将来の日本は平和である」と思う若者（「とても思う」「ややそう思う」）は全体の 49.1%である。男女差はさほど大きくないが、年齢があがるにつれて、「将来の日本は平和である」と考える割合が減少傾向にある。
- 経済状態別でみると豊か回答した若者（57.8%）は、普通（50.4%）、苦しい（37.5%）と回答した若者と比べて、「将来の日本は平和ではない」と感じている若者が多い。

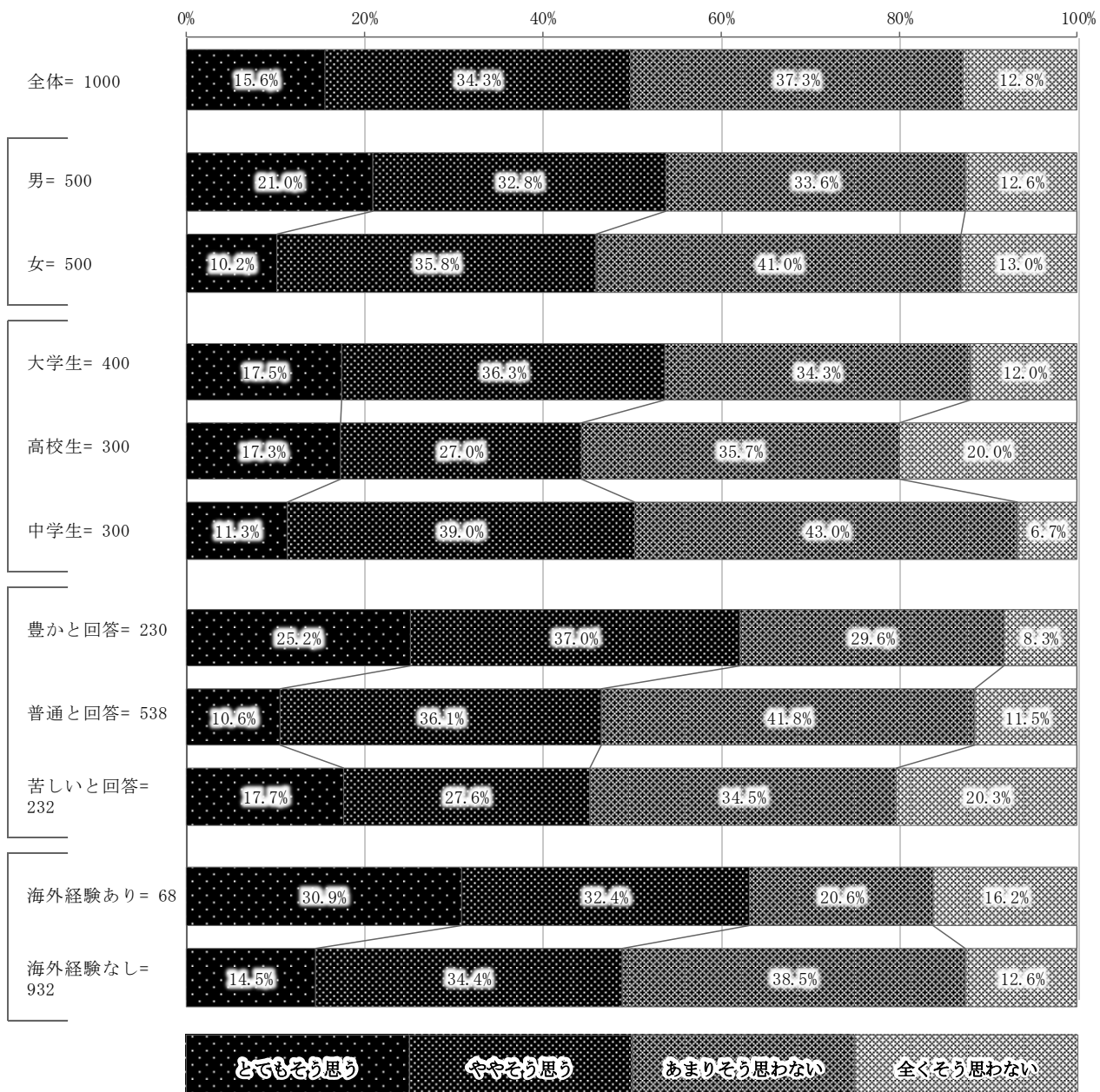
図表 4.1.2. 将来の平和に対する意識（単一選択）



4.1.3. 憲法 9 条の改正に対する考え

- 憲法 9 条の改正を行うことは必要だと思うか尋ねたところ、必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）が全体の 49.9%、必要だと思わない若者（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）が 50.1%とほぼ意見が二分している。
- 性別でみると男子（53.8%）のほうが女子（46.0%）に比べて憲法 9 条の改正が必要だと思う若者が多い。
- 経済状態別でみると豊かと回答した若者（62.2%）は、普通（46.7%）、苦しい（45.3%）と回答した若者と比べて、憲法 9 条の改正が必要だと思う若者が多い。
- 海外経験の有無別でみると海外経験ありと回答した若者（63.3%）は、海外経験なしと回答した若者（48.9%）と比べて、憲法 9 条の改正が必要だと思う若者が多い。

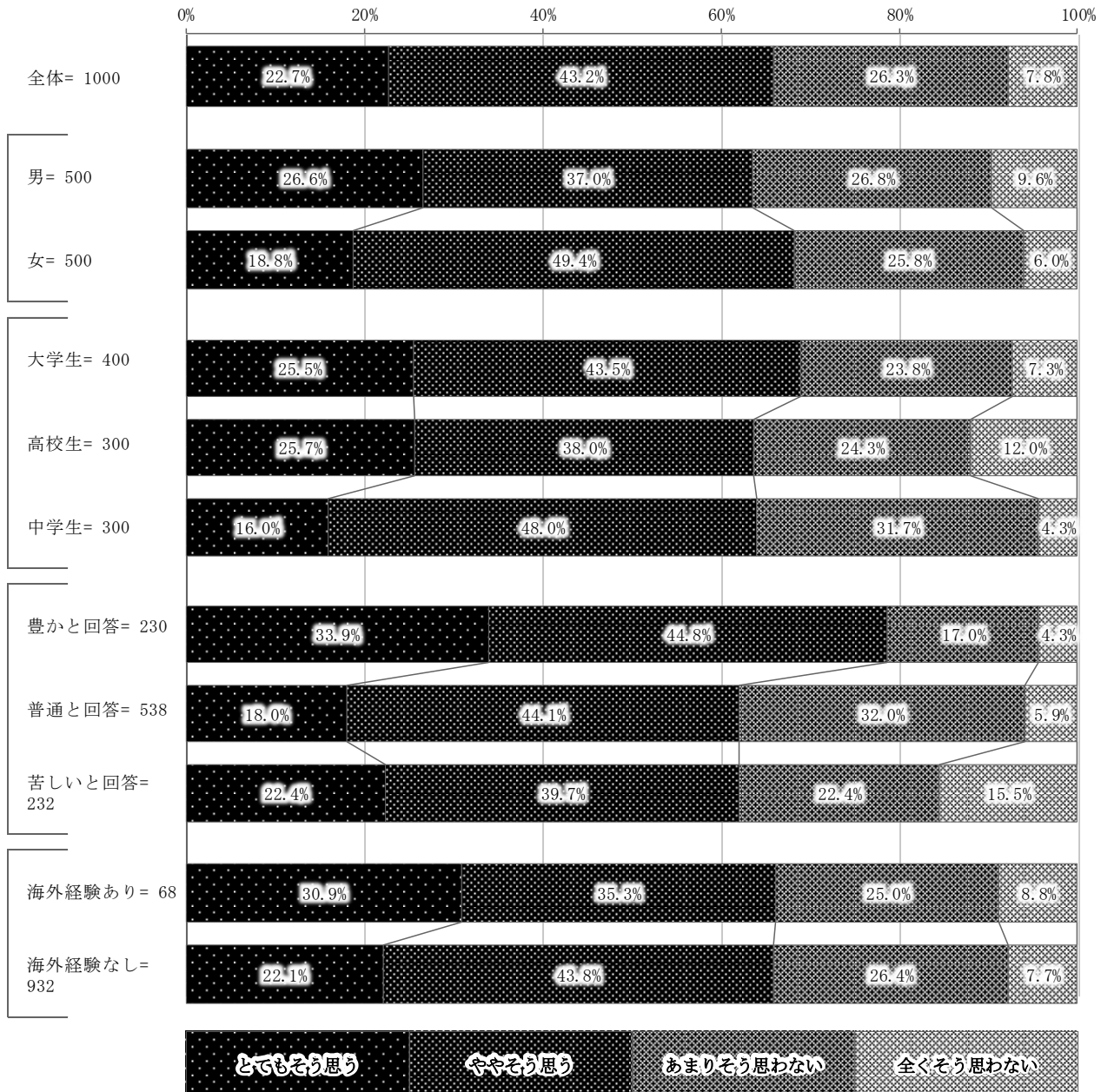
図表 4.1.3.憲法 9 条の改正に対する考え（単一選択）



4.1.4. 憲法9条改正の議論の是非に対する考え

- 憲法9条の改正の是非を議論することは必要だと思うか尋ねたところ、必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は全体の65.9%に上る。
- 経済状態別でみると豊かと回答した若者は、普通・苦しいと回答した若者と比べて「憲法9条の改正の是非を議論することが必要だ」と思う若者が多い。

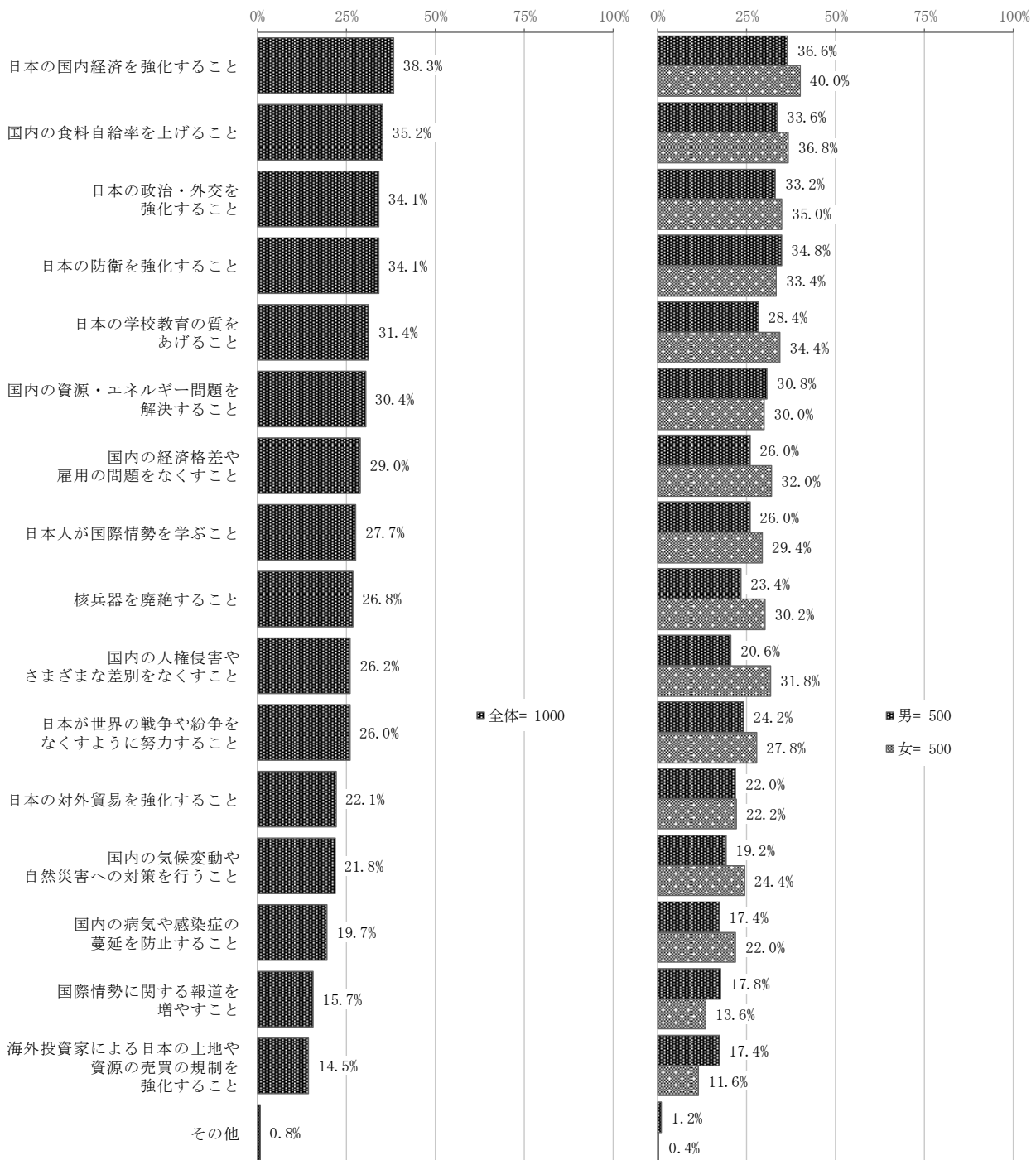
図表 4.1.4. 憲法9条改正の議論の是非に対する考え（単一選択）

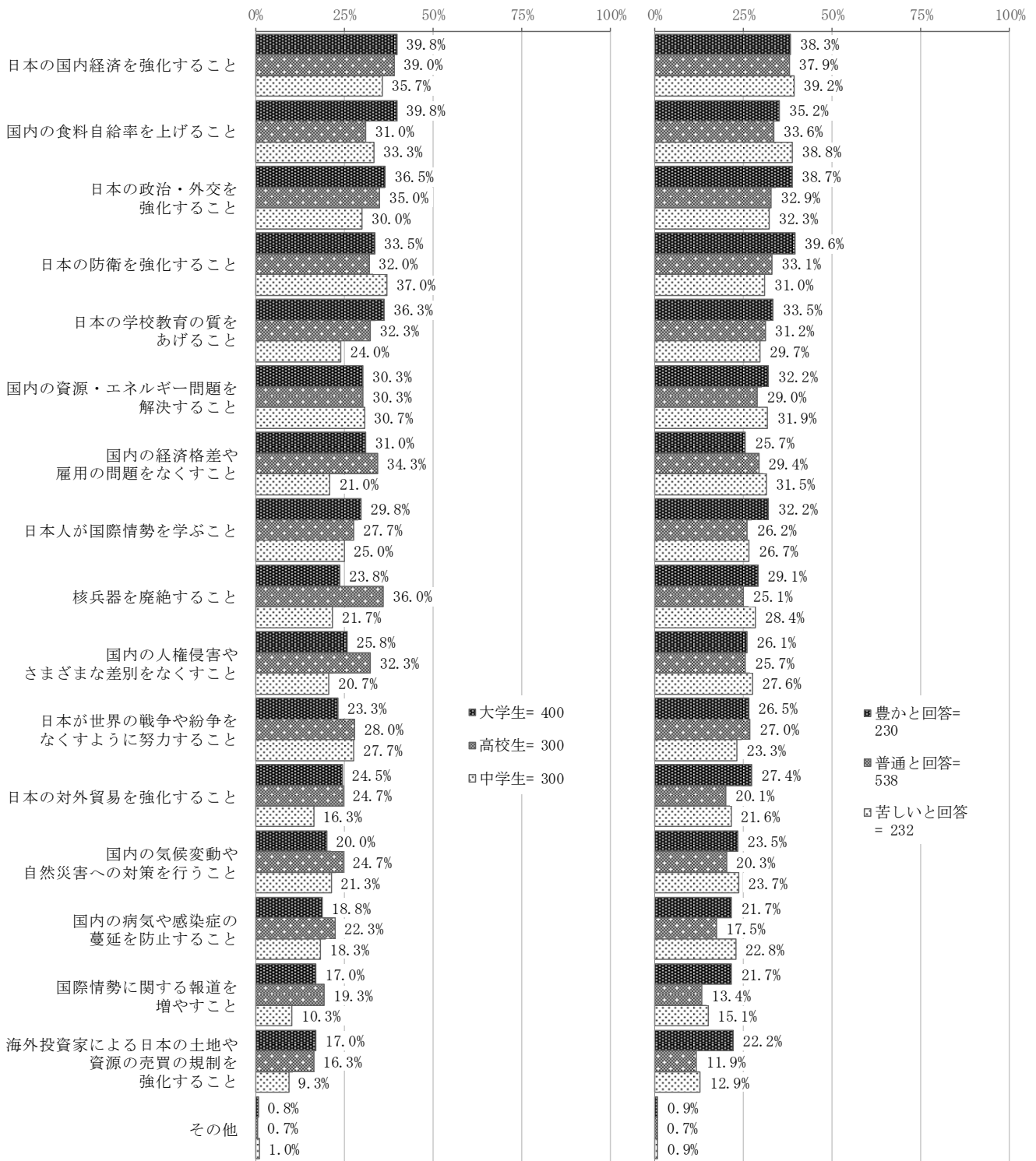


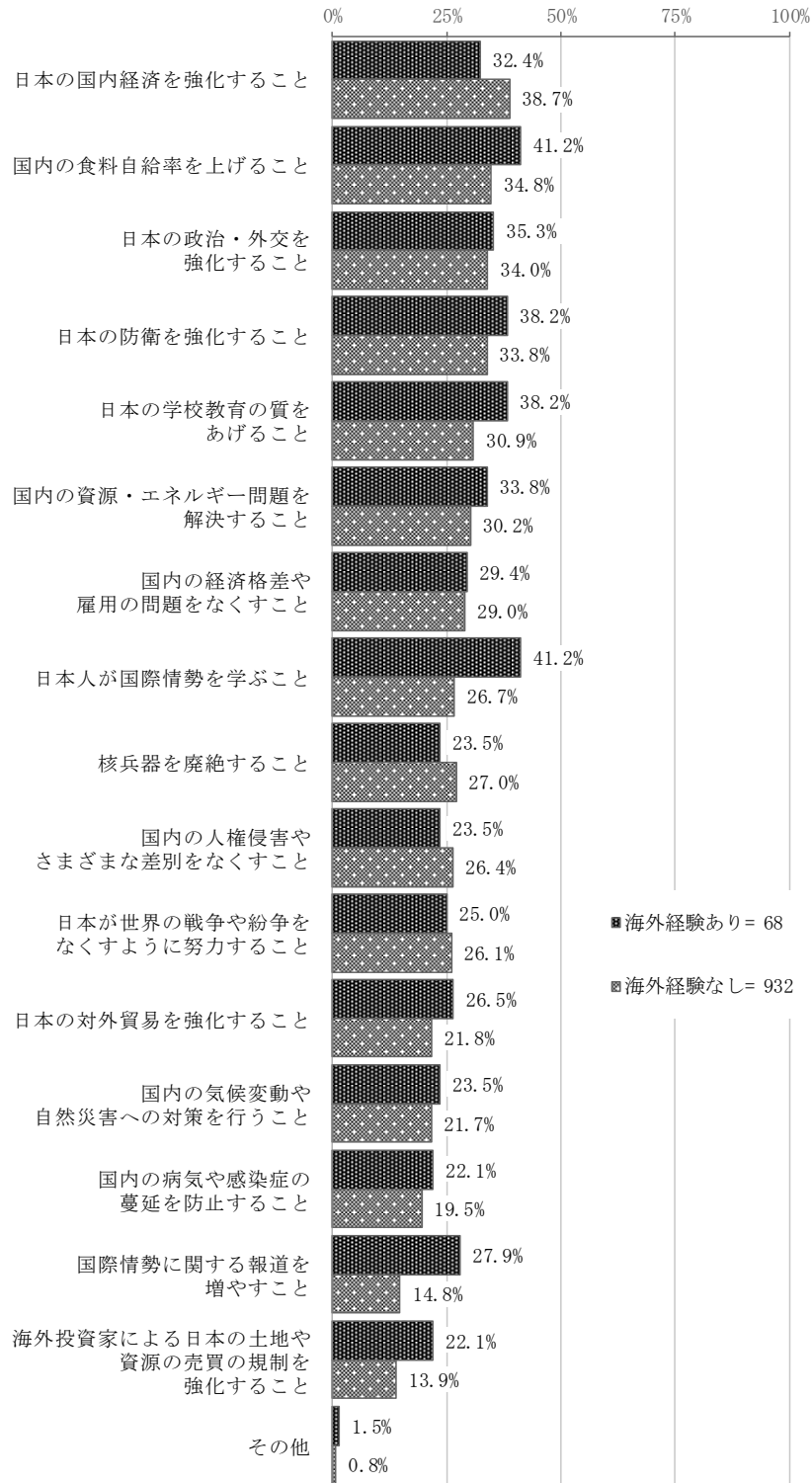
4.2. 日本の平和を守るために大事なこと

- 日本の平和を守るために大事なこととして、「日本の国内経済を強化すること」(38.3%)が最も多く、「国内の食料自給率を上げること」(35.2%)、「日本の政治・外交を強化すること」(34.1%)、「日本の防衛を強化すること」(34.1%)と続いている。
- 「日本人が国際情勢を学ぶこと」(海外経験あり 41.2%、海外経験ない 26.7%)、「国際情勢に関する報道を増やすこと」(海外経験あり 27.9%、海外経験ない 14.8%)については、海外経験の有無の差が大きく、海外経験のない若者に比べて、海外経験のある若者の回答率が高い。
- 「国内の人権侵害やさまざまな差別をなくすこと」(男子 20.6%、女子 31.8%)については、性別の差が大きく、男子に比べて女子の回答率が高い。

図表 4.2. 日本の平和を守るために大事なこと (複数選択)







注 「その他」には、「政治家やマスコミが真面目になること」「日本人の洗脳を解くこと」「核兵器を持つことを考える」「防災」「国の債務を減らす」「給料を上げる」「政治家を変える」「日本人がどうしたらより良い生活が出来るか考えること」があった。

日本の企業に対して日頃考えていること、感じていること、平和の維持や社会貢献、より良い社会づくりに向けて伝えたいメッセージ等の記入を依頼したところ、以下の回答を得た。

社会貢献に関すること（一部抜粋）同様回答 130 件

- SDGS に最近目を向け始めている企業が多いイメージである。特に環境汚染を中心にできたらいい。(高校生・女)
- SDGs のためにやっていることが環境のどの部分に貢献しているのか教えて欲しい。(大学生・女)
- SDG にいろいろ取り組んでいるのですが、実はどの企業がどんなことをやっているのか、我々にはわかりにくいです。(中学生・男)
- どういった対策しているか分からない。(中学生・女)
- パフォーマンスではなく真摯に取り組んでほしい。(中学生・女)
- いろんな企業がもっと協力すれば大きいことができると思う。今は大企業の活躍しか目立たない。(大学生・女)
- もっと環境問題に真剣に取り組んでほしい。(高校生・男)
- もっと環境問題に積極的に取り組むべき。政府に働きかけていない。(大学生・女)
- 官民一体で気候対策に取り組むべき。(大学生・男)
- 環境にやさしい製品やサービスの推進をお願いします。(中学生・女)
- 環境ばかりを考えすぎないでほしい無責任なクリーンエネルギーの活用を止めるべき。(大学生・男)
- 企業が率先して社会を引っ張って行くべきだと思う。(高校生・女)
- 企業は、責任を持って SGD_s に取り組まなければ、将来自分達につけが回ってきます。待ったなしの状況であると思います。(中学生・男)
- 企業も率先して社会貢献活動を行うべき。(高校生・男)
- 国民に対して、政府はプラごみを減らせとかいってるが、企業にももっと減らせるところはあると思う。例えば、物の過剰包装など。(大学生・男)
- 持続可能な社会にむけて、会社として取り組んでほしい。(大学生・女)
- 次の世代のことを考えてほしい。(高校生・女)
- 自分たちの利益のために経済活動を行うのではなく、日本の経済、平和のための活動を積極的に行うべきだ。(高校生・男)
- 自分たちの利益のみを考えるのではなく、もっとメセナやフィランソロピーなど、外部に対して行う活動を増やした方が良いのではと思う。(高校生・女)
- 自分の利益だけではなく事業の影響で害を受ける人がいないか、不平等な扱いを受ける人がいないかを考えるべき。(大学生・女)
- 利益も勿論大事ですが勤務者のことや社会、環境のこともよく考えて事業をされることを願っています。(高校生・男)

企業姿勢に関すること（一部抜粋）同様回答 165 件

- トップの権力を強くすべき。フットワークが重すぎる。特に大企業。(高校生・男)
- もう少し社会に発信すべき。(高校生・女)
- もう少しグローバルにやってほしい。(大学生・男)
- もっと海外に向けてなど広い視点を持つべき。(大学生・女)
- これからの日本を担っていく若者に投資してほしい。(大学生・女)
- もっと新しいベンチャー企業が出てくるべき。(高校生・男)
- 海外に日本独自の技術や製品がとられたり、東南アジアのタイなどの国が急成長を遂げている中、

日本が行える取り組みを是非続けて、他国に足を取られないようにしてほしい。また、若い世代が日本を担えるように、経済や企業についての知識を教える場を設けてほしい。(大学生・女)

- 海外もいいけれど、日本人のいい所、モノを産み出す力を強化して欲しいです。そうするとまた、強い日本が戻ってくると思います。(中学生・男)
- 海外企業に負けないようにもっと強化すべき。(高校生・男)
- 海外進出を行うのは良いが、有事の際のリスクをよく考えるべき。(大学生・男)
- 海外勢力に負けないで欲しい。(高校生・女)
- 確かな技術力がありますが、それを宣伝する力が弱いと思います。世界シェアクラスの商品の中身等に日本の部品がつかわれていることがあるのにもかかわらず、メーカー、マスコミともにそれを宣伝していないのが気に食いません。(高校生・男)
- 革新的な技術開発ができるように、研究をもっと頑張ってもらいたい。(中学生・男)
- 企業は株主のものなので、一投資家として、もっと我々に利益を還元してほしい。(大学生・男)
- 取り組んでいる会社は多いのに一部しか認知されていないように感じるのもっとメディアや SNS をつかって若い人に向けて発信したらいいと思う。(中学生・女)
- 新しい製品を生み出して経済を活発にしてほしい。(中学生・男)
- 子どもの未来に希望を持たせてほしい。(中学生・男)
- 世界のトップレベルの企業を作れるように頑張ってください。(高校生・男)
- 世界の企業と肩を並べられるような力をつけていただけると日本がより豊かになり、日本国民がより快適に過ごせるのではないかと思います。(大学生・男)
- 世界の中で存在感のある企業になって欲しい。(中学生・女)
- 責任感をもう少し感じて欲しい。(高校生・女)
- 戦争をしようとしている国の政治家とは、交流や経済協力をさせてほしい。(中学生・女)
- 多国籍で連携してもらって事業ができればいいと思う。(中学生・女)
- 大企業ばかり物事が優先されているのではないかと、中小企業にも目を向けて欲しい。(大学生・女)
- 日本国内の経済についても考えてほしい。(大学生・男)
- 不正はやめてほしい。(大学生・男)
- 不正や賄賂などをしていないか監視していく必要がある。(大学生・女)
- 利益確保のための安易な海外移転を控えてほしい。また、移転先の国を将来的に危険になるかどうか考えてから決定してほしい。(大学生・男)

製品・サービスに関すること (一部抜粋) 同様回答 55 件

- いい製品を作っているのだから、他国に技術を盗まれないようにすべき。(中学生・女)
- エコや環境のことを考えた製品を作ってもらいたい。(中学生・女)
- ものを安くして欲しい。(高校生・男)
- 安くてもいいものを作ってもらいたい。(中学生・男)
- 相手の立場に立ったサービスや雇用環境の提供をしてもらえたらなと感じる。(大学生・女)
- 値上げや内容量が減るのは許容できますが、経済状況が回復したら元に戻してください。(大学生・男)
- 日々新たな開発をして日本の発展にとっても貢献していると思う。(高校生・女)
- 日本の企業だから安心だという概念をそのまま残してほしい。これからは質の良い商品を多く提供してほしい。(大学生・女)

労働環境・雇用・賃金に関すること (一部抜粋) 同様回答 160 件

- 工場などで働く方を安い給料で働かせすぎ。(高校生・女)

- もっと自由な働きかたができるようなようにして欲しい。(高校生・男)
- 休暇が取りづらいとか、休まず働いている人間が偉いという風習は時代遅れ過ぎる。もっと視野を広げてほしい。(大学生・女)
- 給料を上げて欲しい。(大学生・男)
- 給料を上げて欲しい。セキュリティをもっと上げて欲しい。リスク回避できる人を上司にしてほしい。(高校生・女)
- 給料水準が30年ほど前と変わっていないのもっと有能な従業員を評価すべきである。(大学生・男)
- もっと福利厚生やモチベーションアップに努めたほうがいいと思う。(大学生・女)
- 若い労働者(新入社など)に対してのサポートをもっと手厚くしてあげてほしい。(高校生・女)
- 採用率を上げてほしい。(大学生・女)
- 残業は、やめた方が良く。(中学生・女)
- 賃上げを行い、日本経済の好循環を行う先陣をきるような企業が生まれるべきだと思う。(高校生・男)
- 働き方改革をもっと積極的に企業が行った方が良い。(高校生・男)
- 雇用を増やして欲しい。(中学生・女)
- 雇用環境、待遇などの見直し、給料の改善、手当の改善、働き方の多様性。(中学生・女)
- 労働環境を改善してほしい。(大学生・女)
- 労働者に優しくない。同一労働同一賃金になっていない。(中学生・男)
- 労働者の意志を尊重する。(大学生・男)
- 就職試験で、学歴ではないところをみて欲しい。(中学生・男)
- 終身雇用とジョブ型雇用の両立を図るべきだと思う。(大学生・男)
- ジェンダーレスな社会を作り上げてほしい。(中学生・男)
- SDGsがただの宣伝になっていると思うから、働く人の環境を第一に考えてもらいたい。(大学生・男)
- 溜め込まないで社員還元。(中学生・女)
- どの企業でも給与や休日の最低をきちんと保障してほしい。(大学生・女)
- パワハラとかブラック企業とか怖いから本当にやめてほしい。(高校生・女)
- さまざまな条件の中より働きやすい環境が増えていけば良いと思います。(高校生・男)
- いろいろなものの値段が上がっているのだから、給料もそれに合わせてあげてくれないと、若い世代は暮らしていけない。(中学生・男)
- 若い人にお金を回してほしい。(大学生・男)
- 内部留保を少なくして社員に還元してほしい。(大学生・男)

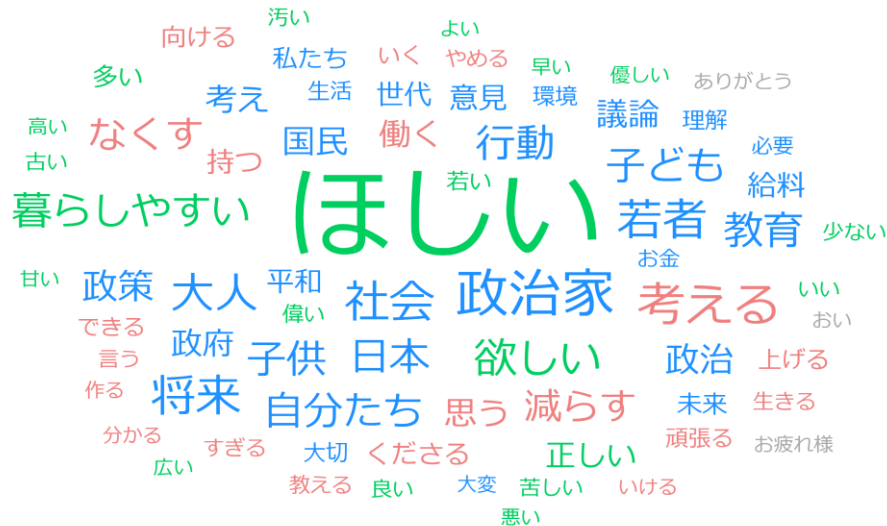
■ 激励や高評価(一部抜粋) 同様回答 62件

- 頑張って色々作ったりしてくれて毎日美味しいものが食べられる。(中学生・女)
- 頑張っているとおもう。(中学生・男)
- これからの未来に対して貢献している姿が素敵です。応援しています!!(高校生・女)
- いつもたくさんの人のために時間を削りながら仕事をしてくださりありがとうございます。(高校生・女)
- より良い事業をしていてありがたい。(高校生・男)
- 今行っていることは良い事だと思うから、続けて言って欲しい。(大学生・女)
- 支えてくれている。(高校生・女)
- 十分にやっているのだからこれからも無理のない範囲で頑張ってもらいたい。(大学生・男)

- 税金が大変だと思いますが、日本の経済発展のために頑張ってください。経済が良くなれば、日本も良くなる。(大学生・男)
- 値上げやコロナなどの経済不況の中頑張ってくださいありがとうございます。頑張ってください。(高校生・男)
- 日常生活において必要不可欠であると思う。(高校生・女)
- 日本が豊かになるように頑張ってください。(中学生・女)

5.2. 大人たちに向けたメッセージ

次世代からのメッセージ (大人に向けたメッセージ 頻出ワード)



大人たち（政府、政治家、先生、家族、親戚など）に対して日頃考えていること、感じていること、平和の維持や社会貢献、より良い社会づくりに向けて伝えたいメッセージ等の記入を依頼したところ、以下の回答を得た。

社会全体・政治等に関すること（一部抜粋）同様回答 322 件

- エネルギー問題を解決してほしい。国会で、ワイドショーみたいなことをしないで、さまざまな議論を進めるべき。（中学生・女）
- お金だけでなく、もっと生活の質が高まるような趣味を充実させた生活を心がけてほしい。（中学生・女）
- お金を回そう。（大学生・男）
- これから先が明るい未来であると希望が持てるような行動を見せてほしい。（中学生・女）
- なぜ増税ばかりするのか。国民を苦しめることばかりしている。（中学生・女）
- ニュースとネットでみると政治家などお金の無駄使いしてるなと思います、自分の仕事以外で使うお金だったら、それを困ってる家庭など（貧困）の人に当てればいいと思います。（中学生・男）
- みな自分の生活に精一杯で余裕がない。余裕のできる社会を目指してほしい。（中学生・男）
- もっと日本のいい所を生かすべきだと思う。（高校生・男）
- 何も期待していない。（高校生・男）
- 悪いことばかりする政治家のような大人が多い。もっと皆が住みやすい国づくりをしてほしい。（中学生・男）
- 我々は日本の国民として、地球に住む 1 人の住人として、移り変わる時代の中で絶えず変化する相対的な政治と真摯に向き合い考え、そして動かなければならない。（大学生・男）
- 画一化されすぎている。右ならえ的な古い体質は未来的に良く無い。日本の古き良き文化、伝統を大切にしつつ新しいものとの融合に対して柔軟に考えるべき。（中学生・女）
- 環境についてもっと考えるべき。（大学生・男）
- 環境問題や国内の問題を他人事だと思わずに、できることを 1 人ひとりがやるべきだと思う。（大

学生・女)

- 基本的に自分達の今や少し先のことしか考えていない。未だ生まれていない世代のことなど到底考えていない。また、変化を嫌う。そのため、給与だけもらいながら、ただ作業するだけ、政治家などは議会にただ出席しボケーとするだけだ。(高校生・男)
- 居眠りしたりしようもない事で議論している時間があるなら、異様に高いお給料を環境保全団体への募金や福祉の充実に充てたらいかが？(大学生・女)
- 経済格差を少なくして欲しい。お金は貯め込むものじゃなくて程よく使っていくものだと思う。(高校生・女)
- 経済的に苦しくなっている状況を政府は把握出来ていないのではないか。(大学生・女)
- 高齢者のためじゃなく若者のための政治をしてほしい。若者が政治に関わらない理由のひとつが投票してもどうせ変わらないと思っているから。私も有権者となったけど応援したいと思える政党がないのが凄く残念です。自民でさえもう応援する気持ちが失せてきました。毎年出生率が、少子化がと言っているけど前からどんどん悪くなることは分かっていたはずで、それなのに回復する兆しがないのはどうかと思う。日本が好きだけど将来は暗そうで本当に悲しいです。自分の利権ばかりを気にする人じゃなくて日本を本気で想う人が国のトップに議員になってほしい。(高校生・女)
- 国会議員は会議中寝ないでほしい。(大学生・女)
- 国民全員が生活に困っている。非課税世帯だけでなく全ての国民に給付金をお願いします。(中学生・男)
- 差別や偏見をなくしていく。(大学生・男)
- 最近、投資の話ばかり言ってる。大人も分からないのに、私たちはもっと分からない。お金の話を曖昧にするから、いろんな分からないことが多すぎる。(中学生・女)
- 子供が飢えたり苦しんだりする必要のない社会にしてほしい。(高校生・女)
- 子供たちに言っていることと大人たちがやっていることが違いすぎる。(中学生・女)
- 持続可能な社会にする取り組みを評価し、社会制度にしてほしい。(大学生・女)
- 自分のことしか考えてないと思う。未来の見通しが甘い。(大学生・男)
- 自分の保身ばかり考えないで、日本の将来を考えられる若い政治家にその席を譲ってください。早く。日本が他の国に攻め込まれないうちに。(中学生・男)
- 社会貢献活動や政治的活動をするかどうか決める権利は個人にあるので政府が何かに強制的に貢献させたり、家族や先生が子供たちにそれを強制的にやらせてはいけない。ボランティアはやりたい人だけやればいい。(高校生・男)
- 弱者を騙すことなく平等な社会を創り上げてもらいたいと思います。(高校生・男)
- 食品ロスについてももう少し考えてほしい。(大学生・男)
- 食糧自給率を上げて欲しい。(中学生・女)
- 身なりだけでなく、子供達の模範となるような大人でいてください。学校を卒業したら学生でなくなると考える人が多いかと思いますが、僕は「学ぶ」ことに関して人は一生学生であると考えています。向上心を胸に未来の子供達のためにもより良い社会を築いていってください。(高校生・男)
- 身近な平和があったとしても、この国の将来性について様々な人が議論しているところを見て学生である私たちまで不安になっている。(高校生・女)
- 人の顔色ばかり伺って働いている大人を見ると見苦しいと感じる。昭和の考え方を押し付けてくることはいい加減やめてほしい。どれだけ自分の考えが時代遅れか、人の迷惑になっているのかちゃんと考えてほしい。(大学生・女)
- 世代を主語にして軋轢を生むような言動を控えてほしい。悲観的な物事の見方を流布しないでほしい。(大学生・男)
- 性別適合手術を保険適用にしてください。(大学生・男)

- 政治家に世襲が多すぎて日本経済が膠着化している。(中学生・男)
- 政治家に対して、何のために国の代表として存在しているのか改めて考えて欲しいところがある。(国会で居眠りをしたり、国会議員であるのに国家に参加しないなど)。(大学生・女)
- 政治家の給料が高すぎる。もっと税金に回して欲しい。なんでも話しやすい大人がそばに欲しい。(高校生・女)
- 政治家はもっと大事なことについて議論してほしい。また、居眠りなどをするなら政治家をやめ、若い人が就任した方が日本にとって有益である。(大学生・男)
- 政治的な話題をタブー視せずに、身近なものとして日常的に話し合うことができる雰囲気づくりをしてほしい。(大学生・女)
- 政府がただただ企業に最低賃金の値上げを行うだけでなく、その分政府も企業に対して支援などの対策が必要であると考え。なぜなら、最低賃金を上げた結果雇う人数を減らしたりした結果、失業する人も増えてくるのかなど考えたからである。自分たちの利益ばかり考えていないで、視野を広く持って欲しい。貧富の差を縮めるためという政策も自分は頑張って働いた人が損をしているような気がする。だから脱税する人がたくさんいるのではないのかと思う。(高校生・女)
- 政府は、利益のある特定のところのために、自分の政治団体のために政治をしている、裕福ではない普通の国民の立場になって、自分たちの給料を減らすとか、議員定数を減らすとかして経費を減らしてほしい。(中学生・女)
- 政府はその場しのぎの対策しかしないので今後を見据えて対策を行って欲しい。(大学生・男)
- 誠実であって欲しい。(高校生・女)
- 頭ではより良い社会をつくるぞと分かっているが行動には写せてないと思います。(高校生・女)
- 特に為政者、岸田さんとかしか検討しかしない人とか、意味のない国葬やった人とか、あと3年は自民党の天下だから好き勝手やんでほしい。勝手に水道民営化とかなめてる。ライフラインを私企業に委ねるのではないわ。(高校生・男)
- 日本に還元するような金儲けをする。現物主義で、具体的には食料自給率に絡めた政策とともにプロジェクトを考えてほしい。将来への希望がないので、疲れない金銭の稼ぎ方を教えてほしい。(大学生・男)
- 日本の政府は終わっていると思う、若い人たちを殺すつもりなのかなって思うときがある、少子高齢化が加速してる中で高齢者に向けた政策ばかり行うし、物価上昇してるのにさらに増税なんてしたら経済は回らないし、養育費もないんだから子供も増えるわけない。そのくせ高い給料もらってる政治家。税金でこのうとうと暮らしてんの腹立つ。全員終わり。(大学生・女)
- 平和でいるための努力を続けてほしい。(中学生・男)
- 率先して社会貢献活動を行うべき。(高校生・男)
- 環境問題に取り組んでいない。自分たちは死んでいるからと思っているのか、子どもたちに任せようとしているんじゃないか。まったく大人を信用できない。不祥事に対してもきちんと誠意をもって対応してほしい。金で解決とかが一番最悪。(大学生・女)

労働環境について (一部抜粋) 同様回答 12 件

- 給料上げてほしい。(大学生・女)
- 給料上げろ。(大学生・男)

個々の大人へのメッセージ (一部抜粋) 同様回答 67 件

- いじめを見ないふりしないでください。(高校生・女)
- お金を儲けるために悪いことをしては駄目だと思う。(中学生・女)
- ハラスメントなどを上の立場の人からなくして欲しい。(大学生・女)
- もっと政治に関心を持って、真面目に投票してほしい。(高校生・男)

- 人間性を疑うようなニュースが多すぎる。しっかりしてほしい。(中学生・女)
- 政治に興味を持って！今の日本はやばいぞ！（高校生・男）
- さまざまな事柄についてもっと誠意を持って接するべきである。それは、いかなる対象であっても態度を変えるべきではないとも言える。(大学生・女)
- もう少し柔軟な考え方をしてほしい。(高校生・女)
- 卑劣や姑息、違法な手段はやめてほしい。(大学生・男)
- 不正・腐敗を無くすように。(大学生・男)

次世代への要望（一部抜粋）同様回答 151 件

- 自分のことで手一杯になり複雑な国際情勢や経済等を知らないもしくは自分の意見を言えないくらい理解してない子供が多いと思う。ニュースと一緒に見たりその類の話をして理解を深めたり、どうなんだろう？と自分から考えたりできるよう誘導する必要があると思う。そういう機会が家の中でもあんまりないと余計話しぶらい。自分1人だけが興味を持ってもなあ、と思ったことがあった。(高校生・女)
- もっと子ども達への接し方を意識した方がいいと思う。(中学生・男)
- もっと子供が直面している苦しみに目を向けてほしいです。それは些細なことが多いので、厳しい教育と時代の中で育ってきた大人の方々には到底理解し難いことだと思います。しかし、もし子供の将来を案じたり、楽しく生きて欲しいと願ったりする人が居るならば、子供が直面している苦しみを理解はせずとも、せめて「甘えだ」「他の人は…なのに」などとは言わないであげてほしいです。(高校生・女)
- もっと私たちのことを見てください。(大学生・男)
- ゆとり世代で失敗したからといって、自分たちの世代に厳しくなるのはまちがっていると思う。(中学生・女)
- 学校教育を良い方向にしようとするのはいいが、履き違えていることが多く、若者の意見も取り入れた方がいい。(高校生・男)
- 教育に力を入れてほしいです。(高校生・男)
- 教育格差や貧富の差をなくす。(中学生・女)
- 経済的に苦しい若者が多く、将来のことまで考える余裕がありません。結婚や家庭を持つことへのハードルも上がっています。不安なく過ごせる世の中にしてください。(大学生・女)
- 古い考えを捨てて、時代に合わせてほしい。若者が大人にあわせるのではなく、みんなで時代にあって柔軟になろう。(大学生・女)
- 今の子ども達のことをちゃんと見据えて政策を立てて欲しい。ご老人の方ばかりに政策が行っていて、今の若者が将来苦しむことがわかりきっている。ちゃんと見て欲しい。(大学生・女)
- 子どもたちの教育のあり方をもっと考える。(大学生・男)
- 子どもの方が正しい行動・言動をしていると感じる場面を、テレビでも街中でもよく見かける。悪いことをしている人の印象の方が強く残ってしまうので、子ども達のお手本となるような行動・言動をするように心がけてほしいと思うし、自分自身もそんな大人になりたいと思う。(大学生・女)
- 子どもの力も信じてください。(中学生・男)
- 子どもを大切に育んでほしい。昔は一般的であったそうだが、躰と称して暴言や暴力を加えるのは虐待であって教育ではない。幼い頃の経験は意外と記憶や印象に残っているもので、周囲の大人の心無い行動を子どもはよく見ていて深く傷つくこともあるだろうと思う。この周囲の大人とは主に家族と学校の教員である。あくまで私自身の経験だが、人格形成と知識定着の場である教育機関において本当に生徒のことを考えて行動するような教師が少なかったと感じる。子どもだからと意見を軽んじられたり教師側の考えを押し付けられたことがある。たくさんの人の前で罵倒されたこともある。このような行動は教育者としてふさわしくないと思う。子どもを慈しみ寄り添ってくれる

- ような教育を目指して行ってほしいと思う。(大学生・女)
- 子供にはダメだというのに大人がしていることがあるので、ちゃんとしてもらいたい。(中学生・女)
 - 子供の見本となるようにしてほしい。(高校生・男)
 - 子供の手本になって欲しい。(中学生・男)
 - 次世代のことを念頭に置いて行動を。(大学生・男)
 - 社会貢献へ参画するための情報をもっと提供してほしい。(中学生・男)
 - 将来に対して無責任にならないで欲しい。(大学生・男)
 - 将来のことを考えて行動してほしい。(中学生・女)
 - 日本の子どもは先進国のくせに恵まれてない。もっと子どもを大切にしてほしい。子どもの意見を形式的に聞くだけではなくちゃんと取り入れて欲しい。そして大人たちにとっては人生のほんの数年かもしれないけど私たちにとっては人生で 3 年しかない高校生活なのになぜこんなに悲しい思いをしないといけないのか。とにかくコロナ対策を見直して。コロナにかかってない人の方が珍しくなってきた。こんなに制限する必要はない。学校の教育もよくない。もっと社会に出てから使うことを必須科目にするべきだ。投資の方法、確定申告や税についてなど、これらを学べないから日本は成長しない。そしてもっと働きたいと思う環境を作れ。1 部の頭の悪い人間のせいで日本は最悪すぎる。(高校生・女)
 - 日本の子供のことを考えると教育の仕方などもう一度考え直して欲しい。日本の教育はもっと自由に積極的に学ぶという考え方がなくなってないからだ。(大学生・女)
 - 老人などの人たちだけの政治をしないでほしい。若者と日本の未来を考えてほしい。少子化を本気で止めないと日本は停滞すると思う。(高校生・男)

激励や高評価 (一部抜粋) 同様回答 47 件

- わたしの知らないことがたくさんあるとは思いますが、世の中の考え方はこの数年で良い方向に進んでいると思います。環境のことだったり、人間関係のことだったり。それを作ってきたのは今の大人の方々だと思うので、本当にありがたいと思います。これからの世代でもっとよくしたいと思っています。(大学生・女)